

平成27年度第7回SPODネットワークコア運営協議会 議事次第

日 時：平成27年12月21日（月）14：15～15：50

場 所：愛媛大学 校友会館2階 サロン

議 題：

1. 平成28年度SPOD事業計画について

- ・平成28年度SPOD事業計画（案）【資料1－1】
- ・SPODフォーラム2016の開催について（案）【資料1－2】

2. SPOD事業経費について

- ・平成28年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費（案）【資料2－1】
- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業経費執行状況【資料2－2】

3. 平成28年度SPOD内講師派遣について

- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧（案）【資料3－1】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要（案）【資料3－2】
- ・平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査（様式）【資料3－3】

4. 研修プログラムガイド2016について

- ・「研修プログラムガイド2016」の作成について（案）【資料4－1】
- ・平成28年度SPODに開放するプログラム（研修プログラムガイド2016掲載）一覧について【資料4－2】
- ・平成28年度学内向け研修プログラム一覧【資料4－3】
- ・「研修プログラムガイド2016」チェックリスト（記載例）【資料4－4】

5. 平成27年度SPOD活動報告書について

- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（冊子版）構成（案）【資料5－1】
- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書（HP掲載用）構成（案）【資料5－2】
- ・平成27年度FD／SD活動の取組報告（案）【資料5－3】
- ・平成26年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書 目次【参考資料1－1】
- ・平成27年度SPOD事業計画【参考資料1－2】

6. 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会の開催について

- ・平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会及びFD／SD分科会 実施要項（案）【資料6】

7. 平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査の実施について

- ・平成２７年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施要項（案）
【資料７】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施要領 【参考資料２－１】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿 【参考資料２－２】
- ８．平成２７年度ＳＰＯＤ事業評価委員会委員開催について
- ・平成２７年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（ＳＰＯＤ）事業評価委員会実施要項（案）
【資料８】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（ＳＰＯＤ）事業評価委員会要項
【参考資料３－１】
 - ・「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業評価委員会委員名簿
【参考資料３－２】
- ９．各コア校で実施する新任教員研修について
- ・第24/25回愛媛大学授業デザインワークショップアンケート集計結果 【資料９－１】
 - ・授業設計ワークショップアンケート集計結果 【資料９－２】
 - ・新任教員研修会「よりよい授業のためのFDワークショップ」アンケート集計結果
【資料９－３】
 - ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップアンケート集計結果 【資料９－４】
 - ・第24/25回愛媛大学授業デザインワークショップ実施要項 【参考資料４－１】
 - ・授業設計ワークショップ実施要項 【参考資料４－２】
 - ・よりよい授業のためのFDワークショップ実施要項 【参考資料４－３】
 - ・学生の学びを支援する授業準備ワークショップ実施要項及びチラシ 【参考資料４－４】
- １０．平成２７年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修について
- ・平成２７年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）（第１回，第２回）アンケート集計結果
【資料１０－１】
 - ・平成２７年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）アンケート集計結果
【資料１０－２】
 - ・平成２７年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）（第１回，第２回）実施要項
【参考資料５－１】
 - ・平成２７年度大学人，社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）実施要項
【参考資料５－２】
- １１．各コア校で開催するプログラム等について
- ・大学教育カンファレンスin徳島（徳島大学）について 【資料１１－１】
 - ・愛媛大学教育改革シンポジウムについて 【資料１１－２】
 - ・「学生主体」の授業デザインワークショップ（高知大学）について
【資料１１－３】
- １２．その他
- ・ＳＰＯＤ将来構想案について 【資料１２】

平成28年度SPOD事業スケジュール（案）

1. SPOD共通事業

・SPODフォーラム

平成28年8月24（水）～26日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学

「全体テーマ：経験を学びに変える（仮）」

トップリーダーセミナーを併せて開催

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）後援

・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24回） 開催場所：各加盟校

原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。SDプログラムを充実させる予定。

・FD・SDに関する調査研究

・SPOD将来構想ワーキンググループ

・情報提供サービス

- ①研修プログラムガイド2016の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
- ②平成28年度SPOD活動報告書の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）
- ③SPODホームページの管理・更新
- ④SPODメールマガジンの発行（月1回程度）

・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学

・新任教員研修（年5回）の実施・公開 開催場所：各コア校（愛媛大学は2回実施）

・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）の公開・実施

①全加盟校教員対象（年1回）

開催場所：徳島大学

②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学

開催場所：愛媛大学

・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）
開催場所：高知大学，愛媛大学
レベルⅠ（新任職員研修） 1回（高知大学）
レベルⅠ 1回（愛媛大学）
レベルⅡ 1回（愛媛大学）
レベルⅢ 1回（愛媛大学）
共通科目 1回（愛媛大学）
主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学
- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学
SPODフォーラム2016において開催
主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）
開催場所：愛媛県，香川県，徳島県，高知県
主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学各コア校
- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学2回
主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学
- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校
研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

4. SPOD運営

- ①総会（年1回）
- ②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）
- ③事業評価委員会（年1回）
- ④監査（年1回）
- ⑤その他
 - i. FD／SD分科会
 - ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催
 - ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

平成28年度SPOD事業スケジュール（案）

1. SPOD共通事業

・SPODフォーラム

平成28年8月24（水）～26日（金）（3日間） 開催場所：愛媛大学

「全体テーマ：経験を学びに変える（仮）」

トップリーダーセミナーを併せて開催

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）と共催後援

・SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計24回） 開催場所：各加盟校

原則として、1法人あたり1回とする。ただし、高等専門学校については、1校あたり1回とする。SDプログラムを充実させる予定。

・SPOD将来構想ワーキンググループ

・FD・SDに関する調査研究プロジェクト事業

~~年1テーマを研究対象とする予定~~

~~①連携効果・組織変容検証プロジェクト（FD部門）~~

~~②連携効果・組織変容検証プロジェクト（SD部門）~~

・情報提供サービス

①研修プログラムガイド2016の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）

②平成28年度SPOD活動報告書の発行（年1回、冊子及びホームページ掲載）

③SPODホームページの管理・更新

④SPODメールマガジンの発行（月1回程度）

・その他コア運営協議会で承認された事業、プログラム等

2. FD事業

・FD担当者研修 開催場所：愛媛大学

・新任教員研修（年5回）の実施・公開 開催場所：各コア校（愛媛大学は2回実施）

・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（年2回）の公開・実施

①全加盟校教員対象（年1回）

開催場所：徳島大学

②高専対象（年1回） 開催場所：愛媛大学

~~・ティーチング・ポートフォリオ、アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップの
実施・公開※~~

開催場所：愛媛大学

・各種FDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

3. SD事業

- ・大学人・社会人としての基礎力養成プログラム（年5回）

開催場所：高知大学，愛媛大学

レベルⅠ（新任職員研修） 1回（高知大学）

レベルⅠ 1回（愛媛大学）

レベルⅡ 1回（愛媛大学）

レベルⅢ 1回（愛媛大学）

共通科目 1回（愛媛大学）

主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学，愛媛大学

- ・国際連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学

- ・社会連携系職員養成研修（年1回） 開催場所：愛媛大学

SPODフォーラム2016において開催

主担当：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・次世代リーダー養成ゼミナール（年4回）

開催場所：愛媛県，香川県，徳島県，高知県

主担当：SPOD事務局 協力校：高知大学各コア校

- ・職員のための講師養成講座（年2回） 開催場所：愛媛大学2回

主担当校：SPOD事務局 協力校：愛媛大学

- ・各種SDプログラムの開発・実施 開催場所：各加盟校

研修プログラムガイド2016に掲載したプログラム

~~・スタッフ・ポータルサイトの作成ワークショップ~~

~~※教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）主催事業として実施~~

4. SPOD運営

①総会（年1回）

②ネットワークコア運営協議会（月1回程度）

③事業評価委員会（年1回）

④監査（年1回）

⑤その他

i. FD／SD分科会

- ・FD分科会（年1回） 総会と同日開催

- ・SD分科会（年1回） 総会と同日開催

ii. SPOD加盟校県内会議 四国各県において必要に応じて実施

~~※を付したプログラムについては，教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）主催事業として実施し，SPOD加盟校にも開放する。~~

SPODフォーラム2016の開催について（案）

（趣旨）

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（ネットワーク略称＝SPOD）」の企画として、SPODの実施する研修プログラム等を集中的に提供する。

（主催）

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

（後援）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室（教職員能力開発拠点）

（日時・会場）

日時 平成28年8月24日（水）～ 8月26日（金）

会場 愛媛大学城北キャンパス 法文学部講義棟，南加記念ホールほか

（全体テーマ）

経験を学びに変える（仮）

（参加対象者）

1. 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」加盟校の教職員
2. 1. 以外で，高等教育機関に所属している方及び高等教育行政に携わっている方
 - ※SPOD加盟校の参加者を優先する。
 - ※民間企業に勤務している方の参加はお断りする。

（内容）

あらゆる立場の教職員が、その場でスキルアップにつながるような実践的なプログラムを提供する。

SPODフォーラム2016開催スケジュール(案)

全体テーマ:「経験を学びに変える(仮)」

会場		共通講義棟B (旧法文学部講義棟) 302講義室	共通講義棟B (旧法文学部講義棟) 303講義室	共通講義棟B (旧法文学部講義棟) 404講義室	法文学部2号館 第一会議室	法文学部2号館 305講義室	愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2	愛大ミュージアム M24
定員		30	30	40	60(6人掛けの場合)	90(固定机)	36	30
8月24日(水)		受付 9:00 ~	8月23日(火) FD担当者研修実施予定 (小林直人、中井俊樹、清水栄子、小林忠資)					
1	10:00 ~ 12:00		社会連携プログラム◆				アクティブ・ラーニング中心の プログラム?	
2	13:00 ~ 15:00	コア校依頼	次世代(6期生)	コア校依頼			コア校依頼	
3	15:30 ~ 17:30					大人数講義法の基本		
17:40 ~ 19:00		ポスターセッション(共通教育講義棟B 201 講義室)						
8月25日(木)			国際連携プログラム◆					
2	13:00 ~ 15:00	コア校依頼		コア校依頼		トップリーダーセミナー	コア校依頼	
3	15:30 ~ 17:45							
18:15 ~ 20:15		情報交換会						
8月26日(金)		1 10:00 ~ 12:00						
2	13:00 ~ 15:00				受講者多数プログラム 2回目?			

合計定員1710名(今年度定員:1661名、実数1560名)

◆を付したプログラム SPODーSDマップに基づき開講されるプログラム

FDプログラム

SDプログラム

FD/SD共通プログラム

コア校依頼プログラム

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム一覧(案)

ジャンル	No.	プログラム名	徳島大学	香川大学	愛媛大学	高知大学	阿南 高専	H28新規	H27新規	H27開催数
コンサルテーション	1	SPOD講師委員コンサルテーション ※ 加配校へ加配してOFCやFDの相談に際しては事前協議、経済事務所の紹介等、加配校との実施に当たっては内報、外部とも連絡が必要です。	徳島県内担当	香川県内担当	愛媛県内担当	高知県内担当				
	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	宮田	葛城	小林,仲道	塩崎,立川,俣野				1
	3	グラフィック・シラバスの作成方法	宮田		仲道	立川				1
	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～								1
	5	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？								1
授業改善・ 教授法	6	大人教職を魅力的にするテクニック	川野,上岡	葛城,佐藤	小林	塩崎,立川,俣野,杉田				1
	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	吉田	西本	俣野	杉田				
	8	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方		西本	小林	塩崎,立川,俣野				
	9	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実験例より～ (新規)				立川	○			
	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～			仲道			○		2
	11	効果的なラーニングの活用方法			仲道	立川				1
	12	基礎から学ぶ学習評価法	宮田,川野,吉田,上岡	佐藤		塩崎,俣野				
	13	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り			小林,忠,加地	立川,杉田		○		3
	14	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント(新規)				杉田,立川				
	15	授業アンケートを戻直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～				塩崎,立川,俣野				
プログラム 開発	16	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～			小林,清水					1
高専向け	17	高専生を元気にする学生指導法のコツ					坪井			
	18	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～					坪井			
	19	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育					坪井			1
	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート					坪井	○		1
	21	講義VTR簡単作成ワークショップとアクティブ・ラーニングへの活用(新規)					坪井	○		
	22	大学職員のための企画力養成講座			阿部,仲道,清水,丸山					
	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座			阿部,仲道,清水,丸山					
	24	インストラクショナル・デザイン(ID／教育設計)を活用した企画・立案マネジメント 教職員のためのPowerPoint ～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～			仲道	立川		○		1
	25	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～				立川		○		1
	26	コーディネート力養成講座			仲道			○		1
業務改善	27	プロジェクト・マネジメント入門			丸山,仲道					1
	28	マインドマップ入門講座(3時間)				俣野				
	29	大学の成長を促すコーチャング(新規)			中井			○		
	30	後輩の成長を促すコーチャング(新規)			小林,忠,清水			○		
	31	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門(新規)			清水,小林,忠			○		
	32	リーダーシップ入門(新規)			村田,丸山			○		
	33	チームビルディング(新規)			村田			○		
	34	身近なデータを活用した教育改善(新規)			清水,加地	杉田		○		
	35	組織の力を引き出す観察力養成講座(新規)			仲道			○		
	36	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～			阿部,清水,丸山					
人材育成・ 人事制度	37	持続可能なSDプログラムの開発手法			阿部,丸山					
学生支援	38	人事・人材育成ビジョンの必要性			阿部,丸山					
	39	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	葛城,佐藤			塩崎,立川				1
	40	学生の主体性を促す学習支援(新規)			清水			○		
危機管理	41	事例から考えるハラスメント			阿部,吉田,倉田				○	3
事例紹介	42	学生が輝くFDの実践事例			小林	塩崎,立川,俣野				1

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
コンサルテーション	1	SPOD課題発見コンサルテーション	コンサルティング	FD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等を行いながら当該組織においてFD・SDを効果的に進めるためのコンサルティングを行います。FD・SDに取り組んでいるがマンネリ化してきた、担当者が行き詰っているなどの課題がある場合に最適なプログラムです。教職員全員を対象とせず、管理職やFD・SD担当者等と小規模のディスカッション形式で実施します。
	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	シラバス、(教授法、評価)	シラバスは、授業デザインの基礎であり、より良いシラバスを作ることはより良い授業を作るための出発点となります。しかし、シラバスを作るためには 様々な授業形態、評価方法といった知識がなければなりません。また、授業全体をわかりやすく構築するデザイン力も必要となります。本プログラムでは、参加者の皆さんに良い授業のヒントをもち帰っていただくため、シラバスの定義、授業内容、スライドのデザイン、評価方法の選択について具体例を示しながら解説します。また、学生の時間外学習を促す事例も紹介します。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
	3	グラフィック・シラバスの作成方法	シラバス、(教授法、評価)	シラバスは、学習目標やスケジュールが書かれた、授業に関する最大重要文書と言えます。ところどころ、教員が期待するほどには、学生は注意深くシラバスを読んでいるという事実です。たとえば、学生が読んだとしても、教員が持つ背景知識を踏まえてシラバスの内容を理解することは困難です。グラフィック・シラバスとは、学習内容をフローチャート、ダイアグラム、樹形図として一枚のマップに表現したものです。学生はこれを読むことによって、学習目標や内容を効果的に理解できるだけでなく、容易に記憶にとどめることができます。また教員は、これを通して、自らの授業内容やキーワードを精選し、構造を明確化し、より円滑な流れで授業の再構成を行うことができます。本プログラムでは、グラフィック・シラバスの意義や特徴を簡単に説明した上で、参加者全員が自らの授業についてグラフィック・シラバスを書く個人ワークに取り組めます。ペア・ワークによるブラッシュアップを経て、再度、個人ワークに取り組めます。参加者は担当している授業のうち、どれか一つのシラバスを持参ください。
授業改善・教授法	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うためのインストラクショナルデザイン(ID)入門～ARCS動機づけモデルの活用～	授業設計、動機づけ、学習理論	本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見て直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけるための手法 (ARCS動機づけモデル) や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークシヨップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。
	5	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	教授法、動機づけ	やる気(学ぶ意欲)は、学生の授業態度、授業外での自主学習の質や量、最終的に学習成果を決定する要因です。授業を通して学生のやる気を引き出すことは私たちの大切な役割です。DVD教材を使用する、グループ活動を行わせる、ゲーム的要素を盛り込む等、学生のやる気を引き出す方法は様々ですが、その場しのぎの活動になってしまふと学習成果は期待できません。学生のやる気を引き出しそのやる気を保持するための理論的な枠組みを理解した上で、どのような授業活動を行うのかを考えていく必要があります。本プログラムを通して、参加者の皆さんに学生のやる気を引き出すための理論的な枠組みを理解していただき、授業に役立つ具体的なアイデアを互いに共有したいと思います。本プログラムをよりインタラクティブで実りのあるものにするために、参加者の皆さんは、自分の授業において学生のやる気を引き出すためにどのような工夫を行っているのかを簡易書きにしたメモをご持参ください。
	6	大人数講義を魅力的にするテクニク	教授法、講義法	「よい講義とはここでは、聞き手の学生にとって分かりやすく、知的な緊張感があり、さらに学生が参加する(した)気にさせる」講義、ということになります。本プログラムでは、学生とコミュニケーションを取る方法、講義に参加させる方法や授業効果を高める方法など、大人数の学生を聴衆とした「よい」講義をするために気を付けておかなければならない様々な授業スキルを、実例や実習を通して習得することができます。また大人数講義でも取り入れることが可能な、簡単な参加体験型授業/アクティビティ・ラーニング型授業の一例として、受講者に実際にグループワークを体験していただきます。
	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	教授法、グループ学習	“学びのプロセスに学生自身がどれだけ関わることができたか”が学習成果を左右すると言われています。ここ数年、学生参加型や双方向型授業といった名称の授業が増えてきていることの大きな理由がここにあります。そこで本プログラムは、授業の活動性を高めるために、講義の一部にグループ学習やペア学習を取り入れてみたいと考えている教員を主な対象として、そのための考え方や方法(主に協同教育の理論)を参加メンバーと共に学び、理解することを目的として実施されます。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
授業改善・教授法	8	学生が動く・変わる・活き活きする グループワークの進め方	教授法、グループ学習	グループワークを取り入れた参加型授業形式を取り入れる大学教員が増えています。一方、グループ毎に取組みに差が生じる、グループ内での作業に個人ごとの幅りがあるなど、実施にあたっては課題もあります。本プログラムでは、様々なグループワークの事例を紹介しながら、上手な進め方や成功するためのコツを学びます。参加者は実際にグループワークを体験しながら学習することができます。受講後は、現状よりも活発なしかけができるようになることを目指します。
	9	ディープラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法 ～物理、化学の実践例より～（新規）	教授法、アクティブ・ラーニング	グループワークは時間ばかりとってなかなか進まないと思いませんか？ グループワークすると、ぶら下がる学生が出てくると言う経験はございませんか？ その仕掛けの問題です。このワークショップでは、産能産大工学部小林昭文教授が高校の物理で実践された手法や、高知大学の化学の授業で実践しているIBLの手法を中心に紹介いたします。これらの失敗しないグループワークの手法には、協同学習の要素が仕掛けとして盛り込まれていることを一緒に確認しましょう。どちらの方法もレクチャーより効率よく進められ、学生の成績を上げ、様々な能力も開花させる手法で、文系、理系を問わず多くの教科に応用可能です。
	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 ～課題分析図の活用～	授業設計、課題分析図	学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学習目標で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになるのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に、教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通して、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。
	11	効果的なeラーニングの活用方法	教授法、eラーニング	高等教育機関において、学習効果を上げるための方法としてeラーニングが注目されています。本プログラムでは、「eラーニングを授業に取り入れてみよう」「eラーニングをどのように活用することが有効なのかを知りたい」「自身の授業改善に役立てたい」「どこから始めるとよいかわからない」などという方に対して、実際に授業で活用されている様々なeラーニング事例を紹介するとともに、ワークシヨップ形式にて自身の授業で、どう活用できるかを探っていきます。
	12	基礎から学ぶ学習評価法	学習評価	本プログラムでは、学習評価の基礎知識である、学習評価の原則、学習評価の公平性、テストの作成法、学習評価の厳密化と効率化のための評価ツール、について学びます。これまでの自己の学習評価方法を直し、公平性・厳密性と効率性の両方を満たすものにするためのヒントを持ち帰ることが出来ます。シラバスを持参の上参加いただければ、その場でブラッシュアップしていただくことができます。
	13	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	授業法、講義法	多くの学生は授業を聴くつもりで教室に集まっているわけではありません。まして授業に参加するつもりで来てはいません。そのようなアウェイン状況を一瞬で変えられたら先生も気持ちよく授業ができると思いませんか？多くの受講生は、授業内容にまったく関心がないわけではありません。でも難しい話を一方的に続けられればいくらがんばっても疲れてしまいます。そんなどんよりムードを一瞬で打ち払って明るくできたら良いと思いませんか？そんなテクニク：授業の最初にすべきこと、大事なことが伝わっているか確認する方法、全員の意見分布を知る方法について具体的に紹介します。また、それらの方法がなぜ、うまく行くのか、基本的考え方を紹介します。
	14	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント（新規）	学生支援、修学支援	近年、授業設計の中に、発達障害等の学生の支援としてユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりが行われるようになりました。資料の作り方や授業での指示の出し方、グループワーク等の活動において、質的な情報や増やし方により、スムーズに伝わり学生の授業内でのつまづきが減ります。また、その授業づくりは、教室内の多くの学生にとっても、有効な学生支援にもなります。本プログラムでは、具体的な授業実践について紹介するとともに、学内の先生方が行われている授業づくりについて、情報共有するとともに、求められる授業内の学生支援について考えしていきます。
	15	授業アンケートを見直しませんか？ ～アンケートの効果的実施と活用方法～	授業アンケート	授業アンケートは、日本において最も一般的な授業改善の一つだと言えます。一方で、形式的な実施に陥っている（マンネリ化）という声も聞きます。「やりっぱなし」にせず、効果的に実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。またその結果をどのように活用したらよいのでしょうか。本プログラムでは、国内外の様々な事例を紹介しながら、上記の問いを考えていきます。開催校のアンケートを持参いただければ、項目の検討を行うワークを入れることができます。
	16	ティーチング・ポートフォリオ入門 ～教育実践のリフレグション～	ティーチング・ポートフォリオ	本プログラムでは、ティーチング・ポートフォリオとは何かについて基本的な内容を学んでいきます。具体的には、ティーチング・ポートフォリオが、教育改善や教育業績評価にいかなる点で役立つといった必要性和有効性について、また、ティーチング・ポートフォリオ作成のための要点と手順について学ぶ機会を設けています。ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへ参加予定の先生方は事前準備として活用いただけます。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
高専向け				成長途上の学生へのサポートでは、人間関係の悩み、保護者との連携、教員間の協同などについて知識と対応のスキルを求められます。学生それぞれに異なる悩みを受けとめ、その成長を支えることは容易ではありません。保護者の価値観は多様で、学校の教育方針と一致しないことも少なくありません。一方、教員間で教育情報を共有し協同することも難しい問題です。それでも、学生はサポートを必要としています。本プログラムは、高専の教育現場で起きている事例について、どう対応すれば適切に学生をサポートできるのか、グループワークによるケーススタディを中心に検討し、広範な学生サポート力の獲得に資するよう展開します。
	17	高専生を元気にする学生指導法のコツ	高専、学生指導	
	18	担任教員に求められること ～担任スキル開発ワーク～	高専、学生指導	心の揺らいでいる学生に、まず寄り添うのは、担任教員です。担任教員は、学生サポートのために次のことを始めとする様々なスキル(意識、知識と能力)を求められます。担任教員に必要な基礎的スキルを整理して時系列に整理することにより、教員団の教育力向上に資することを目指します。 ・数年の担任経験を有し、担任スキルの高度化と共有、校内での教育連携の必要性を感じている教員を対象とするワークです。 ・学生との接し方・自殺や不登校、いじめのサイン・教育連携の方法・保護者対応・薬学 ・休学時の手続き・授業料納付期限、除籍・高等学校卒業程度認定試験・ハラスメント・危機管理フロー
	19	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	高専、教育経営	学校教育の不調は、時に、強いウクレームや裁判として顕在化します。教育活動そのものに問題がある場合、教育活動への理解を得られない場合など様々ですが、いずれも学生・保護者から学校および教員が信頼を得られていないことが最大の要因の一つです。裁判事例をふまえて先行研究を参照しつつ、教育現場の観点から信頼される高専教育のあり方を確認します。あわせて、各高専において、信頼される教育活動を全学的に行うための検証・支援方法について考えましょう。
	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	教授法、動機づけ	アクティブ・ラーニングは有効な学習形態ですが、そのためには学生のモチベーションが欠かせません。本プログラムは、内発的動機づけをサポートして学生の学習活動を活性化する方法を紹介し、グループによるミニワークで確認します。 取り上げるのは、「アブローチワーク、個人名空間、肯定的フィードバック、Think-Pair-Share、クラスルームコントロール、問いかけ、回答への対応、Illusion of choice、ラウンド意見交換」などです。
	21	講義VTR簡単作成ワークショップとアクティブ・ラーニングへの活用(新規)	アクティブ・ラーニング、反転授業、講義VTR	アクティブ・ラーニングの効果的な実施のための手法として、反転授業に注目が集まっています。一方で、「準備に時間がかかる」、「講義VTRの事前視聴をしてこない」、「アクティブ・ラーニングとの接続が難しい(話し合いが拡散して、学習成果が見えない)」などの懸念や課題などがあります。 PPTをベースとする講義VTR作成ワーク体験を経て、学生による講義VTR視聴をふまえ、実授業では「書く・話す・発表する」ことによるアクティブ・ラーニングを実施するスタイルの反転授業について、これらの課題を解決し授業者の不安を軽減する手法を獲得します。
業務改善	22	大学職員のための企画力養成講座	企画力、プレゼンテーション力	大学職員に必要な能力として「問題発見・解決能力」がよく取り上げられています。本プログラムは、大学改革、業務改善を行っていく上での、「問題発見・解決能力」と「企画提案力」の手法を学ぶものです。このプログラムで身につけた手法や企画書を実際に大学に持ち帰り、上司や大学に提案できるよう、実践に即したスタイルで行います。大学や今の業務に疑問や改善点を持たれている職員の方はもちろん、どうやって見つけたらよいか、提案したら良いのか分からない職員の方もご参加ください。
	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	判断力、決断力、ディベート	判断・決断は上司や役職者だけが行うものだと思っていまいませんか。実は、若手・中堅職員においても、業務の中で、判断・決断を下さなければならぬ場面は多々あります。 あなたにはどのように判断・決断を行っていますか？そもそも、判断と決断の違いとは何でしょうか？また、判断を速やかに行うには何が必要であり、決断を下すには何をもとに行えば良いのでしょうか？判断や決断が速やかな人は好感を持たれますが、その判断や決断が誤っていると信頼を失います。また一方で、決定しやすい判断が良い判断とは限りません。 このように、本セミナーでは、判断力と決断力の違い、それらを効果的に行うために必要な条件を理解した上で、実践トレーニングを行うことで参加者の皆さんの判断力・決断力・決断力スキルの向上を図ります。 当日は、レクチャーやグループワーク、ディベートなどを組み合わせ、進めていきます。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
業 務 改 善	24	インストラクショナル・デザイン(ID)／教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	企画立案マネジメント、現状分析	本プログラムでは、問題解決手法であるインストラクショナル・デザイン(ID)／教育設計)を理解し、その後、ワーキングシート形式にて、自身の業務実践の場活かせる業務の効率化や課題解決に向けた方策が見出せるようにすることを目指します。まず、自身の大学で業務や教育の改善・改革を推進したいと考えている事柄を取り上げるところからはじめ、一般的に改革を推進する上で、ポイントとなる現状分析を丁寧に行います。次に、目標とのギャップを明確に認識し、ゴールに向けて方略・戦略をデザインするための方法論を学び、改革の一端を担う際の効果的な思考を身につけます。
	25	教職員ののためのPowerPoint ～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	PowerPoint	新しいアプリケーションの使い方を一から覚えるのはおっくうです。でも、30分でマスターできるとしたら？ PowerPointでは、スライド資料を作成する他、縦型のポスターやチラシも作成することが可能です。授業でプレゼンウェアを使いたい教員はもちろん、業務でポスターやチラシ、ポスター絵などを書かなければならない職員の方でも、使い方を覚えると意外に便利ですよ。この際、30分でマスターしちゃいましょう！ ＊PPT実習ほんとに30分！　アイスブレイキング、見やすい資料作成のコツ(レクチャー)、PPT資料のプロジェクトアウト力、ふりかえり等計2時間程度のプログラムです。
	26	教職員のためのプレゼンテーション ～読得力のある話し方、組み立て方～	プレゼンテーション	あの人の話し方は分かりますよな～ あんなふうに話せたらいいよな～と思うことはありませんか？　本当に分かりますか？　話し方が必要があるのでしょうか？　実は話し方や雰囲気を感じ方がずいぶん変わるものです。授業に限らず人前で話したり会話する機会に好感が持たれ、聞いてもらえる話し方を身につけてみましょう。そのためには呼吸法と発声法、そのための姿勢、そして話し方の組み立て方が重要です。ちょっとやってみましょう！
	27	コーディネート力養成講座	合意形成、調整、ゴール設定	仕事におけるコーディネートとは、何をどのようにすることなのか。目標達成のために部局や立場を超えて、必要なスキルや能力を備えた人を集めるだけでなく、チームの中で異なる分野(領域)個々の利害による関係を調整し、全体の合意を形成し、向かうべき目標・ゴールまで着実に誘導していくこと、これが仕事におけるコーディネート力です。職場におけるコーディネーターという役割は、物理的なシステムでは解決できない、人にしか担当できない仕事と言えます。
	28	プロジェクト・マネジメント入門	計画立案、進捗管理	本ワーキングシートでは、グループワーク等を通じて、チームの各メンバーが持つアイデアや意見、情報をうまく引き出し、まとめ、一つの目標達成に向かえるようにするまでのコーディネート力の実践とコツについて、学んでいただけたらと思います。
	29	マインドマップ入門講座　(3時間)	思考法、(教授法)	プロジェクトを成功させるためには何が必要か、その基本となる方法論やプロセスを習得することを目指します。様々な規模のプロジェクトが存在する中、日々の日常的な業務の効率化を図るツールとしても活用できます。プロジェクトを成り行きに任せるのではなく、しっかりコントロールすること、及び終了後のフィードバックの重要性を学びます。部署内、及び部署を横断したプロジェクトが増えていくなか、最終的には、プロジェクトマネジメントを職場で実用に適用するためのポイントを説明できるようにすることを目標としています。
	30	大学組織を理解する(新規)	組織論、大学の組織文化、リーダーシップ	マインドマップは、Tony Buzanによって開発された思考手法・ノート術で、記憶力・理解力・集中力・創造的思考力・問題解決力などの様々な能力を高めるとされています。イメージと連想をもとに放射状に思考を広げるところに特徴があり、ビジネスや教育現場において注目されています。本プログラムは、実際に頭と手を動かしながらMind Mappingを体験することを通して、参加者自身の日々の実践へのヒントを持ち帰ることを目的として実施されます。
				学長が右を向けと言ったら、各学部や教職員は右を向くのでしょうか、右を向かないとしたら、右を向くようになった方がよいのでしょうか。大学という組織は、大学以外の組織と異なるのでしょうか。大学組織は他の組織とどのような点で異なるのでしょうか。近年の大学改革では、大学のガバナンスのあり方についても議論がなされています。大学のガバナンスを理解することが難しい一つの理由は、法体系に基づく運営体制と歴史的な慣行が異なる場合があるからです。
				本研修では、大学という組織がどのような論理で動いているのかについて深く理解する機会をつくります。大学組織の論理を理解した上で、実際の組織運営に応用する力を身につけます。さらに、大学のガバナンス改革が大学の組織の論理をどのように変えようとしているのかについても展望します。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
業務改善				職場には、先輩が後輩を個別に指導するさまざまな場面があります。そのような場面では、先輩が後輩に答えを提示することもできます。しかし、それでは後輩の成長を期待することはできません。後輩の成長を促す指導をするうえで役に立つのが、コーチングです。コーチングは、人材開発の一つの技法で、相手の目標達成を促すためのものです。相手に答えを提示するのではなく、コミュニケーションをとおして相手のもつ答えを引き出す点に特徴があります。本プログラムでは、コーチングの理論やさまざまなスキルについて学習します。職場での具体的な事例をもとに、コーチングのさまざまなスキルを理解し、職場で活用できるようになることを目指します。また、コーチングのスキルは、学生を指導するうえでも役に立つものです。
	31	後輩の成長を促すコーチング(新規)	コミュニケーション	
	32	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門(新規)	会議運営、職場	会議やミーティングで、“意見が出てこない”、“一部の人はばかり発言している”、“今日の会議は無駄だった”と感じた経験はありませんか？ このような不満の解決方策としてファシリテーションがあります。ファシリテーションとは、会議、組織運営や教育の場で問題解決や合意形成、アイデアの創造などを促す活動全般を指します。このプログラムでは、会議やミーティングの場面でファシリテーションスキルの習得を目指します。具体的には会議やミーティングでの場づくり、コミュニケーションの取り方、合意形成や情報の共有化について学習します。
	33	リーダーシップ入門(新規)	組織運営、リーダーシップ	どのような組織においても、数々のミッションやタスクを効率的に果たしていくためには、当該組織を円滑に機能させ、その有効性を増す仕方でありリーダーシップを発揮する人の存在が欠かせません。このようなリーダーシップは学習や実践によって体得することが可能です。本プログラムでは、まずリーダーシップに関する基礎的知識を概観し、その後、それらを実際の職場においてどのように応用・適用することができるかについて、受講者同士のグループワーク、ディスカッション等を通じて検討することを目的とします。
	34	チームビルディング(新規)	組織づくり、目標・目的の共有	日々の諸業務を果たす各部署において、また組織横断的な種々のプロジェクト等において円滑な協働を実現するためには、コミュニケーションの促進やリーダーシップの発揮など様々なアプローチが必要となります。なかでも、チームや組織をどのようにキックオフするか、即ち、メンバー間でミッション・ビジョン・ゴール、目標や目的の達成方法等を如何様に設定・共有するかは、メンバーのモチベーションや組織の有効性に大きな影響を与えます。本プログラムでは、チームビルディングに関連した理論を簡潔に学ぶと共に、受講者各自が所属する組織的背景を念頭に、どのようなチームビルディングを実践できるか、具体的なプランを策定することを目的とします。
	35	身近なデータを活用した教育改善(新規)	教学IR、学内データ、教育改善	学長のリーダーシップを中心とする組織運営および経営強化の要請を背景として、IR(Institutional Research: 機関調査)の重要性が認識され始めています。IRは「機関の政策立案、政策形成、意思決定を支援するための情報を提供する目的で、高等教育機関の内部で行われる調査研究」と言われています。本プログラムでは、教育改善に資するデータの収集と分析を可能にする教学IRを取り上げます。まず、教学IRとはどのような活動なのかを共有します。その後、ワークとディスカッションを通じて、身近にある学内データをを用いた教育改善について考えます。
人材育成・人事制度	36	組織の力を引き出す観察力養成講座(新規)	観察力、コミュニケーション、組織マネジメント	組織の運営に、なぜ観察力が必要なのでしょう。組織とは二人以上が集まって同じ目的をもつとともに動く集団であり、組織を円滑に運営するためには、自分とメンバーを深く知ることが必要です。例えば、職場で後輩ができたから、役職についていなくてもリーダーダーとしての対応を行わなくてはなりません。そのために、先輩であるあなたには後輩との真のコミュニケーション力が求められます。あなたは、日頃、同僚や後輩の何を観察していますか。相手の心身の状態を正確に把握し、適切な対応をするためには、素面的な情報だけでなく、その奥にある真の情報をつかむための観察力を養うことが必要です。本プログラムでは、組織や集団の理念や目標の達成に寄与するため、メンバー個々の能力を最大限に引き出し、真のコミュニケーションが取れる可能性を高めることを目的とします。グループワーク等を組み入れながら、自分とメンバーを知る方法を探っていきます。
	37	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	自己理解、メンタリング、業務整理	スタッフ・ポートフォリオとは、職員自らがキャリア形成を図れ、組織としてはこれにより職員一人ひとりの可能性や潜在能力を知ることができるツールのことです。本プログラムでは、スタッフ・ポートフォリオの詳しい定義やその有益性を説明した後、SPOD-SDでの活用例及び愛媛大学での導入例や実際にスタッフ・ポートフォリオを作成した職員の声を聞き、実践例を示します。
				スタッフ・ポートフォリオには、大学や大学職員人事マネジメントにどのような影響や効果を与えるのでしょうか。また、職員個人にどのような影響や効果があるのでしょうか。さらには、スタッフ・ポートフォリオは簡単に作成することができるのでしょうか。作成する場合に重要なことは何でしょうか。このような疑問を一つずつ解決できるようなプログラムとなっています。
	38	持続可能なSDプログラムの開発手法	SDプログラム開発	SDとは事務系職員の能力開発活動であり、人材開発から始まって、組織の活性化、組織の業績向上、最終的には大学等の特性として地域の活性化と結びついているものです。SDには、職場の中で仕事に就きながら仕事に即して教育するOJT(職場内教育)と職場から一定期間離れてまとまった教育をするOFF-JT(職場外教育)があり、意図的、計画的、持続的に実施しなければならない。本プログラムはそのSDプログラム開発のための手法を学ぶ作業を行います。

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム概要

各プログラムの内容は各校のご希望に応じて可能な限り柔軟に対応いたしますので、実施プログラム決定後、担当講師にご相談ください。

ジャンル	No.	プログラム名	キーワード	内容概要
人材育成制度	39	人事人材育成ビジョンの必要性	人材育成ビジョン	本プログラムは、SPODに加盟する各大学の人事・人材開発の担当職員に対して、各大学にふさわしい人事マネジメントシステムを効果的に機能させ、職員一人ひとりが優れた人材に育っていくための基本的な人材育成ビジョン開発の手法を理解することができます。
	40	学生の自立を促す学生支援の実践とコッ	学生支援	学内での学生活動の中心となるリーダー育成や学生同士によるピア・サポートが新たな学生支援として注目を浴びています。四国内でもそのような取り組みが盛んにおこなわれており、それらの事例と教職員がどのように関わっていけば良いのかのコツの紹介を複数大学の事例紹介を繰り返し交ぜながら進めます。必要に応じ、取り組みに関与している学生の生の声も聞けるようにいたします。教職員だけでなく、学生を巻き込んだ総合的な研修となっています。
学生支援	41	学生の主体性を促す学習支援(新規)	学習支援、事例紹介	学生たちの主体的な学びを促進するために、私たち教職員は授業や日常の大学生活の中で様々な支援を行っています。たとえば、予・復習、参考書や有益な情報提供、学習に関わる助言、あるいは学習支援のための施設整備などです。このような支援では、学生の現状や抱える課題に沿った方法・対応が求められます。本プログラムでは、国内の学習支援の現状と他大学の実践事例を紹介した後、所属大学の学習支援に関する現状や課題を参加者間で共有し、実施可能な学習支援の方法について考えていきます。
	42	事例から考えるハラスメント	ハラスメント事例、施策	本プログラムでは、大学等において、今、身近にあるハラスメントについて説明すると共に、なぜハラスメントが無くならないのか問題提起します。そして複雑かつ多様化するハラスメントについて、具体的事例を挙げながら、「ケースメソッド」により省察し、①ハラスメント認定のポイント、②ハラスメントが起きた場合の対処方法、③ハラスメント「施策」を導きだしていきます。
危機管理	43	学生が輝くFDの実践事例	FD実践事例	本プログラムでは、FDの意義・定義、歴史・国際動向、FDの取組み事例、推進する上でのコツを説明します。また国内外の優れた取組み事例、組織体制を紹介いたします。希望に応じて所属機関のFDに関するコンサルティングやニーズ分析を行います。本格的なFDの取組みはこれからという導入時期に最適なプログラムです。
事例紹介				

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

SPOD共通事業であるSPOD内講師派遣事業をご利用いただくにあたり、各加盟校におけるFD/SD活動への基本方針を考慮した上で、講師派遣を希望するプログラムを裏面の表からお選びください。各加盟校から回答をいただいた後、コア校で講師を調整の上、決定プログラムを連絡します。

留意事項

- ・各加盟校につき、1回1プログラムの実施とします。ただし、1法人に複数大学・短期大学・短期大学部が併設されている場合は1法人あたり1回とします。(高等専門学校除く)
- ・希望プログラムの選定については、可能な限り、FD及びSD担当で調整の上提出してください。
- ・実施内容の詳細については、プログラム決定後、担当講師に直接ご相談いただくこととなります。

(1)[経緯] 第1希望(裏面)のプログラムを選択するに至った、貴組織の背景、状況(主催者の意図)等をお知らせください。

(2)[目的/目標] 今回の研修の目的/目標はどのようなものでしょうか？

(3)[参加者] 参加者はどのような方々(専門分野、経験、役職等)で、何名ほどの参加(全員必修か希望者のみの参加を含む)を見込んでいますか？

例) 新任教員 ○名程度(原則必須参加)、中堅職員 ○名程度(希望者のみ)、全教職員 ○名程度(原則必須参加)

(4)[今後の計画] 貴組織において今後どのようにFD及びSD活動を進めていく予定かお教えてください。

(FD)

(SD)

→裏面へ続く

平成28年度SPOD内講師派遣プログラム希望調査

学校名:

(5) 講師派遣を希望するプログラムを3つ選び、希望順位(1～3の番号)を付けて記載してください。
原則として第1希望での派遣を実施いたしますが、多大学が同一プログラムを希望した場合は調整させていただきます。

ジャンル	キーワード	No.	プログラム名	形態	希望順位
	コンサルティング	1	SPOD課題発見コンサルテーション ※ 加盟校へ訪問してのFD・SDの現状と課題に関する情報交換、成功事例の紹介等、加盟校の実態に合わせて内容、形態とも柔軟に対応します。	相談の上、決定	
授業改善・ 教授法	シラバス、(教授法、評価)	2	学生の学びを促すシラバスの書き方	講義、ミニワーク	
	シラバス、(教授法、評価)	3	グラフィック・シラバスの作成方法	講義、ミニワーク	
	授業設計、動機づけ、 学習理論	4	学習者の学習意欲を高める授業設計を行うための インストラクショナル・デザイン(ID)入門 ～ARCS動機づけモデルの活用～	講義、ミニワーク	
	教授法、動機づけ	5	学生の学ぶ意欲を引き出す授業とは？	講義、ミニワーク	
	教授法、講義法	6	大人数講義を魅力的にするテクニック	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	7	講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン	講義、ミニワーク	
	教授法、グループ学習	8	学生が動く・変わる・活き活きするグループワークの進め方	講義、ミニワーク	
	教授法、アクティブ・ラーニング	9	ディブラーニングに誘うアクティブ・ラーニングの手法～物理、化学の実践例より～(新規)	講義、ミニワーク	
	授業設計、課題分析図	10	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計～課題分析図の活用～	講義、ミニワーク	
	教授法、eラーニング	11	効果的なeラーニングの活用方法	講義、ミニワーク	
	学習評価	12	基礎から学ぶ学習評価法	講義、ミニワーク	
	教授法、講義法	13	受講生が楽しく集中して参加する授業の雰囲気作り	講義、ミニワーク	
	学生支援、修学支援	14	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりのポイント(新規)	講義、ミニワーク	
プログラム開 発	授業アンケート	15	授業アンケートを見直しませんか？～アンケートの効果的実施と活用方法～	講義、ミニワーク	
	ティーチング・ポートフォリオ	16	ティーチング・ポートフォリオ入門～教育実践のリフレクション～	講義、ミニワーク	
高専向け	高専、学生指導	17	高専生を元気にする学生指導法のコツ	講義、ミニワーク	
	高専、学生指導	18	担任教員に求められること～担任スキル開発ワーク～	講義、ミニワーク	
	高専、教育経営	19	事例から見た、学生・保護者から信頼される高専教育	講義、ミニワーク	
	授業法、動機づけ	20	今すぐ役立つ授業Tips アクティブ・ラーニングのスタート	講義、ミニワーク	
	アクティブ・ラーニング、反転授業、 講義VTR	21	講義VTR簡単作成ワークショップとアクティブ・ラーニングへの活用(新規)	講義、ミニワーク	
業務改善	企画力、プレゼンテーション力	22	大学職員のための企画力養成講座	講義、ミニワーク	
	判断力・決断力、ディベート	23	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成講座	講義、ミニワーク	
	企画立案マネジメント、現状分析	24	インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)を活用した企画・立案マネジメント	講義、ミニワーク	
	PowerPoint	25	教職員のためのPowerPoint～30分でマスターするPPT、プレゼン資料からポスター作成まで～	講義、ミニワーク	
	プレゼンテーション	26	教職員のためのプレゼンテーション～説得力のある話し方、組み立て方～	講義、ミニワーク	
	合意形成、調整、ゴール設定	27	コーディネート力養成講座	講義、ミニワーク	
	計画立案、進捗管理	28	プロジェクト・マネジメント入門	講義、ミニワーク	
	思考法、(教授法)	29	マインドマップ入門講座(3時間)	講義、ミニワーク	
	組織論、大学の組織文化、 リーダーシップ	30	大学組織を理解する(新規)	講義、ミニワーク	
	コーチング、後輩指導、 コミュニケーション	31	後輩の成長を促すコーチング(新規)	講義、ミニワーク	
	会議運営、職場	32	円滑な会議運営のためのファシリテーション入門(新規)	講義、ミニワーク	
	組織運営、リーダーシップ	33	リーダーシップ入門(新規)	講義、ミニワーク	
	組織づくり、目標・目的の共有	34	チームビルディング(新規)	講義、ミニワーク	
	教学IR、学内データ、教育改善	35	身近なデータを活用した教育改善(新規)	講義、ミニワーク	
	観察力、コミュニケーション、 組織マネジメント	36	組織の力を引き出す観察力養成講座(新規)	講義、ミニワーク	
人材育成・ 人事制度	自己理解、メンタリング、 業務整理	37	スタッフ・ポートフォリオ入門～職員と大学が共に輝くために～	講義、ミニワーク	
	SDプログラム開発	38	持続可能なSDプログラムの開発手法	講義、ミニワーク	
	人材育成ビジョン	39	人事人材育成ビジョンの必要性	講義、ミニワーク	
学生支援	学生支援	40	学生の自立を促す学生支援の実践とコツ	講義、ミニワーク	
	学習支援、事例紹介	41	学生の主体性を促す学習支援(新規)	講義、ミニワーク	
危機管理	ハラスメント事例、施策	42	事例から考えるハラスメント	講義、ミニワーク	
事例紹介	FD実践事例	43	学生が輝くFDの実践事例	講義	

「研修プログラムガイド2016」の作成について

（趣旨）

SPOD加盟校において実施するFD／SDプログラムの中で、SPOD加盟校に開放可能なプログラムについては、予め内容及びスケジュールを示すことにより、加盟校の教職員が参加しやすいようにする。また、各加盟校で実施しているプログラムを参考にすることができるようにする。

（対象プログラム）

全SPOD加盟校の①～⑤のプログラム

①FD（教員対象）、②FD／SD（教職員対象）、③FDer養成（ファカルティ・デベロッパー対象）、④プレFD（大学院生対象）、⑤SD（職員対象）、⑥総合

（全体構成）

- 「研修プログラムガイド2016」発刊にあたって
- 利用の手引き
- SPODの概要説明
- プログラム一覧（日程別、開催大学別、テーマ別）
- SPOD加盟校内講師派遣プログラム一覧
- プログラム紹介
- 学内向け研修一覧（学外非公開分）
- 申込み・お問い合わせ
- SPODホームページについて

（原稿作成）

別紙「研修プログラムガイド原稿作成要領」のとおり。

（発行時期等）

発行時期：平成28年4月下旬

発行部数：A4サイズ 7,300部（SPOD加盟校 教員 4,668＋職員 2,367＋予備 265部）

※教職員数は平成28年度負担金積算根拠数による

※平成27年度の発行部数は7,300部

（作成スケジュール）

平成28年2月 5日（金）	掲載プログラムの確定	（昨年度：平成27年2月 6日）
	プログラム名、FD/SD等の区分、遠隔配信の有無	
平成28年2月19日（金）	各コア校への原稿締め切り	（昨年度：平成27年2月27日）
平成28年2月26日（金）	編集責任校への原稿締め切り	（昨年度：平成27年3月 5日）
平成28年3月中旬	印刷業者初稿原稿渡し	（昨年度：平成27年3月10日）
平成28年4月下旬	印刷業者納品、各大学へ配付	（昨年度：平成27年4月28日）

(別紙)

研修プログラムガイド 原稿作成要領

SPOD FD/SDガイドブックに掲載する「加盟校に開放するプログラム」について、「研修プログラムガイド2015」の記載内容を参考にしながら、下記の作成要領に従い、「内容紹介」の原稿作成をお願いします。レイアウト等については、フォーマットに落とし込んだ上で調整しますので、文章等について word 等で作成してご提出ください。

原稿作成〆切：平成28年2月26日（金）

原稿提出先：各コア校

編集責任校：愛媛大学（担当：教育・学生支援機構 教育企画室、SPOD事務局）

※作成にあたっては、各コア校と連携・協力して行う。

【1回2～3時間程度のセッションの場合】…半ページ

- ① 主な対象者 … 40字以内。「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ② 対象校（地域別，設置形態別） … 「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ③ 目標 … 50～70字程度
- ④ 講師氏名・所属大学・所属部署名 … （例）〇山〇夫（△△大学〇〇）
- ⑤ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名，階も）
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 〆切 … （例）要問い合わせ，開催日〇週間前・先着順 等
- ⑨ 申込み先・問い合わせ先 … 「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ⑩ 内容 … 箇条書きで合計400～480字程度。
「記載にあたっての留意事項」をご覧ください
- ⑪ 参考となる写真，ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑫ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑬ 準備物について
- ⑭ 受講者の声（アンケートからなど）

【合宿セミナー等】…1ページ

- ① 主な対象者 … 40字以内。「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ② 対象校（地域別，設置形態別） … 「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ③ 目標 … 250字程度
- ④ 講師氏名・所属大学・所属部署名 … （例）〇山〇夫（△△大学〇〇）
- ⑤ 日時・場所 … 具体的な教室名（建物名，階も）
- ⑥ 受講定員
- ⑦ 主催 … （例）愛媛大学教育企画室
- ⑧ 〆切 … （例）要問い合わせ，開催日〇週間前・先着順 等
- ⑨ 申込み先・問い合わせ先 … 「記載にあたっての留意事項」をご覧ください。
- ⑩ 内容 … 箇条書きで合計1000字程度。
「記載にあたっての留意事項」をご覧ください
- ⑪ 参考となる写真，ポンチ絵（スライド）があれば1枚お送りください。
- ⑫ 参考資料 … 参考となる書籍の名称等
- ⑬ 準備物について
- ⑭ 受講者の声（アンケートからなど）

(記載にあたっての留意事項)

■主な対象者（項目①欄）

対象者は、ニーズとのミスマッチを防ぐために、教員、職員、大学院生などの職種やニーズを明確に表現してください。複数を対象としても構いません。

例1) 授業でのグループディスカッションやゼミでのディスカッションをより活性化させたい教員

例2) FDを担当する教職員

例3) 新任教員(但し、授業担当経験5年以上を除く)、参加を希望する教員、

例4) 全教員、とりわけ講義を持つようになって間もない教員

例5) 職員(課長補佐以上)

また、記載方法については、以下の点にご留意ください。

・記載を統一する。

「事務職員、大学職員等」→「職員」。

「新規に採用された教員、初任者教員等」→「新任教員」

・対象校を表す言葉（〇〇大学、SPOD加盟校等）を使用しない。

「・・・であるSPOD加盟校の職員」→「・・・である職員」

「・・・以上の愛媛大学教職員」→「・・・以上の教職員」

・役職を統一する（大学独自の役職名ではなく、一般的な役職名にする）。

「グループリーダー」、「副課長」、「チームリーダー」等は使用せず、「課長」「課長補佐」、「係長」、「主任」、「係員」とする。

■対象校（地域別、設置形態別）（項目②欄）

できる限りSPOD全加盟校に開放してください。記載方法は、以下例示のように記載してください。

(例)

- ・SPODの全加盟校に開放・・・SPOD全加盟校
- ・愛媛県内加盟校のみ開放・・・SPOD加盟校（愛媛県内のみ）
- ・短期大学のみ開放・・・SPOD加盟校（短期大学のみ）
- ・愛媛県内の私立大学のみ開放・・・SPOD加盟校（愛媛県内の私立大学のみ）

■申込み先・問い合わせ先（項目⑧欄）

各プログラムの担当部署について、以下の項目を必ず記載ください。

- ・部署名
- ・担当者名
- ・住所
- ・電話番号、FAX番号
- ・メールアドレス

■内容（項目⑩欄）

対象プログラムがどのようなことを行うか分かるように詳しく記載してください。例えば、章毎のタイトルなどを明示するとわかりやすくなります。（「研修プログラムガイド2015」参照）

平成28年度SPODに開放するプログラム(研修プログラムガイド2016掲載)一覧

所属機関名					
研修名	日程	区分 (選択式)	遠隔配信 (選択式)	備考	
1					
2					
3					
4					
5					

(留意事項)

1. 本一覧表は、次の2つの目的で利用しますので、**平成28年2月5日(金)**までに所属する県のコア校及び愛媛大学教育企画課(spod@stu.ehime-u.ac.jp)に提出してください。
(1) 各コア校が、平成28年2月19日(金)締切の原稿をチェックするために必要な作業量の目安を把握するため。
(2) 「研修プログラムガイド2016」のページ数の目安を把握し、印刷期間、金額等をあらかじめ、業者と検討するため。
2. 本一覧表を提出する時点で、実施の可否が未定の場合は、その旨を記載した上で一覧表に掲載(記載例参照)し、原稿提出期限(平成28年2月19日(金))までに最終結果を所属する県のコア校へ連絡してください。
3. 区分欄は「FD, FD/SD, FDer, プレFD, SD, 総合」のうち、一つを選択してください。
4. 遠隔配信欄は、遠隔講義システムを持っている加盟校に対して遠隔配信が可能な場合は「○」を選択してください(必ず、研修等講師に遠隔配信の有無について確認してください)。
5. SPOD内講師派遣プログラムについては、記載不要です。
6. 適宜枠を増やしてご利用ください。

(記載例)

研修名	日程	区分 (選択式)	遠隔実施 (選択式)	備考	
わかりやすいシラバスの書き方	9月11日(金)	FD	○		
様々な評価方法	9月11日(金)	FD	×	現在、実施の可否検討中 (2月末の原稿提出時に回答)	
グループ学習のコツ	未定	FD	未定	実施はするが、日程及び遠隔配信については現在検討中(2月末の原稿提出時に回答)	

平成28年度学内向け研修プログラム一覧

所属機関名		担当部署	
担当者氏名		Eメール	
電話		ファックス	

研修プログラムガイド2015 P66
～71を参考に記載してください。

研修名	対象者	開催時期	目的・内容

(留意事項)

- 1. 本一覧は、各加盟校で実施されている研修・研究会のプログラムを他の加盟校が参考にするために「研修プログラムガイド2016」に掲載しますので、**平成28年2月19日(金)までに**所属する県のコア校に提出してください。
 - 2. SPOD内講師派遣プログラムについては、記載不要です。
 - 3. 平成28年度に各大学等において、学内向けに行うFD/SD/TAD研修・研究会等を記載例及び「研修プログラムガイド2015」のP66～71を参考に記入してください。
- ※開催時期について、未定の場合は「〇月中旬」、「未定」等で構いません。
- ※適宜枠を増やしてご利用ください。

(記載例)

研修名	対象者	開催時期	目的・内容
新任教職員研修	新規採用者(教職員)	4月7日(木)～8日(金)	新たに採用になった教職員に対し、本学職員としての使命と心構えを自覚させるとともに、業務遂行に必要な基礎知識、能力及び資質等を養成することを目的とする。

「研修プログラムガイド2016」チェックリスト(記載例)

①プログラム名【わかりやすいシラバスの書き方】(愛媛大学)

②対象 (以下より、あてはまる選択肢をひとつお選びください。)

【☒FD ☐FD/SD ☐FDer ☐プレFD ☐SD ☐総合】

③カテゴリ分類 (以下より、適当なカテゴリをひとつお選びください。ただし、編集の都合上、変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。)

【☒授業の基本 ☐参加型授業 ☐ICT ☐多様な学生への支援 ☐高専プログラム ☐総合プログラム ☐プレFD ☐ポートフォリオ ☐マネジメント ☐学習スキル ☐職場における多様性と健康 ☐ビジネススキル ☐リーダーシップ・組織開発 ☐その他】 * 各カテゴリについては「研修プログラムガイド2015」をご参照ください。④遠隔配信 【☒有 ☐無】

⑤FD レベルマップ(該当する枠中に○印をご記入ください。複数可)

フェーズ \ レベル	ミクロ 個々の教員 授業・教授法	ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム	マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度
I 導入(気づく・わかる)	○		
II 基本(実践できる)	○		
III 応用(開発・報告)			
IV 支援(教えられる)			

※SD レベルマップは、愛媛大学の SD 担当で作成しますので、チェック不要です。

⑥原稿内容(以下の項目について、明記されておりましたら、チェック欄に○印をご記入ください)

NO.	項目	確認事項	チェック欄
1	主な対象者	40字以内で明記されている ・語句の統一(教職員、職員、新任教員に統一)がされている ・役職の統一(課長、課長補佐、係長、主任、係員に統一)がされている	○
2	対象校	対象校について明記されている ・SPOD 全加盟校か SPOD 加盟校(○○県内のみ、短期大学のみ等)と明記されている	○
3	目標	目標が50～70字程度で明記されている	○
4	講師氏名等	講師氏名・所属大学・所属部署名が明記されている	○
5	日時・場所	日時・場所について明記されている。場所については具体的な教室名(建物、階数)が明記されている	○
6	受講定員	受講定員が明記されている	○
7	主催	主催について明記されている	○
8	※切	※切について明記されている	○
9	申込み先・問い合わせ先	申込先・問い合わせ先が明記されている	○
10	内容	準備物について明記されている	○
11	参考となる写真、ポンチ絵	参考となる写真、ポンチ絵(スライド)等を添付している	○
12	参考資料	参考となる書籍の名称等が明記されている	○
13	準備物について	準備物について明記されている	○
14	受講者の声	受講生の声について明記されている	○

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

活動報告書（冊子版）構成（案）

1. 会長挨拶 → 会長（愛媛大学 大橋学長）
2. SPOD事業の概要 → SPOD案内チラシ
3. 平成27年度事業計画 → SPOD事業計画
4. 平成27年度全体総括 → 全体総括，実施内容／成果
5. 平成27年度活動実績
 - (1) FDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数
新任教員，ティーチングポートフォリオ，アカデミックポートフォリオ，各種FDプログラム
 - (2) SDプログラム → 実施日程，実施場所，主催，受講者数
各種SDプログラム，スタッフポートフォリオ，SPOD-SDC名簿
 - (3) SPODフォーラム → SPODフォーラム2015の概要，チラシ，
シンポジウム内容，受講者数，アンケート結果
 - (4) SPOD共通事業 → SPOD内講師派遣の概要，実施状況一覧，
研修プログラム一覧，遠隔システム配信校一覧
調査研究プロジェクトの概要
 - (5) SPOD運営 → 会議開催日程
6. 平成27年度各加盟校の取組報告
7. 平成26年度事業評価委員会からの事業評価について → 評価，対応，要項，名簿
8. 平成28年度事業について → 平成28年度SPOD事業計画（案）

参考資料 ・ ネットワーク規約，役員名簿

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」

活動報告書（HP掲載用）構成（案）

はじめに

1. 会長挨拶
2. SPOD事業の概要
3. 平成27年度事業計画
4. 平成27年度全体総括
5. 平成27年度活動実績

（1）FD事業

①新任教員プログラムの開発，実施

- ・新規採用教員研修（5回）

→基準枠組対応表，新任教員研修（5回）の実施要項，アンケート結果

②教育業績記録（ティーチング・ポートフォリオ）の開発

- ・ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ（2回）

→TPWSの実施要項，アンケート結果（3月開催の分は実施要項のみ掲載）

- ・ティーチング／アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回）

→TP／APWSの実施要項，アンケート結果

（2）SD事業

①SDプログラムの開発，実施

- ・大学人・社会人基礎力養成プログラム（レベルⅠ～Ⅲ，共通）（5回）

→ 実施要項，アンケート結果

- ・国際連携系職員養成研修（1回） → 実施要項，アンケート結果

- ・社会連携系職員養成研修（1回） → 実施要項，アンケート結果

- ・次世代リーダー養成プログラム（4回） → 実施要項

- ・職員のための講師養成講座（2回） → 実施要項，アンケート結果

- ・高等教育トップリーダーセミナー（1回） → 概要，アンケート結果

- ・SPOD－SDC名簿

②職員業績記録（スタッフ・ポートフォリオ）

- ・スタッフ・ポートフォリオ作成ワークショップ（1回） → 概要，アンケート結果

（3）SPODフォーラム

（4）SPOD共通事業

① SPOD内講師派遣（加盟校単位 各1回 計22校）

→アンケート結果（受講者），アンケート結果（担当者，2月末〆切で依頼）

② 将来構想ワーキンググループ → 議事概要

③調査研究プロジェクト事業

- ・連携効果・組織変容検証プロジェクト（FD部門）
- ・連携効果・組織変容検証プロジェクト（SD部門）

（5）SPOD運営

① 「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会，FD／SD分科会

→総会及び分科会の実施要項

② ネットワークコア運営協議会，FD／SD専門部会 → 議事概要

③ 各県内加盟校会議 → 議事概要

6．平成26年度事業評価委員会からの事業評価について

7．平成28年度事業について

※1～4，6，7は冊子版と同内容

平成27年度 FD／SD活動の取組報告（案）

学校名： 学校名を記載してください。

【平成27年度の教育改革に関わる動向】

平成27年度の貴学におけるFD／SD活動について総括コメントを記載してください。

【FD／SDの取組事例ハイライト】

平成27年度に実施したFD／SDの取組事例について記載してください。

事例については、SPOD事業に関するものでも、貴学独自の取組でも構いません。

事例数に特に制限はありません。

【成果及び波及効果】

FD／SDの取組成果及び成果に関する情報の公表（手段・媒体）について記載してください。

【FD／SDに関わる次年度の課題】

平成27年度の取組内容を振り返り、次年度の課題や目標を記載してください。

※報告書はA4用紙1枚以内で作成してください。

なお、補足資料（SPODフォーラムポスターセッションデータを含む）がある場合は、別途添付してください。

※写真等の添付は必要ありません。

※上記4項目について記載していただければ、内容や書き方は自由です。

=====

※本報告書は平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」活動報告書に掲載すると共に、同ネットワーク総会及びFD／SD分科会の資料として、関係者に配付する予定です。

=====

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」総会
及びFD／SD分科会 実施要項（案）

主 催：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）
日 時：平成28年3月 13：00～16：00
場 所：（総会）愛媛大学城北キャンパス 南加記念ホール
（FD／SD分科会）愛媛大学城北キャンパス愛大ミュージアム
出 席 者：（総会）加盟校各大学長、短期大学長、高等専門学校長等
（FD／SD分科会）加盟校 FD／SD担当者等

【総 会】

- 13：00 開会挨拶 SPOD会長：愛媛大学長
- 13：05 平成27年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
実施状況について（25分）
- 13：30 平成28年度の「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」事業の
運営について（30分）
- 14：00 質疑応答（30分）
- 14：30 閉 会

【FD／SD分科会】※FD分科会及びSD分科会を2箇所で開催

- 15：00 各加盟校での取り組み状況の報告
今後の具体的な事業の進め方について
意見交換 など
- 16：00 閉 会

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」会計監査実施について

日 時：平成28年3月 10：30～ 1時間程度

場 所：愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ

出席予定者： 監事 佃 昌道（高松大学・高松短期大学長）

監事 橋本 公二（愛媛県立医療技術大学長）

対 応 者：小林企画・実施統括者（愛媛大学），SPOD事務局

実施内容：①平成27年度事業予算執行状況報告

②平成27年度事業実施状況報告

③質疑応答

※会計監査結果については，SPOD総会において報告する。

平成27年度「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」(SPOD)

事業評価委員会実施要項(案)

(趣旨)

平成27年度における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(ネットワーク略称=SPOD)」の活動内容や前年度の評価委員からの指摘事項に対する改善状況について、実績報告書をもとにSPOD事業評価委員会委員から評価を行っていただき、今後の事業推進に役立てる。

(主催)

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

(日時)

平成28年3月(3時間程度開催予定)

※各委員との日程調整後、正式に決定する。

(場所)

愛媛大学城北キャンパス愛大ミューズ(松山市文京町3番)

(参加予定者)

SPOD事業評価委員会委員

田中委員(九州大学), 福島委員(追手門学院大学),

徳永委員(大学コンソーシアム京都)

SPOD関係者

ネットワークコア校のSPOD-FD/SD担当者

(事務担当)

愛媛大学教育学生支援部教育企画課(SPOD事務局)

第24回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

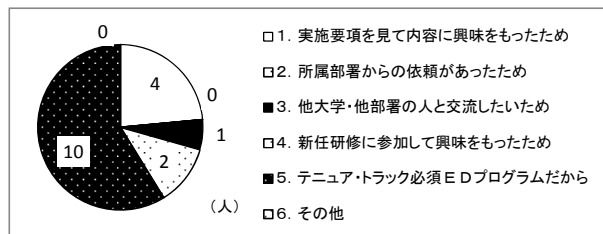
実施日 : 平成27年7月4日(土)～5日(日)
 実施会場 : 久万高原ふるさと旅行村
 参加者数 : 16名
 アンケート回答者数 : 14名(回収率87.5%)

所属先 : 4年制大学14名
 設置形態別 : 国立14名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか＜複数選択可＞

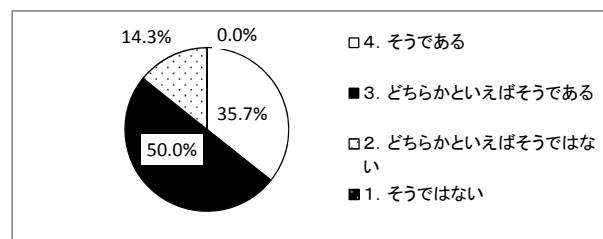
	回答数	割合
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	4	28.6%
2. 所属部署からの依頼があったため	0	0.0%
3. 他大学・他部署の人と交流したいため	1	7.1%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	2	14.3%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	10	71.4%
6. その他	0	0.0%



【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

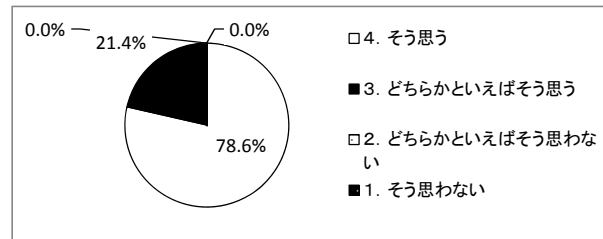
	回答数	割合
4. そうである	5	35.7%
3. どちらかといえばそうである	7	50.0%
2. どちらかといえばそうではない	2	14.3%
1. そうではない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

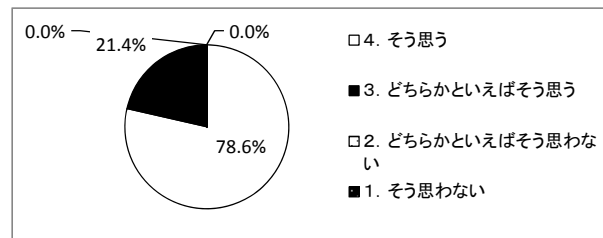
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



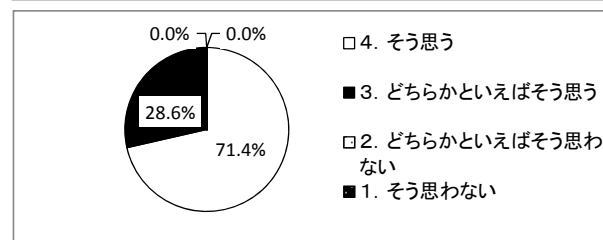
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



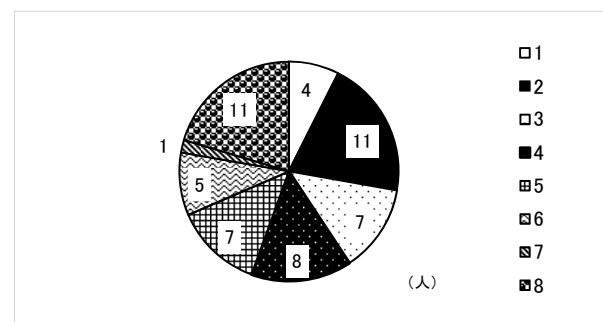
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

	回答数	割合
4. そう思う	10	71.4%
3. どちらかといえばそう思う	4	28.6%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか＜複数選択可＞

	回答数	割合
1. 「何が学生の学びを促進するのか？」(浅い学習と深い学習)について考える機会を得た	4	28.6%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	11	78.6%
3. コース設計&クラス設計について理解が深まった	7	50.0%
4. 複数の授業方法について知ることができた	8	57.1%
5. 成績評価について理解が深まった	7	50.0%
6. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5	35.7%
7. ワークショップの手法を知ることができた	1	7.1%
8. 他学部等の教員と知り合いになれた	11	78.6%
9. その他	0	0.0%

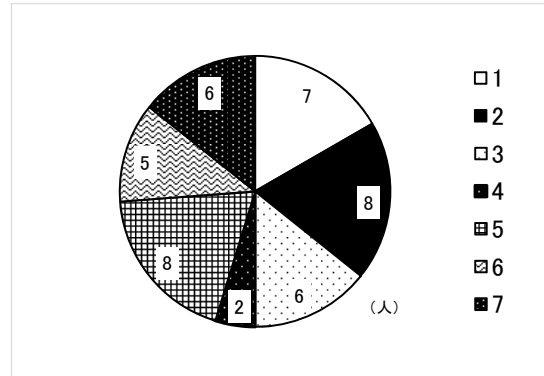


【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか＜複数選択可＞

	回答数	割合
1. 適切な目的・目標設定ができるようになるようになった	7	50.0%
2. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	8	57.1%
3. コース設計・クラス設計について知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	6	42.9%
4. 深い学び・浅い学びについて知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	2	14.3%
5. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できる	8	57.1%
6. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5	35.7%
7. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	6	42.9%



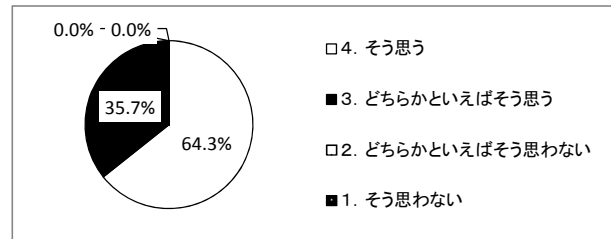
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

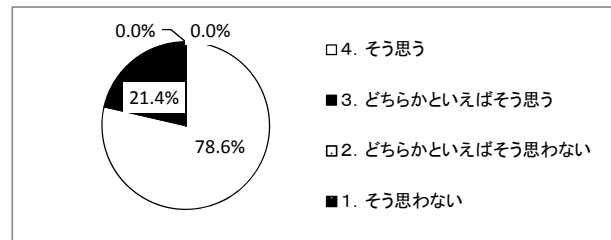
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
4. そう思う	9	64.3%
3. どちらかといえばそう思う	5	35.7%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



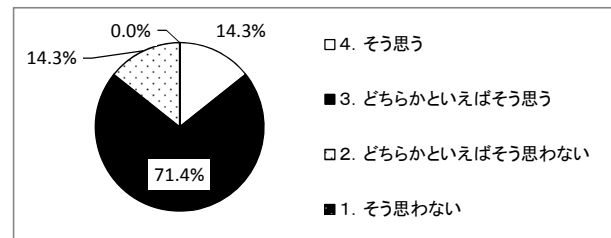
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

	回答数	割合
4. そう思う	11	78.6%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



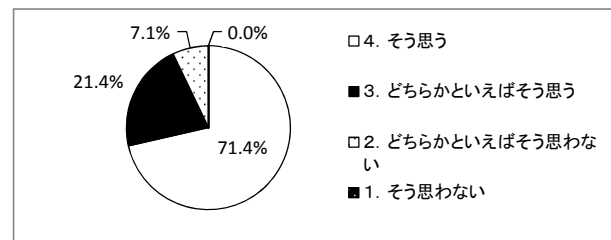
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

	回答数	割合
4. そう思う	2	14.3%
3. どちらかといえばそう思う	10	71.4%
2. どちらかといえばそう思わない	2	14.3%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	回答数	割合
4. そう思う	10	71.4%
3. どちらかといえばそう思う	3	21.4%
2. どちらかといえばそう思わない	1	7.1%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	14	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】今回のワークショップであなあなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)	教育実践の場でやってみてみたい点
ワークショップで学んだ点	
学生の学びを高めるために学生参加のロールプレイングを取り入れると効果的であることを学んだ シラバス作成については、シラバスが学生にとっただけではなく、教師にとっても自らの実践を計画する上で、また、これを振り返る意味でも大変重要な意味を持つ資料であることがよく理解できた。また、コース設計については、講義の目的、到達目標、講義ごとの目的、そして内容がそれぞれ一貫性・構造化をもって全体の講義を構成する重要性をよく理解できた。シラバスについてもコース設計についても、いわれればごくごく当たり前のことであるが、これまで自分ができていたかという点、全くできていない。これまでの自分の授業への向かい方を深く省察する良い機会となった。幸いにしてまだ自分が担当する授業が始まっていないため、次の機会は教わったことを基本的にシラバスを作ってみようと思う。	既に教育の場で取り入れているが、学生の学びを高めるために学生参加のロールプレイングを取り入れることや学生による相互評価の有効性をさらに高めたい アクティブラーニングの手法は是非、教育実践の場で取り入れてみたい。ただし、授業法の講義で教わった手法を実際に模擬授業でいくつか取り入れてみて、教師自身が「アクティブラーニングを通じて、学生にどのような問いについて考えてほしいか」について深く考えていないまま、小手先のテクニクとしてアクティブラーニングの手法を取り入れてしまうと、ただのゲームになってしまう危うさを感じた。コース設計やクラス設計をしっかりと考えた上で、そこに適切なアクティブラーニングの手法を埋め込んでいく思慮深さが重要であると感じた。今後、FD研修で各手法の講義があるようなので、是非参加したい。また、講義中で紹介された小道具セットはそれぞれかなりアナログなアイテムではあるが、それを使うことで既存の講義を改善できる可能性を感じた。是非使っていきたい。
私は今年から始めて授業を受け持つことになりました。自分が学生だったころも含めて、授業の準備、授業の方法、評価法など学んだことはまったくありませんでした。この一連の過程のすべてが私にとって新しいことでした。授業の準備・シラバス作成では、学生の視点で文章を作成することは重要であることを知りました。確かに自分自身で作成してみても、客観的に見たときに、これでどんな授業が行われるのか、どんなことが習得できるのか、わかりやすく解説する必要があると理解できました。特に私の受け持ち(必修)科目です。内容がどうであらうと授業に与える必要がありません。しかし、(選択)の場合はシラバスが唯一の判断基準となります。このように、重要な情報源だと考えました。また、授業の(目的)と(到達目標)も明確にすることで、学生へのメリットだけでなく、自分にとってもどのような授業構成にするか考える基準となることがわかりました。授業方法は、こんなに方法があるのかと驚きました。私自身も講義形式の授業しか受講したことがありませんでしたので、様々な形態の授業方法を知ることができて勉強になりました。成績評価については、まだ経験がありませんが、授業を開始する前から詳細に考えておく、公開する必要があると理解しました。学生にとっでは、どこに集中すればいいかわかりやすいこと、私にとっでは、判断を公正にすることに加えて、判断をスムーズにできる点があると理解しました。方法論については、今後行われるセミナーで勉強させていきたいと思います。	特に気に入ったのは、Yes/No カードです。授業中に学生の反応を知るのに有用だと思いました。以前の授業では、学生に手を挙げてもらって、反応を見ましたが、誰も手を挙げてくれませんでした。おそらく、恥ずかしいとか、何か質問されるかもと考えたかもしれない。私の担当の医学部の授業では、講義形式が多いので、私からの一方的な情報提供になってしまっているところを、このような方法によって、学生の意思をその場で確認できるツールとして有用だと感じました。
シラバス作成の手順、コース設計・クラス設計の手順や考え方について重要な点を認識することができた。階層分析や手順分析など、今後のシラバス改善や授業計画の改善に生かしていきたい。様々な授業方法の存在を知れただけでなく、模擬授業で他の受講者が実践しているのを見ることができ、その使用方法イメージも湧いた。	今回の模擬授業で用いた「マインドマップ作成」を自分の授業に取り入れてみたい。また、授業ははじめにアイスブレーキングを導入し、話しやすい授業作りを心がけたい。早口になってしまうのが自分の癖だと思うので、授業の中で重要なポイントは繰り返しなどとして、念を押す。学生への知識や考え方の定着を促進する工夫をしていきたい。

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみていた点
講師の先生方には熱心に指導をしていただき、さまざまなミニ講義を通じて、これまで知らなかった教育方法について学ぶことができました。また、同じグループのメンバーの方々がとても親切にして下さり、非常に助けられる場面が多くありました。良い教育とは何なのか、教育の本質とは何か、その意義とは何か。これらの問題は本当に難しいということを改めて認識し、ますます悩みが増え、心の闇が深くなりました。貴重な機会をお与えいただき、どうもありがとうございました。	まだ習ったばかりの内容ですので、自分のなかでその教育効果が明確に理解でき、自信がついてから取り入れたいと思います。来年度授業計画の段階になってから、授業内容との兼ね合いでじっくりと考える予定です。
・これまで中学・高校・大学で教えてきた経験があるため、授業自体に抵抗感はなく、また学生が「低年齢化」(言い方は悪いが)してきているため、高校までの教え方が大学でも十分通じる部分があった。しかし、このワークショップで学んだ「深イイ学び」「シラバスの書き方」「コース・クラス設計」「様々な授業方法」「学習評価」といった、これらの講義は大学という高等教育に合致した内容であり、これから大学という場で授業を行っていくうえで、大変有益であった。 ・講義以外にも、グループで共同作業を行うことにより、他の分野の教員と交流を持つ機会が得られたとともに、同じテーマに対して「そのようなアプローチの仕方があるんだ」と関心させられた。これは教育面だけでなく、共同研究を行ううえでも役に立つのではないかと感じた。 ・宿泊という長時間をともにすることで、参加したメンバーと一体感を持つことができたため、今後、大学全体として何かに携わっていく際に、そのような他学部の教員との「つながり」の基礎を気づくことができたのではないかと思う。 ・私の出身大学では、このような研修は全くないので、新任教員にとっては非常にありがたい制度だと思う。	・今回、「シラバスの書き方」という講義を通して、「目的」と「到達目標」の違いを理解することができたので、その点に注意しながら、「わかりやすいシラバス」を作成してみたいと思う。 ・これまでは漠然と授業設計(コース・クラスともに)していたので、「クラスター分析」や「階層分析」といった手法を駆使しながら、「おいしい目玉焼き」が出来上がるような授業を組み立ててみたい。 ・せっかく「模擬授業」で「ロールプレイング」を試してみたので、実際の授業でも、他の授業方法を試してみたいと思う。それに「模擬授業」では講師のご意見をはじめとして、他の教員からも授業の工夫の仕方や話し方など、学ぶことが多かったもので、それらを授業に取り入れていきたいと思う。 ・「学習評価」もこれまでは漠然と、点数順に「優良可不可」を付けていたが、学習成果(到達目標)を意識しながらの評価を心がけたいと思う。
シラバスの書き方・価値を教授することの難しさ	アクティブラーニング
今までは誰からも何も特に教わらずに、見よう見まねでシラバスを書いていたが、目的の設定方法や書き方、到達目標の具体的な設定方法や記述の方法を学ぶことができた。授業全体の計画を立てる場合には、学生に最後に何が残ってほしいのかを意識すること、一貫性をもった計画にすることが重要だと学ぶことができた。	模擬授業では、複数の先生の授業の様子を少し見ることができたので、よかった点を自分も真似をしようと思う。模擬授業でのコメントも、ポジティブコメントやチャレンジポイントとしていただいたことで、自分も相手のモチベーションを高めるようなコメントができるようになりたいと思った。実践の場では、さまざまな手法を取り入れて、学生に飽きさせない授業ができたらと思う。
授業のゴール、つまり、学生に身につけさせたい力、の明確化とその実現に向けてバッドデザインをすることが、授業に一貫性をもたせることになると思います。授業方法については、目的に応じて講義型を含めてそれぞれのよい点を効果的に選択することができるようにしたいと思います。コース設計・クラス設計とシラバスへの理解を深めることができました。学生にとっても教員にとっても分かりやすいシラバスの内容とその書き方について学ぶことができました。また、参加型の学習にするための教育方法を整理して学ぶことができたことは、今後の授業方法改善にも役立つと考えます。	後学期のシラバスは登録されていますが、後学期の最初の授業で配布するシラバスに今回学んだことを反映させたいと思います。特に数値目標を入れながらより具体的な内容にすることが必要です。また、ワールドカフェなどのさまざまな授業方法を紹介していただきましたので、これからの授業に積極的に取り入れたいと思います。この中のいくつかは中学校現場でも使っていましたがいまですが、学生が主体的に学ぶことができるよう、多くの方法を試してみたいです。

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
①「暗黙知」「経験値」として存在していた「シラバスの書き方」「成績評価」が「見える化」され、合理的・合目的にそれらを処理する手法を学んだ。 ②大教室での講義を担当するにあたって悩みの種であった「学生の反応」を引き出す技術について、具体的に知ることができた。とりわけ模擬授業の際にいただいたコメント(赤青カードのメリット、拳手のデメリットなど)は参考になった。小さくかつ技術的なことではあるが、知ると知らないではやはり違う。 ③授業評価についても、大教室講義、とりわけ評価のやりにくい「人文系概論」でもルーブリック評価は使えそうで、これは是非実践したい。①②③を通じて、初任時に知っておくと「便利」な技を多く教示していただき、意義のある講習であったと感じる。	すでに記したが、②に関しては赤青カードや大きな指し棒の導入、③に関してはルーブリック評価は、すぐにでも取り入れていきたい(もしくは作成してみたい)。
これまでシラバス内の「授業の目的」、「授業の到達目標」、「授業概要」についての書き分けが判然とできなかったが、シラバスに関する必要事項を学び、具体的に書くように、学生が主語となるように、到達目標を知識・技能・態度の三領域に書き分けるなどの具体的な指針を知ることができた。さらに、シラバスの模擬作成の際にこれらの指針を実践することでシラバスを書く際の作業の流れが明確に把握することができ、シラバス作成を大幅に効率化できたように思えた。	今回の模擬授業では「クリッカーの活用」を中心として授業を組み立てていったが、実際に授業を行う際には「クリッカーの活用」のみではなく、「バズ学習」や「シンク・ペア・シェア」等のグループワークについてもやってみたいと思った。しかしながら、今回のような大人数規模(～100人)を想定した場合、グループワークをただ単純に行うだけでは学生の集中力を保つことも難しいものと思われるので、実際に大人数規模の授業を行うまでに集中力を保たせた上でグループワークに取り組みさせる工夫について考えていきたいと思う。
シラバスの書き方、授業計画の書き方などが参考になった。また、グループワークの方法や成績評価法の具体的な方法を学ぶことができ、勉強になった。	簡単なグループワークであれば実践してみたいと感じた。
今年度初めて、1科目のなかの講義1クラスと技術演習1クラスを担当しました。授業案作成に苦勞しましたが、今回のワークでの学びを楽しみにしていました。課題分析図になじみがなかったのですが、分析図にすることで、授業の課題や流れが明確になることを感じました。次回授業案作成時に、課題分析図の活用を考えています。	レポートを課題にすると、その評価に数時間を要し、教員の負担も大きくなっていきます。今回紹介された授業方法にピア・エディティングがあり、グループワークのときも、ピア・エディティングの活用がありがりました。自己の実践でも、活用できないか検討してみたいと思っています。
【学んだ点】 ・学生への配慮 学生への配慮を一番大切にしているにもかかわらず、無意識のうちに配慮できていなかった自分にショックを受けました。授業だから、当たり前のようにいろいろなことを求めていること・押し付けていたことに反省するばかりです。 ・周りの先生への声かけ 同じグループの先生から、他の先生に対する声かけと配慮する姿勢を学びました。一人一人の先生を呼名しながら、話しかけたり、ヘルプを出しやすいようにされていた姿勢に学ばせていただきました。 ・無意識にいろいろな動作をしていることに気付かされました 授業内で出されたこちらの意図しない意見の拾い方など、いままで気づかないことを指摘されて気づかされました。	【教育実践の場でやってみたい点】 ・学生への配慮を、授業前に再度意識してみる ・スタディスキルをつける授業方法を再検討してみる

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありますらご自由にお書き下さい

プロジェクトを使った講義や演習もよく行うので、ぜひ、プロジェクトをそろえてほしい。一方、手作りの備品を使った講義も新鮮でした。	まずはワークショップを設計していただいた教育企画室の皆様、お疲れ様でした。私は教職免許を持っていないので、これまで「どう教えるか」の思想や手法については、気になりつつも全く無頓着でしたが、本ワークショップを通じて多くの発見がありました。今後も積極的にFDに参加していきたいと思えます。ありがとうございます。借越ながら最初は「やる気のないう人がいる」とパフォーマンスが落ちる（グループのパフォーマンスを上げるのがこの研修の目的ではないし、やる気のない人がグループで出した結果にただ乗りされると感情的によりしくないので、グループワークじゃなくて、1人でやった方が良いんじゃないか」と思っていました。結果的にはグループで意見を出し合い、協力的ながら作業して、良い結果が得られました。	所属学部では、他学部の先生との交流はなかなか難しいですが、このような機会を通して交流がもてましたので、とても有意義でした。とくに、私は授業経験がありませんでしたので、先輩の先生からコツを聞くことができて、さっそく取り入れたいと思います。また、同じ立場の先生とは悩みなどを共有できて心強いと思いました。ワークショップ全体も講師の先生とスタッフの先生が緻密に計画されていて、非常に快適に受講できました。改めて、感謝申し上げます。蚊取り線香は、せまい空間ではおいが強烈だったので、別の器具でもよかったのでは？ ケビンは非常にすばらしい建物でしたが、タオルやジャンプナーなどもって来ませんでしたので失敗でした。書類かメールに必要事項として書いてありましたでしょうか？読み飛ばしていただきます。	お世話になりました。レクリエーションや最後のお見送りなど、スタッフの皆さんのご配慮を感じました。ありがとうございました。	スタッフの十分行き届いた配慮のおかげで、すばらしい企画を体験させていただき、大変満足しております。もし可能であれば、初日（土曜日）の午前中に初めて顔を合わせたグループの交流を深める意味でも、せめて最初の食事（土曜日の昼ごはん）くらいは、企画室側がグループごとに席を固定させてもよいかなと感じました（もちろん、他の教員と交流する意味でも、土曜日のお昼以降の食事は自由な席でかまわないと思います）。あと、「ケビン」の部屋割りは大変「適切」だったと思います。私自身は法文学部ですが、教育学部の先生方と同じ部屋だったことで、同じ「文系」の教員が持つ悩みなどを語り合うことができました。そのような配慮をしていただいた企画室の皆様には感謝いたします。本当に2日間、スタッフの皆様にはいろいろとお世話になりました。大変すばらしい体験をありがとうございました。	いろいろと準備、ありがとうございました。模擬授業を実施してみて、もっと授業がうまくできるコツ（学生の興味関心を引くような授業の方法、話し方）も学びたいと思いました。研修場所ですが、伊方町の瀬戸アグリトピアも、ロジックがきれいで快適で、景色も良く、おすすめです。（大浴場もあります）模擬授業の場所等も確保できると思います。	ワークショップでは大変お世話になり、ありがとうございました。グループを組んで10分間の模擬授業を考えると、たいへんよいことだと思います。それぞれの専門分野がかわらないようにテーマを与えてくださったのも納得できたものでした。模擬授業では主として目標にあわせてどのような授業方法を採用して進めていくかに焦点を当てるのだと考えておりましたが、グループ学習ではつい内容面を深く考えることに時間がかかってしまいました。あまり授業経験のない先生方のアイデアを生かして活躍してもらおうと考えていたのですが、私のほうでももう少しうまくマネジメントすればよかったかなと反省をいたしました。土日の合宿を行うと、月曜日の授業に少々疲れを感じるのには年齢のせいですね。スタッフのみなさまにはたいへんお世話になりました。ホスピタリティを感じました。ありがとうございました。	①天候不順のなか、諸準備そして講習を実行していただいたスタッフの方々にはまずはお礼申し上げます。 ②感想等はアンケートの通りですが、概論系授業の考え方・組み立て方に関する講習としては、大変実践的で有意義なものであったと考えます。 ③全体として汎用性の高いものでしたが、「人文科学」「社会科学」「社会工学」系に特化した講習もあれば受講したいです（多分そのようなプログラムもあるのでしょうか）。例えば先日受講したサイエンスビジュアルライゼーションも理科学が想定されており大変役に立ったのですが、方法論が異なる部分もあるので、違和感も多少ありました。いずれにせよ、今回の内容を自分の授業実践のなかでアレンジしていけばよい話なのですが。	スケジュール上難しいかもしれませんが、トイレ休憩等の時間があればよいと思います。	ハードでしたが、楽しく参加できました。1泊でしたので、学習以外にも、飲食や移動などの面でもお気遣いいただき、とても助かりました。また、スキルアップできるような機会がありましたら、参加したいと思えます。ありがとうございました。	このたびは、大変お世話になり、ありがとうございました。スタッフの皆様は、学ばせていただくとともに、大変居心地よく研修に参加させていただきました。他の大学の研修で、まったく知らない先生ばかりの中で、2日間気持よく過ごせたのも、全プログラムがよく練られているからだと思います。授業づくりに通じる姿勢を教えてくださいたいように思います。本当にありがとうございました。今後ともどうかよろしく願っています。
--	---	---	---	---	---	--	---	---	---	---

第25回授業デザインワークショップ事後アンケート結果

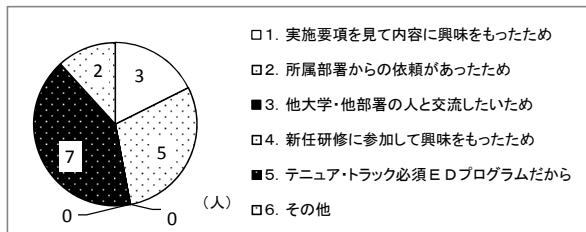
実施日 : 平成27年9月1日(火)～3日(木)
 実施会場 : 愛媛大学城北キャンパス
 参加者数 : 18名
 アンケート回答者数 : 17名(回収率94.4%)

所属先 : 4年制大学11名 設置形態別: 国立10名
 短期大学5名 公立1名
 専門学校1名 私立5名
 国立高等専門学校1名

【設問1】本ワークショップの参加の経緯についてお答え下さい

【1-1】ワークショップへの参加動機は何ですか<複数選択可>

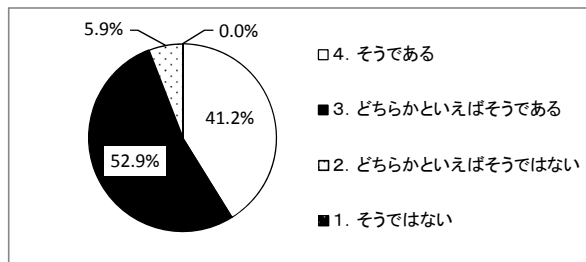
	回答数	割合
1. 実施要項を見て内容に興味をもったため	3	17.6%
2. 所属部署からの依頼があったため	5	29.4%
3. 他大学・他部署の人と交流したいため	0	0.0%
4. 新任研修に参加して興味をもったため	0	0.0%
5. テニユア・トラック必須EDプログラムだから	7	41.2%
6. その他	2	11.8%



【1-2】1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
 先輩教員からのすすめ
 昨年新任だったが参加できなかったため

【1-3】ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

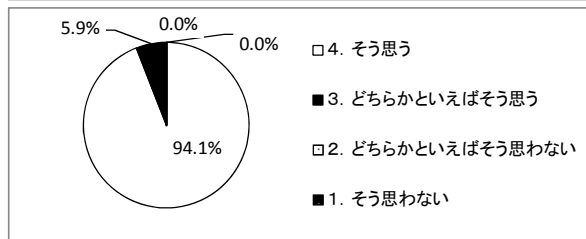
	回答数	割合
4. そうである	7	41.2%
3. どちらかといえばそうである	9	52.9%
2. どちらかといえばそうではない	1	5.9%
1. そうではない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【設問2】本ワークショップの内容についてお答え下さい

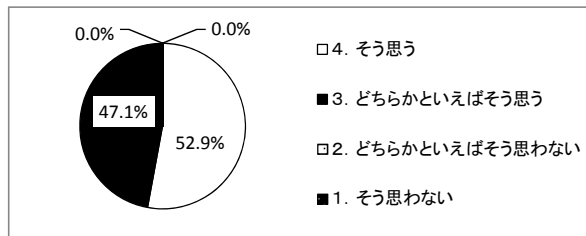
【2-1】ワークショップの目的は、明確に設定されていた

	回答数	割合
4. そう思う	16	94.1%
3. どちらかといえばそう思う	1	5.9%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



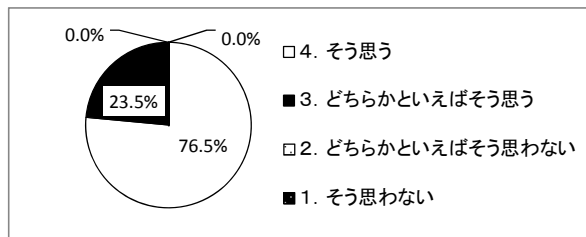
【2-2】ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

	回答数	割合
4. そう思う	9	52.9%
3. どちらかといえばそう思う	8	47.1%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



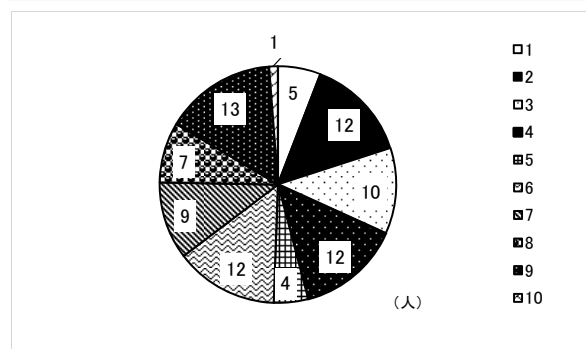
【2-3】ワークショップは、わかりやすい順序ですすめられていた

	回答数	割合
4. そう思う	13	76.5%
3. どちらかといえばそう思う	4	23.5%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【2-4】ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか<複数選択可>

	回答数	割合
1. 「何が学生の学びを促進するのか?」について考える機会を得た	5	29.4%
2. シラバスの書き方についての理解が深まった	12	70.6%
3. コース設計(1科目の授業計画)について理解が深まった	10	58.8%
4. 複数の授業方法について知ることができた	12	70.6%
5. 成績評価について理解が深まった	4	23.5%
6. クラス設計(90分の授業計画)について理解が深まった	12	70.6%
7. 自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	9	52.9%
8. ワークショップの手法を知ることができた	7	41.2%
9. 他学部等の教員と知り合いになった	13	76.5%
10. その他	1	5.9%

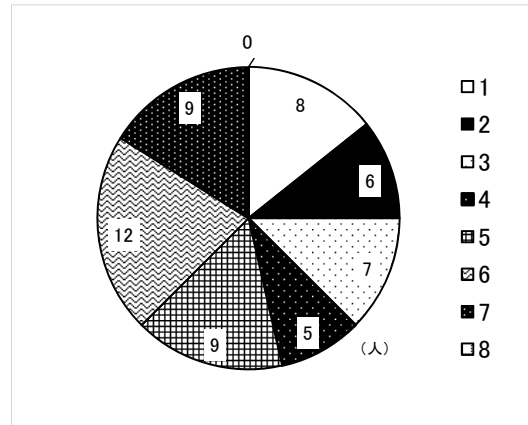


【2-5】2-4で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい
 抱いていた悩みが、自分だけのものか、新任教員共通のものか、知ることが出来た

【設問3】本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい

【3-1】ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか＜複数選択可＞

	回答数	割合
1. 適切な目的・目標設定ができるようになった	8	57.1%
2. 「何が学生の学びを促進するか」について知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	6	42.9%
3. わかりやすいシラバスを書けるようになるようになった	7	50.0%
4. コース設計(1科目の授業計画)について知り、目的・目標にあった授業計画を立てることができるようになった	5	35.7%
5. 様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	64.3%
6. クラス設計(90分の授業計画)について知り、目的・目標にあった授業計画を立てることができるようになった	12	85.7%
7. 様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	9	64.3%
8. 学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	0	0.0%



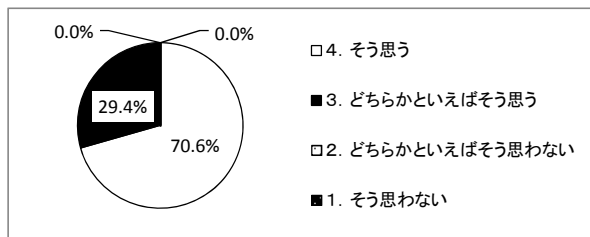
【3-2】ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

→別添資料参照

【設問4】本ワークショップの研修環境についてお答え下さい

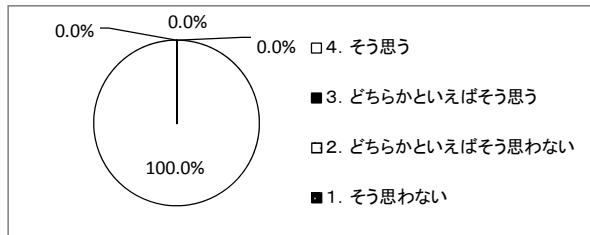
【4-1】講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
4. そう思う	12	70.6%
3. どちらかといえばそう思う	5	29.4%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



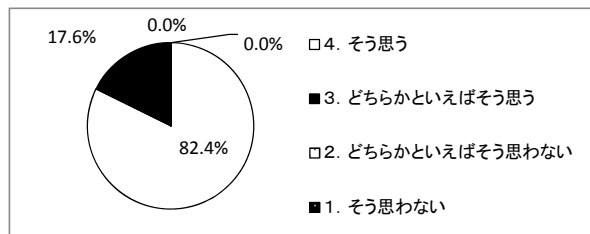
【4-2】事務局は手際よくワークショップを運営していた

	回答数	割合
4. そう思う	17	100.0%
3. どちらかといえばそう思う	0	0.0%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



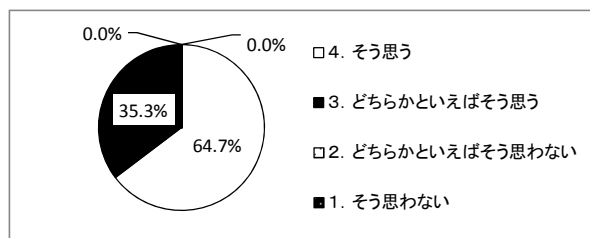
【4-3】ワークショップ会場は快適な環境であった

	回答数	割合
4. そう思う	14	82.4%
3. どちらかといえばそう思う	3	17.6%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【設問5】本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

	回答数	割合
4. そう思う	11	64.7%
3. どちらかといえばそう思う	6	35.3%
2. どちらかといえばそう思わない	0	0.0%
1. そう思わない	0	0.0%
合計	17	100.0%



【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

→別添資料参照

【3-2】今回のワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
よりよいシラバスの作成方法や授業計画・クラスの設計、様々なグループワークの方法について、特に学ぶところが多くあった。	シラバスは、すでに今年度分は提出済みなので、後期の授業ではクラス設計のところで学んだことを反映したい。グループワークに関して学んだことは、ゼミの場で生かせると思うので、適宜取り入れたい。
学生目線での授業とはどういうものか、の一端を垣間見ることができた。	グループワークの効果的な活用を考えてみたい。
まだ1度しか授業をしたことがないので、今回学んだことはどれも実践できることだと思いました。自分の授業を振り返ってみると、ひたすら喋っていたと感じたので、進行途中に、理解度の確認を入れることは大切だと感じました。	私の担当する教科は、覚えることも重要な科目でもあり、また考える力も養っていく必要もあるため、グループワークなどを活用していこうと感じました。
	オムニバスで授業を行うため、シラバスを書くことはないのですが、授業計画を書くこととはあるので、指摘していただいたことを踏まえて12月の授業を作りたいと思います。
・シラバスのよりわかりやすい書き方が分かった。 ・自分の授業の改善点を模擬授業によって理解できた。	・さまざまなグループワークの手法を今後授業で実践してみようと思う。
従来の講義では漠然と行っていた教育方法等の点が認識できた。	
・丁寧に教えてくださり、授業を担当するにあたっての必要な知識と技術について理解が深まりました。実際にできるかどうかはわかりませんが、チャレンジしていきたいと思っています。	・特に様々なアクティブラーニングの技法を教わりましたので、担当する教科で目的に合うものを選択し、是非試してみたいです。
現在、実技系と講義系両方の授業を担当しているが、講義系の中で学生たちにワークショップを科すことができそうな方法を学んだ。ただ、やり方を考えないと、一部のもとと知識を持っている者、熱心に事前に調査したことのある者が中心になる可能性も大きいと思った。そのような点を考慮しつつ、講義系の授業で徐々に取り入れていきたい。	
一方的な講義より、グループ作業を行う方が授業に意欲的に参加できるということを身をもって学んだ。 今までシラバスを重要視していなかったが、それが間違っていた事に気付かされた。	様々な授業方法があるので、自分の担当する科目の特徴や学生人数などを考えて、適切な手法を取り入れていきたい。

【3-2】 今回のワークショップであなあなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみてみたい点などをお書き下さい(200字～400字程度)

ワークショッップで学んだ点	教育実践の場でやってみたい点
・クラス設計の改善です。前期は90分間、話しできることしか頭の中にありませんでした。 ・模擬授業を通じて、指摘を受けた授業態度などの改善です。学生たちからも指摘を受けていたけど、改善方法がわかりませんでした。ワークショップ終了後、どのようになれば改善できるか、改善策が複数もてました。	
	知識伝達に特化した講義を展開していたので、学生参加型の手法を取り入れてみたいと思う。
	これからの授業において、わかりやすいシラバスを用意してみたいです。また、評価リストも作ってみたいです。
授業デザインという言葉のとおり、「授業を組み立てる」ということに含まれるものを確認したり、あらたに知ったりしたことで、これからコースやクラスの設計をしやすいように感じます。 さまざまな授業方法については、名前は知らなかったけれどもすでにやっているものもあり、よりそれを方法論として意識するようになったと思います。	
	各種グループワークを積極的に授業に取り入れていこうと思う。
授業の構成やシラバスの書き方、成績評価について、手法や教員が注意すべき点を具体的に学べた。また、模擬授業後の意見交換では、自分の講義について、「学生からどう見えるか」という観点から大変有益なアドバイスをもらえたように思う。 グループワークの手法は、(そのままだと使いにくいとしても)上手く工夫すればエッセンスを授業に組み込めそうなものが、いくつかあるように感じられて大変参考になった。	
バズセッションやピアエディティングなど、似たような方法を行った事があり、それらのよりよい実施法と注意点、欠点について学べたので、今後の授業に活かして行きたい。	
シラバスや、授業計画、そして成績評価についても、まずは目的を目標を明確することが大切であることを改めて学ぶことができた。	また、1時間の中においても講義だけでなく、今回学んだ様々な技法を用いて、学生が参加していく授業を組み立てていきたいと思った。

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

・まず初日は県外からの参加もあることから午後からの開始とし、終了をその分遅くすればどうか？交流会は7時半からのスタートにすればなんら問題ないのでは？
 ・交流会は大変重要と思うが、立食にし、できるだけ多くの交流ができるように工夫すべきでは。交流会こそ学長に参加してほしい。
 ・全体として満足のいく研修会であったが、学生に読んでもらってこそそのシラバスという視点では弱いように思う。精緻な、厳密な表現にこだわっても学生に伝わらなければ意味がない。
 ・今後は教育方法のプログラムの皆さんに、金を出してでも買いたいと思わせるようなシラバスを追求していただければ幸いです。
 ・大変お世話になりました！

自分のグループでのメンバー間の交流は存分に図れたのだが、他グループの人が誰であるのかが全く分からなかった。最初にグループ間だけでなく、名前と所属程度の自己紹介が全体であってもよかったのではと思う。
 それ以外はとても満足しました。ありがとうございました。

アクティブラーニングについては大変理解が深まったので、もし機会があれば、パッシブだがよりわかりやすいいわゆる「講義」のコツを知れたらよいと思う。

運営担当の先生方はお疲れ様でした&ありがとうございます。

感想を率直に言えば、今回の講義の前提として、いわば”優等生”的な学生のみを対象にしていると感じました。

しかし、実際の教育現場では、計画的な方法論・実践以前の問題として、学生の授業態度などを受けて、教員側はフレキシブルな対応が迫られており、かつ困っている方が多いのが現実だと思えます。
 以上のような問題の改善・解決方法をレクチャーしていく事も求められるのではないかと感じました。（※愛媛大学では必要ないかもです。）

・専門する分野とまったく異なる先生方と、一緒にグループワークなどの作業を通し、交流を深めることができたのは、刺激にもなり、率直に楽しかったです。試行錯誤しながら模擬講義までたどり着けたことに、達成感を感じました。色々のご指導ありがとうございました。
 ・今後も、学びの継続として、研修には積極的に参加させていただきます。

これはここで提案しても不可能なことであろうが、シラバスの書き方などは、大学教員に採用されるまでに受けるべき授業であるように思う。実際、採用通知が1月初旬、1月末までにシラバスを記入、と連絡がきて、全く知識のないまま記入しているわけだ。採用前にシラバスを記入するのはいいかもしれないのであるが、採用後半年後（わたくしの場合には1年半後）に受講し、すでに当該年度の後期までシラバスを記入しているわけだ。正直なところ、この件に関しては少し疑問を持った。実際、昨年度、今年度も担当者よりシラバスを提出後、改定するように指導され、そのようなことを今さら何度も聞いたことをうかがっても得るものは多くはないように思う。授業の方法に関しては上述の通り、大変参考になった。
 また、専門外の内容を10分で授業する、それを組み立てるのは興味深かった。従来から学生や外部で私が講師として話す内容で、「自分の専門に関して授業をできるのは当然。専門外のことであつたとしてもどのようなように相手を前にして15分間『もたせるか』ということは、教員にとつて必要な資質である。」と述べている。実際に、今回自分自身がつたぐ門外漢の内容で授業を計画したことは、非常に勉強になった。今回の経験は、今後の授業においても学生たちに披露できる内容であつたように思う。
 準備、実施、作業に当たられた方、どうもありがとうございました。

【設問6】本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい

緊張し、頭も使う作業の連続でしたが、アイスブレイクやチームの仲間との交流で、気持ち少し楽になりました。お茶やお菓子などは、最初はいいのとは思いましたが、場をなごませてくれるツールとなりました。とても有意義なワークショップだったと思います。
参加者自身に考えさせるばかりでした。
考えたことについて、コーチ陣と意見を交換し、コーチ陣たちから「私(コーチ)は、このようにしている」などが、もっと厚く聞きたかったです。
ミニ講義やグループワークの過程で、いろいろな先生方の授業での実際のエピソードや工夫されていることを聞いたのがよかったと思っています。ただ、人文学科の場合、「一定の知識を決まった期間で伝える」「特定の技能を身につけさせる」という授業内容でない分野も多くあります。その場合に、取り入れにくい部分もあるかなという気もしました。
講義(lecture)のよりよい方法についても学べたと思います。
お屋の手配やお茶菓子の準備等きめ細かい心遣いがありました。おかげで、グループ活動の休憩等ホッとした気分になりました。ありがとうございました。

平成27年度「授業設計ワークショップ」アンケート集計結果(回答数: 41名) 6月20日～21日開催

問番号	回答項目	大学	短期大学	高等専門学校	その他	未解答	合計
1-(1)	所属先	37	3	0	0	1	41

問番号	回答項目	国(国立大学法人)	地方自治体(公立大学法人を含む)	学校法人	その他	未解答	合計
1-(2)	所属先の設置者	34	0	6	0	1	41

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。	※下記に記述
-----------	----------------------------------	--------

2.参加への経緯について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
2-1	授業設計ワークショップの目的や内容についてある程度知った上で参加した	10	13	11	5	2	41
2-2	自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した	7	13	13	5	3	41
2-3	授業設計ワークショップの内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した	4	9	15	10	3	41

3.プログラムの設計について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
3-1	授業設計ワークショップの目的は明確に設定されていた	26	10	3	0	2	41
3-2	授業設計ワークショップは自分の業務に生かせる内容だった	24	12	3	0	2	41
3-3	授業設計ワークショップはわかりやすい順序ですすめられた	20	13	6	0	2	41
3-4	授業設計ワークショップの時間は目的を達成するために丁度よい長さだった	9	18	6	6	2	41
3-5	授業設計ワークショップの実施時期は適当だった	15	13	5	6	2	41
3-6	参加者の人数は適当だった	18	19	2	0	2	41

4.講師について		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	未解答	合計回答数
4-1	講師の言動は学習意欲を高めた	16	17	5	1	2	41
4-2	講師は研修に必要な知識を十分に持っていた	19	17	3	0	2	41
4-3	講師の用意した教材はわかりやすかった	19	11	9	0	2	41

5.研修の会場・スタッフについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計 回答数
5-1	授業設計ワークショップ会場は快適な環境 だった	30	8	1	0	2	41
5-2	授業設計ワークショップ会場には十分な設 備が整っていた	31	7	1	0	2	41
5-3	スタッフは手際よく研修を運営していた	27	9	3	0	2	41

6.授業設計ワークショップについて		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計 回答数
6-1	自分に必要な知識やスキルを身につける ことができた	14	20	5	0	2	41
6-2	受講したことによって教育への取り組み方 が改善されると思う	21	17	1	0	2	41
6-3	新たに人的なつながりをつくることができた	15	17	5	2	2	41

7.授業設計ワークショップ全体について		そう思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そう思わな い	未解答	合計 回答数
7-1	授業設計ワークショップは全体的に満足で きるものだった	19	14	6	0	2	41
7-2	授業設計ワークショップは期待を上回る内 容だった	12	21	6	0	2	41
7-3	今後も、授業設計ワークショップを継続して いけばいいと思う	20	13	5	1	2	41

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加してよかったと思われる点を、具体的 にお書き下さい。	※下記に記述					
	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具 体的にお書き下さい。						
	その他、お気づきの点があればご記入ください。	※下記に記述					

1-(3)自由記述	現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。
1	授業の手法を多く学び実践できるようにすること
5	e-learning
6	・多様な学生への対応スキル ・講義科目が実社会でどのように役立っているかを分かり易く伝えるスキル
8	・授業の進め方 ・資料作成法
9	学生との適切な問いかけ
10	全体の授業設計
11	喋ることについて自信がありません
12	学生とのアイコンタクトなどのコミュニケーションスキル
13	研究
14	学生をひきつけることができるしゃべり方
15	授業の種類と内容を理解する
16	・講義の方法 ・アクティブラーニング
17	学生とのやりとり
18	板書中の学生とのコミュニケーション・アイコンタクト
19	学生の興味を引き出す講義法
20	講義を行う学生さんのレベル、様子を的確に判断すること
21	学生に興味を持たせる方法
23	アクティブラーニングを上手く実施するためのスキル
24	・アクティブラーニングへの取り組み ・目標の明確化
25	Active Learningの知識の取得と導入
26	学生が本当に理解しているのかを判断
28	授業準備のスピードアップ
30	e-learning等新たな授業方法に関する事項
31	・単調な話し方、講義を改善する ・学生との相互交流ができるような方法を考える
32	学生を引き付ける話し方、講義の仕方
34	・教材作成のスキル ・学生の授業内容定着のためのプログラム作り
35	学生とのやりとり
36	講義の進め方
37	教育手法にバリエーションを持たせること
38	授業設計と種類
40	利用できるICT(ラーニングポートフォリオ等)の利用・理解
41	授業における伝達のテクニック

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
1	・全く講義をしたことがない人にとっては必須であると思う。 ・他の教員の講義を聞けるのは大変参考になる。
4	他学部の人考え方

自由記述	「授業設計ワークショップ」に参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。
5	知らない授業方法を知る事ができた
6	・他の先生方の講義を聞く機会を得られたことは非常に良い経験でした。 ・自分の講義に取り入れたいアイデアを知る事ができた。
8	他の先生の授業を体験できるようになった。
9	・シラバスの書き方がよくわかった。 ・自分の講義の問題点が分かった。 ・教員間のつながりができた
10	・大学教育というものの認識、理解ができた。 ・Active Learningなど今後の授業。講義を含めたプレゼンテーションについて新しい知見を得る事ができた。
11	・目標・目的の明確化、シラバスの書き方 ・他の先生の授業を見る事ができた。すごく勉強になり、刺激となりました
13	・新しい取り組みを行う意欲がわいた ・他学部の先生方の講義は大変興味深く、様々な手法を教えて貰った
15	色々な授業の種類を知りました。すぐにできなくても、5年くらいで実施できそうだと思います。
16	疑似講義を通じて、自分の講義を見直すことができた。講義にすぐに導入しようと思った
17	自分自身の授業の振り返りが良かった
18	模擬授業でコメントを頂けたこと
19	教育の方法論を体系的に話を聞ける
20	現場で実際に授業をしている先生方の意見を聞けたことです
21	・色々な授業手法を知る事ができたこと ・他の先生の授業を見る事ができた
22	学部が異なると、教育に対する思想が違うということが分かったこと
24	他の先生方の授業を知り、話し合うことで問題点・悩みなどを共有できた
25	Active Learningの方法について学べたこと
26	自分が受けてきた「授業」が最早通じないということが明瞭になった
30	自分の授業を客観的に評価していただけたこと
31	・授業で試してみたい手法。事例が多くあった ・模擬授業で素直な意見を得られた
32	授業改善のヒントを得た。特に授業の目標を学生に意識させること、EQトーク、反転授業の実施
34	・反転授業など細心の授業方法に関する知見が得られた。 ・模擬授業を行い評価されることで自分の授業を客観視できた
36	模擬授業は良かった
37	授業形態に様々なものがあることが分かった
38	授業を行うに当たって、色々な方法があることを知った
39	他の先生の授業を受講できたのはいい勉強になりました
40	・模擬授業で多くの先生の授業にふれることができ参考になった。 ・改善のための具体的な方法が理解できた
41	模擬授業で他人に見て貰ったり、他人の授業を見る事ができたことは大変役に立ちました

7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
1	個別の資料(プリント等)が多いので冊子にするなどまとめるといいのではないのでしょうか
4	開催の時期を後期にしてもらいたい。学部によっては授業の数が5-7あります。初年度の前期は週末すら授業準備に追われている方々がいます。この時期にFDをすると準備がしっかりとできない状態で授業をしないといけません。これでは学生にも不利益だと思います。
6	より多くの先生の講義を見れた方が良いと思う
8	短期詰め込みで「何を学習したいか」が十分に消化しきれなかったため3日に分けてほしい

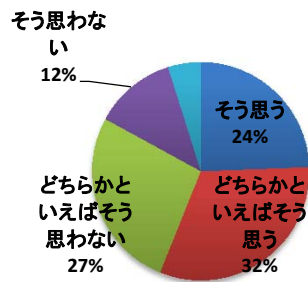
7自由記述	このプログラムをよりよいものにするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。
10	事前のe-learningを一部に行うことでしょうか。全部は多分見てこないでWSの目的・目標をたとえば文部科学省の方針や大学の最新の動向を踏まえた短い動画があれば良いかもしれません。たぶん研究所や病院勤務から来た人は教育やFDなどへの認識が薄いと思います
12	2日間は長すぎると思います。内容を吟味すれば1日で十分だったと思います。中途半端なワークショップは必要ないと思います
13	出来れば1日で終わらせてほしい。時期については学会シーズンを避けてほしい。殺人的スケジュールの中で参加しました
18	平日にしてほしい
19	8月、9月にすれば土日は避けられると思います。模擬授業は分野の近い人でまとめた方が指摘しやすい
20	新任だけの教育をしても意味がないと思います。失礼ですが、”既存の方でこのプログラムの受講を必要としない”としている先生方にこそ再教育がいるだろうという先生が実際におられます。ここにメスを入れないと真の改善が成されないと思います
22	比較的近い目的意識の人をグループにする方が効果が高い(かも?)と思う
24	・時間短縮 ・事前の資料配布
25	要点を絞ってなんとか1日で終わった方がよい。数年後、費用的効果(学生は↑研究は↓でいいのか?)を検証し継続すべきは継続、短縮すべきは短縮、さらに進めるべきは進めよ(外部評価)
26	目的をプログラムの早い段階(通知のメールが来る前)にもっと周知した方がよい(プログラムの本気度が伝わりにくかった)
28	文科省の考え・指導のように数年もすれば役に立たなくなる情報よりも、本校の教育に必要な本質的な情報を増やしてほしい。Ex)ハラスメントの境界線、利用できる予算制度、表彰された授業例など
29	・I can't answer this survey, because it's in Japanese. (私はこのアンケートに答えられません。それは日本語で書かれているからです。) ・Next time send announcements in English. (for foreign/international participants) (次回からは(外国人の参加者のため)英語でアナウンスして下さい。) ・You don't need to translate everything to English... Keywords are enough. (全てを英語に直す必要はありません。キーワードだけで十分です。)
31	スケジュールが2日間ぎっしり詰まっているのはしょうがないとは思いますが1つ1つの講義がかなり駆け足で進んでいる印象を受けた。
32	もう少し多様なアクティブラーニングの手法を取り入れた講義があるとより参考になりやすいと思う。たとえば、せっかくの2日間のプログラムだから2日目のどこかまでに何かを予習させて反転授業っぽいものをするとか
34	指導方法をより具体的に見る事ができればよかった。学問分野ごとあるいは授業のタイプごとでグループが判れていればより自分の授業設計に有益であったと思う
38	詰め込みすぎ
39	WSの時間を短縮するためにe-learningの精度にした方がよいと思う。そうすれば模擬授業の時間のみで1日くらいでいいと思います。このWSを反転にできませんか？
40	細かい事です但し機器のチェックはしておいた方がよいと思います

7自由記述	その他、お気づきの点があればご記入下さい。
4	Active Learningの扱い方にかたよりがあると思います。FDの話聞く限りActive Learningが神のように扱われているように感じました。授業の内容、科目の特色など様々な要素を考慮して適切な時にActive Learningを使用するというのが妥当な扱いではないだろうか。中身の無いActive Learningを回避するためにもこうしたActive Learningの利点、欠点を考える事が本当の学習だと思います。
5	講師の先生のレクチャー内容が興味深く、分かりやすいものであった。
11	お世話になりました。貴重な体験となりました

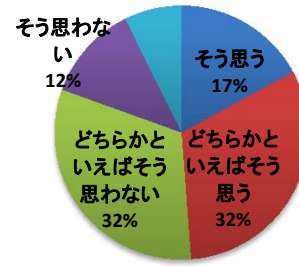
12	学部によっては求められるスタイルが異なると思いますので学部ごとに取り組まれてはいかがでしょうか。このワークショップのアウトカム(良い授業をすること？学生の就職率？人間性の形成？)が不明瞭なまま継続されない方が良いのではないのでしょうか
13	講師に昇任したひとではなく、役職を問わず講義を担当し始めた人、新年度から担当する予定の人が参加するべきだと思う。もっと早く受けたかった。
15	学会の締め切りが近い時の実施はやめて頂きたかったです
24	グループがずっと同じだったので途中でシャッフルしてもいいかも
26	一部はe-learningや反転授業による講義にして1日でプログラムを終了できるようにすればいいのでは？
29	Thank you for giving me the opportunity to participate in this workshop. It was a great learning experience. Unfortunately, I wasn't able to participate fully due to the language barrier. I think the organizers should prepare worksheets, announcements & information in English. If Tokushima University REALLY wants to GLOBALIZE, now is the time to start! (このワークショップに参加する機会を与えてくれてありがとう。素晴らしい学びの経験でした。残念なことは、言語の壁のせいで十分参加できませんでした。企画者はワークシートやアナウンスや情報を英語で準備すべきだと思います。もし徳島大学が本気でグローバル化したいなら、今がスタートする時です。)
31	スタッフの方々の配慮が隅々までいきわたっていてリラックスしながら過ごすことができました。2日間ありがとうございました。お疲れ様でした。
34	現状の教育に対する批判的な視座が欠けているように思われた
36	1日で終わりたい
38	授業設計に慣れた先生もいれば、全くの素人ex)シラバスの意味すら知らない先生との差がありすぎなので、前もって班割、プログラムの変更が必要だと思います
40	2日間ありがとうございました

※自由記述の番号は回答者が連動しています。

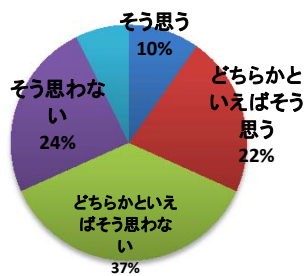
2-1 授業設計ワークショップの目的や内容について
ある程度知った上で参加した



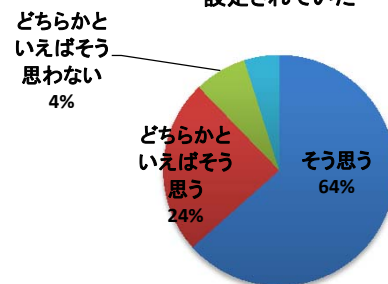
2-2 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した



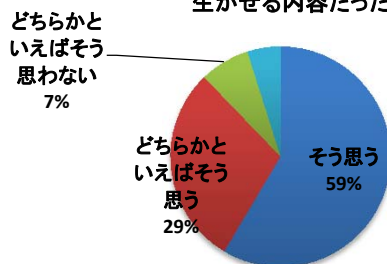
2-3 授業設計ワークショップ内容をすぐに活用し
なければならない状況で参加した



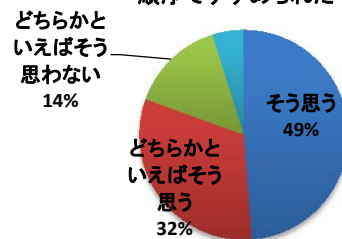
3-1 授業設計ワークショップの目的は明確に
設定されていた



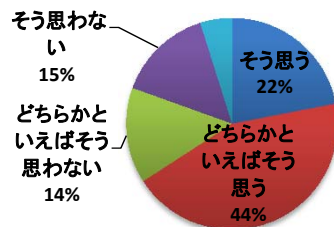
3-2 授業設計ワークショップは自分の業務に
生かせる内容だった



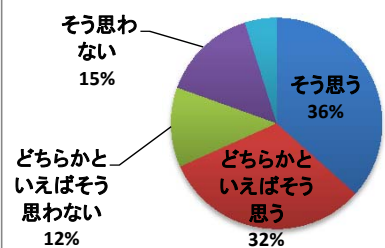
3-3 授業設計ワークショップはわかりやすい
順序ですすすめられた



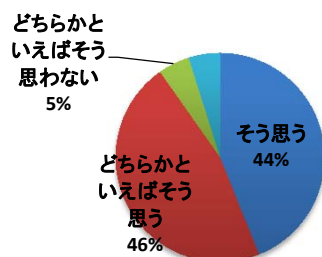
3-4 授業設計ワークショップの時間は目的を達
成するために丁度よい長さだった



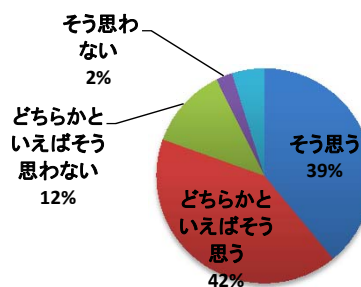
3-5 授業設計ワークショップの実施時期は
適当だった



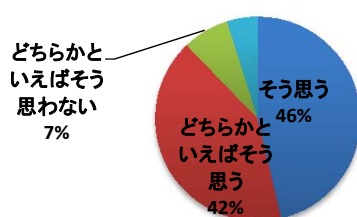
3-6 参加者の人数は適当だった



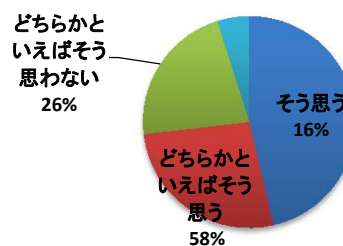
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた



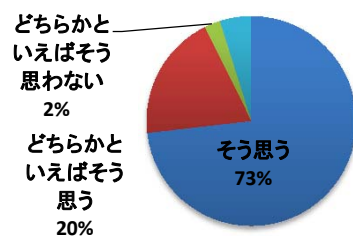
4-2 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた



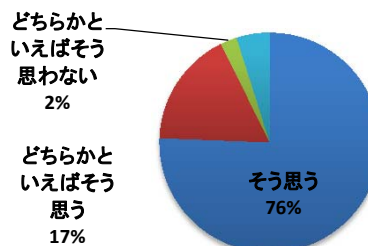
4-3 講師の用意した教材はわかりやすかった



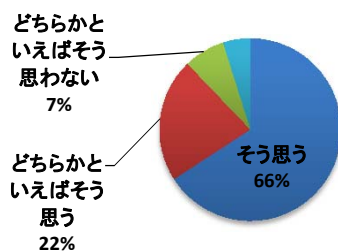
5-1 授業設計ワークショップ会場は快適な環境だった



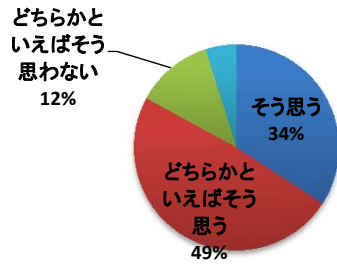
5-2 授業設計ワークショップ会場には十分な設備が整っていた



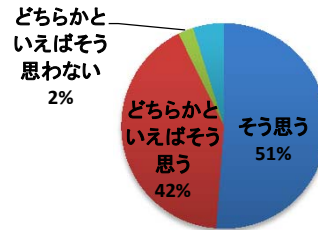
5-3 スタッフは手際よく授業設計ワークショップを運営していた



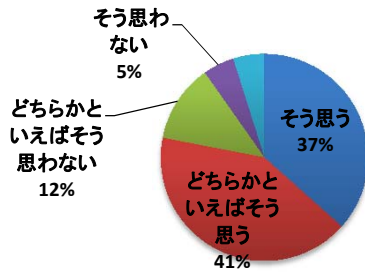
6-1 自分に必要な知識やスキルを身につける
ことができた



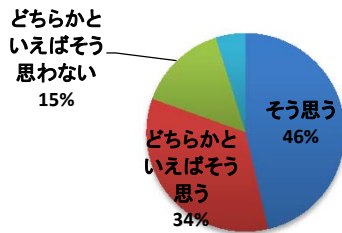
6-2 受講したことによって教育への取り組み方が改善されると思う



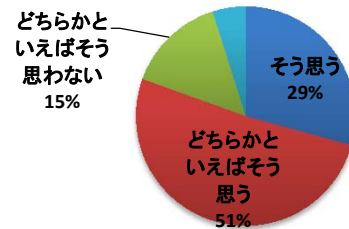
6-3 新たに人的なつながりをつくることができた



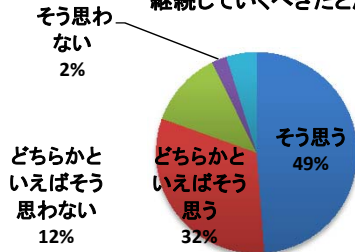
7-1 従業設計ワークショップは全体的に
満足できるものだった



7-2 授業設計ワークショップは期待を上回る
内容だった



7-3 今後も、この授業設計ワークショップを
継続していくべきだと思う



SPOD研修アンケート集計結果

研修名:第6回「よりよい授業のためのFDワークショップ」

実施日:平成27年9月17日(木)から18日(金)

実施会場:休暇村讃岐五色台

参加者数:15名

アンケート回答者数:12名

設問1 本ワークショップへの参加の経緯についてお答え下さい。

1-1 ワークショップへの参加動機は何ですか

①新任研修に参加して興味をもったため	4
②実施要項を見て内容に興味をもったため	3
③所属部署からの依頼があったため	5
④他部署の人と交流したため	
⑤その他	
合計	12

1-2 1-1で「その他」と答えた方は、具体的にお答え下さい。

授業をさらにより良くしたい

1-3 ワークショップの目的や内容について、ある程度知った上で参加した

①そうである	3
②どちらかといえばそうである	6
③どちらかといえばそうではない	3
④そうではない	
合計	12

設問2 本ワークショップの内容についてお答え下さい。

2-1 ワークショップの目的は、明確に設定されていた

①そう思う	11
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-2 ワークショップは、自分の業務(教育実践)に生かせる内容であった

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-3 ワークショップは、わかりやすい順序ですすすめられていた

①そう思う	9
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

2-4 ワークショップでよかった点は以下のうちどれですか＜複数選択可＞

①学生の考える良い授業・悪い授業について考える機会を得た	4
②シラバスの書き方について理解が深まった	11
③複数の授業方法について知ることができた	8
④成績評価について理解が深まった	5
⑤自らが開発した授業の良い点・改善点を知ることができた	5
⑥ワークショップの手法を知ることができた	7
⑦他学部等の教員と知り合いになれた	10
⑧その他	

設問3 本ワークショップに参加しての成果についてお答え下さい。

3-1 ワークショップで設定した目標のうち、達成されたのはどれですか＜複数選択可＞

①適切な目的・目標が設定できるようになった	9
②わかりやすいシラバスを書けるようになった	7
③様々な授業方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	5
④様々な成績評価方法を知り、目的・目標にあった方法を選択できるようになった	4
⑤学生参加型のグループ作業を、自ら授業で導入することができるようになった	5

設問4 本ワークショップの研修環境についてお答え下さい。

4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

①そう思う	11
②どちらかといえばそう思う	1
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

4-2 事務局は手際よくワークショップを運営していた

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

4-3 ワークショップ会場は快適な環境であった

①そう思う	9
②どちらかといえばそう思う	3
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

設問5 本ワークショップは全体を通して満足できるものであった

①そう思う	10
②どちらかといえばそう思う	2
③どちらかといえばそう思わない	
④そう思わない	
回答数	12

【自由記述欄】

3-2 ワークショップであなたが学んだ点、それに影響されて教育実践の場でやってみたい点などをお書きください。

今回のFDワークショップに参加して、他の学問領域の先生方と交流させて頂き、様々な形態で知の展開がなされていることを身を以て知ることができました。
常日頃は、所属学科の中でしか授業に参加することがなく、学生たちにも実践的方法論を伝授することがほとんどです。
そのため、今回のワークショップのグループワークのような抽象度の高いトピックスについて、授業設計して模擬授業を行う経験をさせていただき、
より幅の広い視野でシームレスな授業計画が必要だと強く感じました。
どのような学生にもよりわかりやすく聞きやすい授業を設計できるよう今回の学びをフルに活用させて頂きたいと思います。

まず講義が30分と簡潔であった点が効果的だと思いました。
実際の授業でも講義形式を30分以上も続けると学生の集中力が目に見えて落ちるように思われる点から、自分も説明はできる限り簡潔に、学生が活動や作業を行う時間をしっかり保証することが重要だと改めて感じました。
学生のコメントのグルーピング、シラバスの書き方、授業方法、成績評価の観点等、いずれもすぐに使えるものばかりで、自分の授業で取り入れたいと思います。とても参考になりました。

目標は計測可能な項目にする。
スライドのはじめに本日の目標を入れる。
シラバスの作成方法を学べた。シラバスを考えておく側も授業構成がはっきりとして授業を実践しやすくなると思う。
協同学習の技法に記載してあるテクニック(文書作成のテクニックなど)は、
ゼミ指導などで実践したいと思った。

体系的なシラバスの書き方を学ぶことができた。今後シラバスを書く際の基準が明確になったように思う。
また、学生にとってワークショップをおもしろいものにするには様々な工夫や下準備が必要であること、そしてその
工夫のポイントについて、いくつかヒントを知ることができた。
グループごとに考える場合でも、意見をまとめるのか、出しっぱなしでいいのか等、いろいろあり得ることが分かり、その授業(回)で何を習得できることが目的なのかと常に照らし合わせながら組み上げることが大切だと学んだ。
これまではマイクを持って教室を回り、意見を聞いたり、挙手をしてもらったりしていたが、コミュニケーションカード等のようなツールも使ってみたいと思う。

書かせることのなかに、もっと簡単にできるものがあるということも知って活かしたいと思った。
時間が足りなくて丁寧にできないところや、省略して今いがちなところも、
工夫次第と、優先順位でできるようにしていきたい。

グループワークの評価について、大学はともグループ数が多くなるので、困難さを感じていましたが、グループワーク評価の工夫として、「ピア評価」について教えていただきました。
たいへん有効な方法だと感じたので、早速、後期の担当講義で実践してみて、その効果を検証してみたいです。

沢山あるのですが、その中で特に印象に残ったことは、目的・目標を明確にすることです。
授業の目的・目標を明確に立てるのは勿論、学生に「どんな介護福祉士になって欲しいか」「何を学生生活の中で学んで欲しいか」という自身の目的や大きな目標も明確化した上で、学生に接していきたいと思いました。

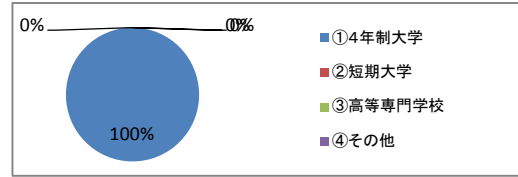
設問6 本ワークショップの改善点等、ご意見ご感想がありましたらご自由にお書き下さい。

・先生方がとてもあたたかい雰囲気で、かつ熱心な指導をしてくださったので、2日間厳しい日程のように思われましたが、最後までがんばれました。
・参加している先生方も分野は違いましたが、活動のなかでいろいろ学ぶところがあり、勉強になりました。

研修名 : 学生の学びを支援するための授業準備ワークショップ(新任教員FDワークショップ)
 実施日 : 平成27年9月2日(水)～3日(木)
 実施会場 : 高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館1階310教室
 参加者数 : 15名
 アンケート回答者数 : 15名

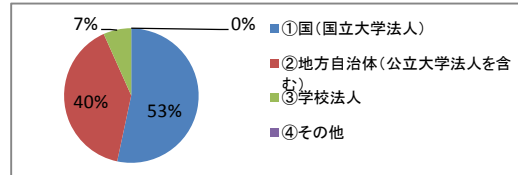
1-(1) 所属先

	度数	割合
①4年制大学	15	100.0
②短期大学	0	0.0
③高等専門学校	0	0.0
④その他	0	0.0
	15	100.0



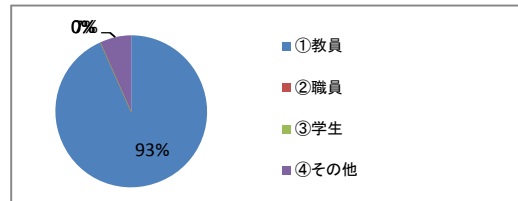
1-(2) 所属先の設置者

	度数	割合
①国(国立大学法人)	8	53.3
②地方自治体(公立大学法人を含む)	6	40.0
③学校法人	1	6.7
④その他	0	0.0
	15	100.0



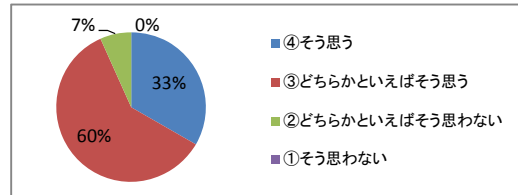
1-(3) 職種

	度数	割合
①教員	14	93.3
②職員	0	0.0
③学生	0	0.0
④その他	1	6.7
	15	100.0



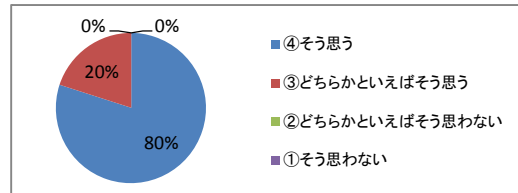
2-1 研修目的や内容についてある程度知ったうえで参加した

	度数	割合
④そう思う	5	33.3
③どちらかといえばそう思う	9	60.0
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



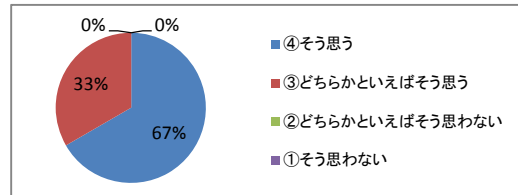
3-1 研修の目的は明確に設定されていた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



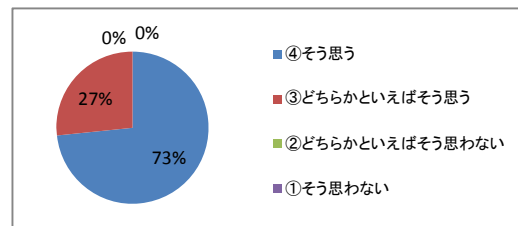
3-2 研修は自分の業務(教育改善)に生かせる内容だった

	度数	割合
④そう思う	10	66.7
③どちらかといえばそう思う	5	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



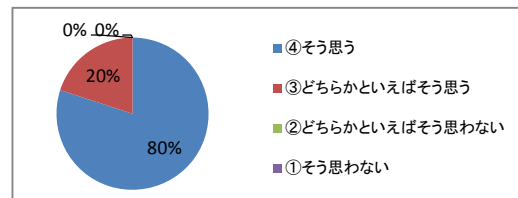
3-3 研修は分かりやすい順序で進められた

	度数	割合
④そう思う	11	73.3
③どちらかといえばそう思う	4	26.7
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



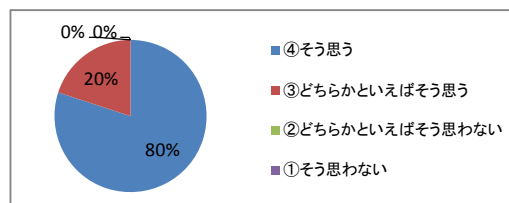
3-4 研修会場は快適な環境だった

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



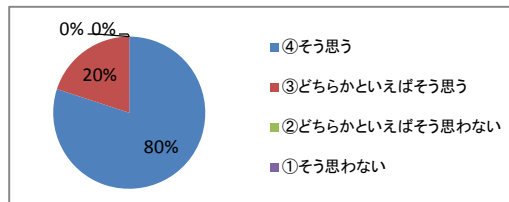
4-1 講師の言動は学習意欲を高めた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



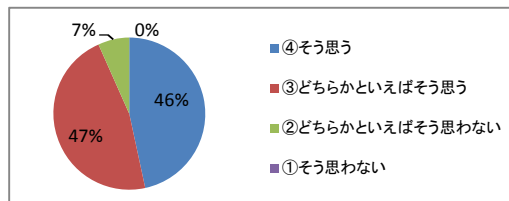
4-2 事務局は手際よく運営していた

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



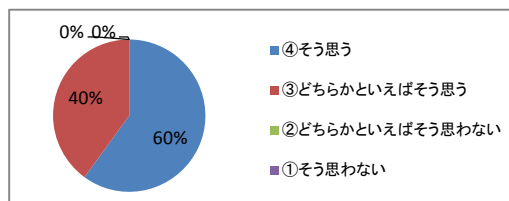
5-1 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



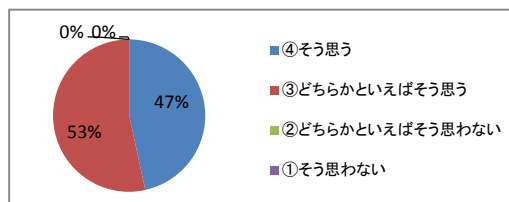
5-2 受講したことによって業務の取り組みが改善されると思う

	度数	割合
④そう思う	9	60.0
③どちらかといえばそう思う	6	40.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



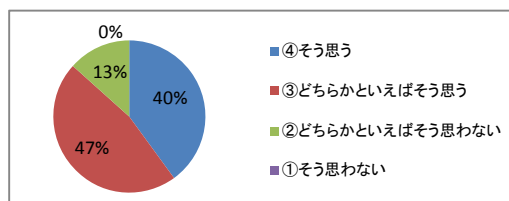
5-3 研修の内容は十分に理解できた

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



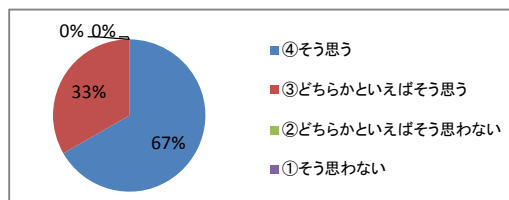
5-4 新たに人的なつながりをつくることができた

	度数	割合
④そう思う	6	40.0
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	2	13.3
①そう思わない	0	0.0
	15	100



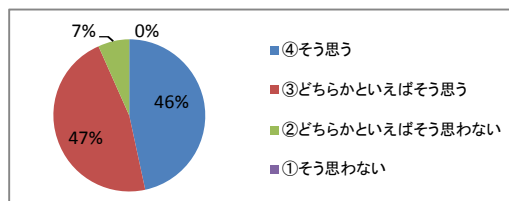
6-1 研修は全体的に満足できるものだった。

	度数	割合
④そう思う	10	66.7
③どちらかといえばそう思う	5	33.3
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



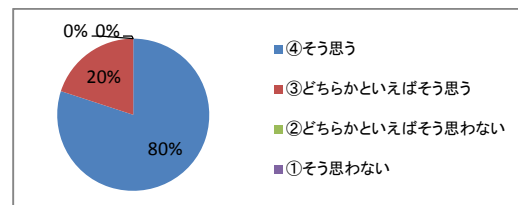
6-2 研修は期待を上回る内容だった

	度数	割合
④そう思う	7	46.7
③どちらかといえばそう思う	7	46.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



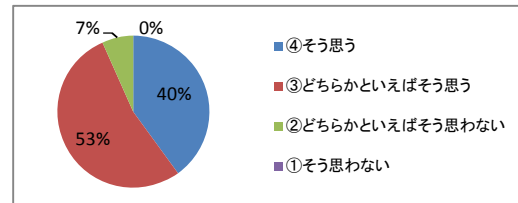
6-3 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	度数	割合
④そう思う	12	80.0
③どちらかといえばそう思う	3	20.0
②どちらかといえばそう思わない	0	0.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



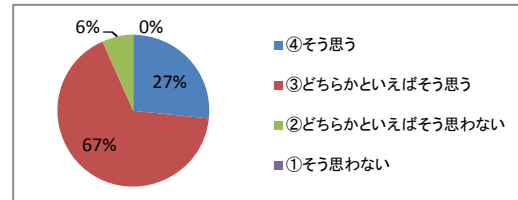
7-1 適切な授業の目的・目標設定ができるようになる

	度数	割合
④そう思う	6	40.0
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



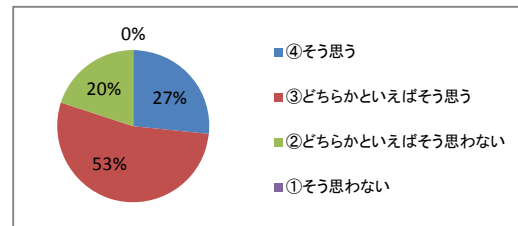
7-2 わかりやすいシラバスを書けるようになる

	度数	割合
④そう思う	4	26.7
③どちらかといえばそう思う	10	66.7
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	0	0.0
	15	100



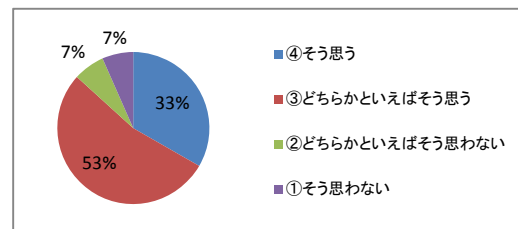
7-3 学習成果（ラーニング・アウトカムズ）を意識して授業デザインができるようになる

	度数	割合
④そう思う	4	26.7
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	3	20.0
①そう思わない	0	0.0
	15	100



7-4 学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入することができるようになる

	度数	割合
④そう思う	5	33.3
③どちらかといえばそう思う	8	53.3
②どちらかといえばそう思わない	1	6.7
①そう思わない	1	6.7
	15	100



1-(4) 本研修を知ったきっかけ・参加のきっかけは何ですか？	
大学からの案内	
SPODプログラム(冊子)、大学事務からのメール	
学部内のアナウンス	
所年次教員として必要知識を身につける必要があると紹介されたため。	
大学のメーリングリスト	
SPODホームページ	
大学の案内	
大学の案内メール	
メールでの案内	
新任教員への案内	
学内のFD委員会からの案内	
学内の掲示板	
SPODのパンフ	
所属先FD担当係よりお知らせがあり、学生評価の仕方を学びたくて参加を希望しました。	
教職員グループウェア	
1-(5) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか？(具体的に)	
グループワーク、アクティブラーニング運営能力	
インストラクショナルスキル	
グループワークのファシリの方法、バリエーションの多様さ	
シラバスを作成し、実践するスキル	
	0
シラバス作成	
グループワークの効果的な運営能力	
シラバスにおける適切な評価の明示方法	
シラバスの書き方でしたが、今回でアップできそうです。	
プレゼンテーション	
引きつけるプレゼン力	
授業を進めるための方法やワークの手法	
大人数講義の運営	
とりあえず、評価指標の作成が最初にスキルアップしたいと思います。	
ティーチング	
8. 研修ですぐに使ってみたいと感じたこと(アクションプラン)を、具体的にお書きください。	
授業時間外学習に関する内容(予習への動機づけ)目標領域の明確化	
授業外課題のしくみをきちんとPlanしたい	
シラバスの設計・目標・目的の明確化	
目的と目標を分けて考える 評価について測定可能な尺度を基準に考え、具体案を作成する	
シラバス作成	
これまで前任の先生のシラバスをそのまま使っていました。シラバスじっくり書き直してみたいと思います。	
シラバスの目的、目標を更に明確に整合性を持って書き直すこと	
授業外学習の詳細な設定 2学期のシラバスの修正	

まずはシラバスを作ってみたいと思います。
2日間ありがとうございました。 15コマのシラバスの構成を目標達成の視点からとらえなおしたいと思います。
授業の目的、達成目標、評価の相関関係を意識して授業をデザインしていこうと思います。
到達目標の設定
シラバスの書き方。 グループワークの手法
9.本研修を受講して良かったと思われる点や改善点、意見などを自由にお書きください。
授業内容改善に役立つシラバスの書き方(シラバスに準拠した授業設計)が分かった
人脈(ネットワーク)に感謝。準備, 運営etc 本当にありがとうございました。
特になし
シラバス使用用語が多少形式的・画一的な印象を受けた。 また「具体的」な表現については主観的相対的な面があり、多少主催者側との意識が相違していると感じた。
シラバスの重要性和シラバス作成時に気をつける点がよく理解できた。
ありがとうございました。
グループワークについての実践的アドバイスは大変参考になりました。有難うございました。
細切れに進んで行くのが気持ちよかったです。できれば説明の後ではなく、前にppt資料を配布いただければメモできるので助かります。
先生をお互いニックネームで呼ぶのにはどうしても慣れませんでした。 (私自身は”先生”と呼んだ方がコミュニケーションがスムーズになります)
夜のお弁当がおいしかったです。ありがとうございました。
雰囲気は大変良かった。 自分自身の”しゃべりすぎ”等、反省。
シラバスに書いた情報が不十分と気付くことができ、改善点も明確になった。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度（第1回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成27年9月10日（木）～9月11日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第6演習室
 当日参加者数：42名
 アンケート回答者数：42名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	41	97.6
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	2.4
④ その他（ ）	0	0.0
計	42	100.0

(2) 所属先の設置者

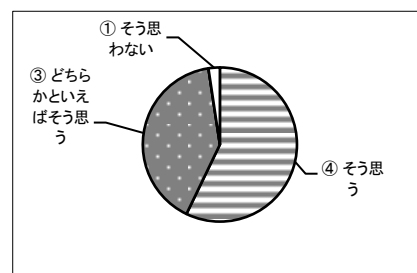
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	23	54.8
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	16	38.1
③ 学校法人	3	7.1
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	42	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
別紙記載

2. 研修参加への経緯について

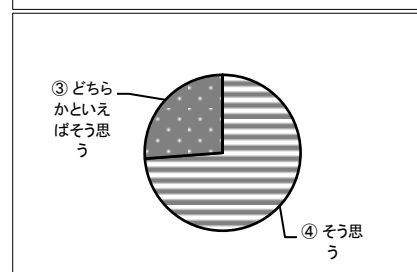
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



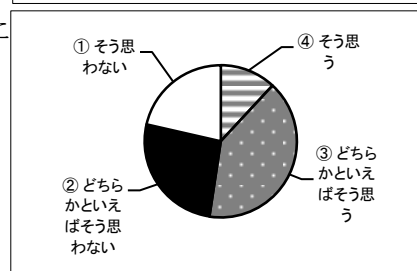
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	31	73.8
③ どちらかといえばそう思う	11	26.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



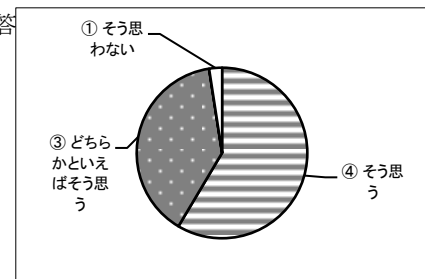
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	5	11.9
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	11	26.2
① そう思わない	9	21.4
計	42	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている ※1名未回答

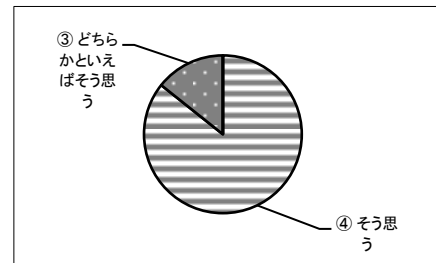
	回答数	割合
④ そう思う	24	58.5
③ どちらかといえばそう思う	16	39.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	41	100.0



3. 研修プログラムの設計について

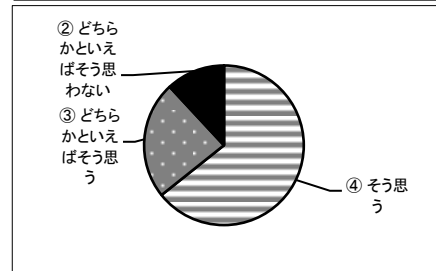
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	85.7
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



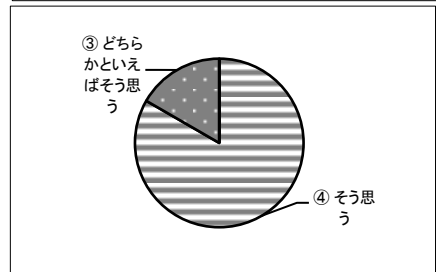
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	27	64.3
③ どちらかといえばそう思う	10	23.8
② どちらかといえばそう思わない	5	11.9
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



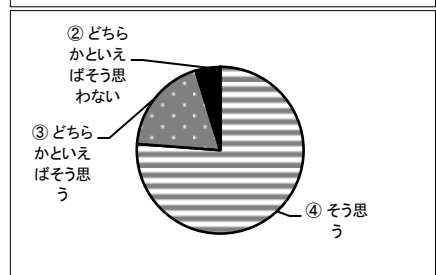
(3) 研修はわかりやすい順序ですすすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	35	83.3
③ どちらかといえばそう思う	7	16.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



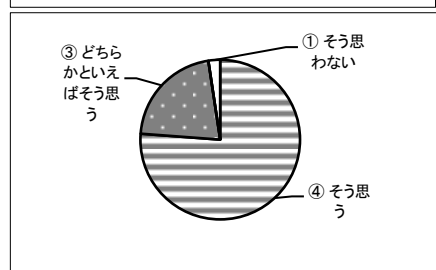
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	32	76.2
③ どちらかといえばそう思う	8	19.0
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



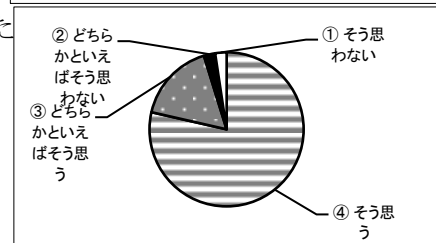
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	32	76.2
③ どちらかといえばそう思う	9	21.4
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



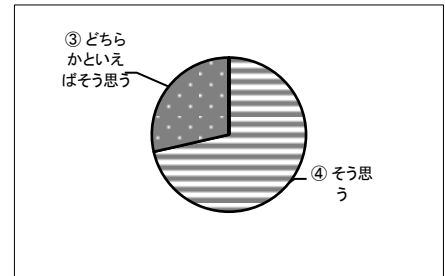
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	33	78.6
③ どちらかといえばそう思う	7	16.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	1	2.4
計	42	100.0



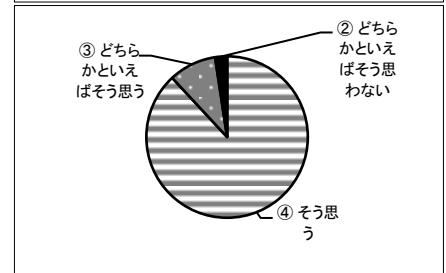
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	30	71.4
③ どちらかといえばそう思う	12	28.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



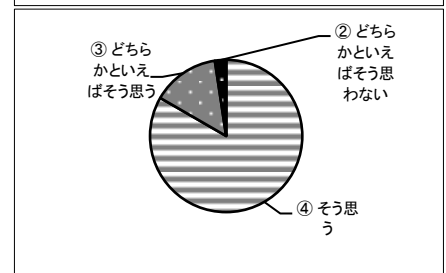
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	4	9.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

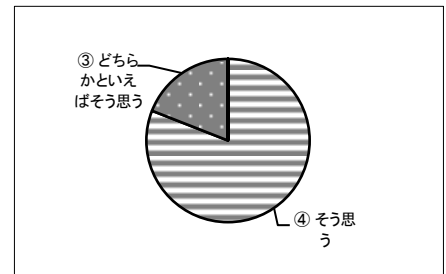
	回答数	割合
④ そう思う	35	83.3
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



4. 研修スタッフについて

(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

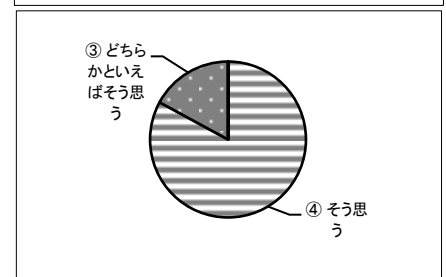
	回答数	割合
④ そう思う	34	81.0
③ どちらかといえばそう思う	8	19.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

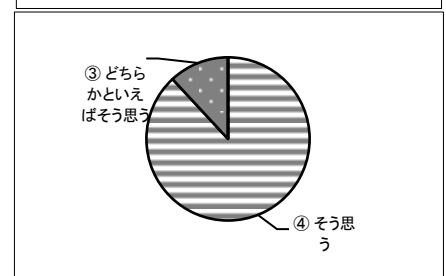
	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0

※1名未回答



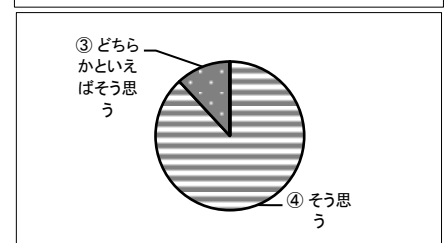
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	5	11.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



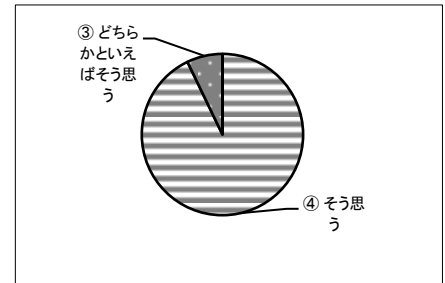
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	37	88.1
③ どちらかといえばそう思う	5	11.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

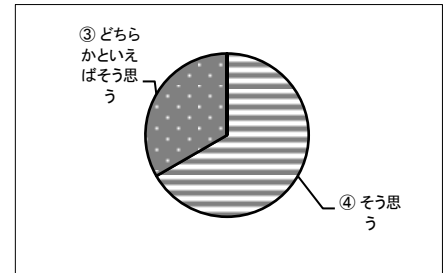
	回答数	割合
④ そう思う	39	92.9
③ どちらかといえばそう思う	3	7.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



5. 研修成果について

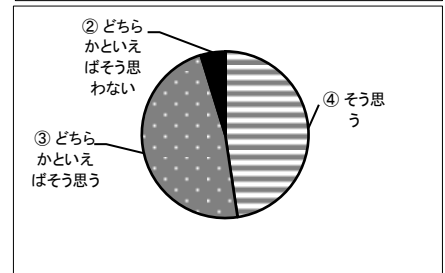
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	28	66.7
③ どちらかといえばそう思う	14	33.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



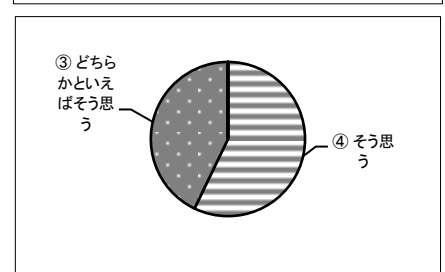
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	20	47.6
③ どちらかといえばそう思う	20	47.6
② どちらかといえばそう思わない	2	4.8
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



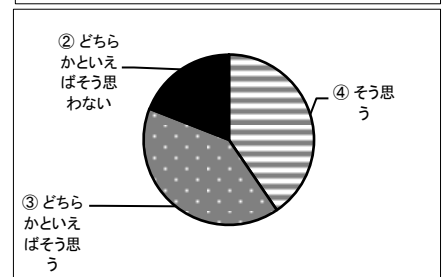
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	18	42.9
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	17	40.5
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	8	19.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



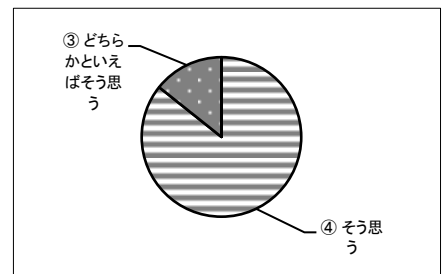
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

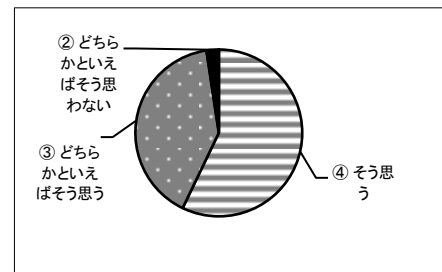
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	36	85.7
③ どちらかといえばそう思う	6	14.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



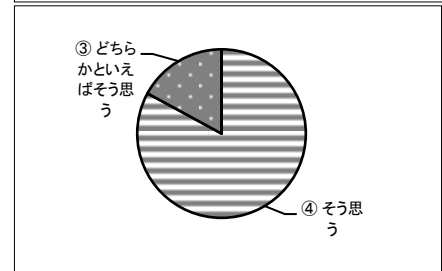
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	24	57.1
③ どちらかといえばそう思う	17	40.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.4
① そう思わない	0	0.0
計	42	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	34	82.9
③ どちらかといえばそう思う	7	17.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	41	100.0



※1名未回答

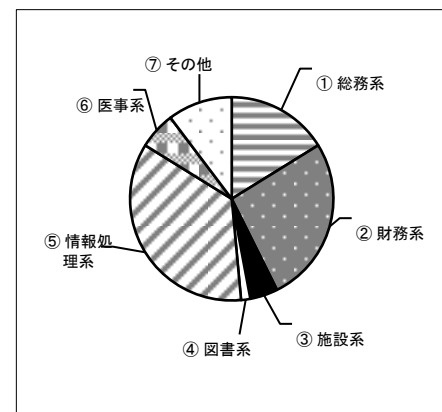
研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	11	26.2
② 財務系	18	42.9
③ 施設系	3	7.1
④ 図書系	1	2.4
⑤ 情報処理系	24	57.1
⑥ 医事系	4	9.5
⑦ その他	7	16.7



その他の記述内容

- ・大学運営でこれまでどんな問題があったか事例をもとにリスクマネジメントの勉強がしたい
- ・教務系

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

【パソコン】

- ・ パソコンスキル (7)
- ・ Access (4)
- ・ Excel (4)
- ・ Excel の使うと便利な機能 (関数, マクロ, ピボットテーブル等) (4)
- ・ Word (2)
- ・ Office (普段使用している Excel, Word 等) のハイレベルの研修
- ・ 情報関係の知識
- ・ HP 運営上の WEB 言語能力
- ・ WEB デザイン
- ・ Access の基礎知識を習得し, 業務で使用している Access のデータ改善やエラー等への対応ができること
- ・ Access を使い本学の業務効率化を提案する。また, 他職員に使い方を教える
- ・ Excel, Access を使用したデータの活用方法を学ぶ
- ・ PC システム, セキュリティ対策, イラストレーター, フォトショップ等のスキル

【その他】

- ・ コミュニケーション能力 (3)
- ・ 会計 (3)
- ・ プレゼンテーションスキル (2)
- ・ 英語力 (2)
- ・ 学生支援 (2)
- ・ 学生対応に関すること
- ・ タイムマネジメント
- ・ 文章力, 文章力の向上
- ・ 公文書の書き方
- ・ 大学全般
- ・ 高専に関する知識全般
- ・ 大学マネジメント, 教学マネジメント, 大学改革の大きな流れに関する知識
- ・ 課内情報共有の為のツール作り
- ・ 年金に関する問い合わせが増えてきたので, より実務に関するレベルアップが求められている
- ・ 総務系の専門性を高めたい
- ・ 事務処理能力
- ・ 大学の広報の知識
- ・ 毎日の作業において知識を増やすことで, 業務が効率化する

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- Access についての基礎知識を得ることができた。（5）
- 他大学の職員とのつながりができたこと。（5）
- 基礎から丁寧に教えてもらうことができた。（3）
- 今後の業務に活かすことができそう。（2）
- とても分かりやすい指導方法で、内容も理解しやすいような設定になっており、大変満足のいく講義だった。
- 講師の説明が本当にわかりやすく、声も聞き取りやすく、素晴らしかったです。おかげさまで Access が何かがよくわかりました。今日と昨日教えていただいたことを、今後に役立てますよう Access を積極的に利用していきます。ありがとうございました。
- 説明が丁寧でゆっくりだったので、Access 初心者にも分かりやすかった。これまでの研修での要点等が反映されており、講習がスムーズに進むよう工夫されていた。現在、Excel で管理しているデータを Access で管理できるよう、今回の研修を日常業務に落とし込みたい。
- 今まで Access の仕組みをあまり理解せず使用していたので、Access の簡易的な修正しかできなかった。今後は、ある程度理解して Access を使用できるので、仕事の効率化につながるような活用等に取り組んでいきたい。
- これまでよくわからずに使っていた Access のフォームが、どういう成り立ちでできているか理解することができた。フォームを改善したいと思っていたので、得た知識を基にやってみたいと思った。
- Access の知識 0 の状態で参加しましたので「基礎」でなんとかついていくことができる状態でしたが、総合問題も自分でなんとか解けるくらいまでになったので、とても嬉しいです。
- Access について全く無知の状態に参加させていただいたので、すごく勉強になりました。忘れないように活用したいと思います。
- 今まで曖昧な知識で使用していた Access を今後は理解したうえで使用できるようになったこと。
- データベースの構築の仕組みを学ぶことで、既存の Access データへの理解を深めることができた。
- 通常業務で Access を使用することに対して気後れしなくなった。
- Access の基本を学べ、学内システムの活用に生かせられそうで良かった。
- 今まで独学で Access を使用していたため、限られた範囲内での加工しか出来なかったが、今回基礎を一から学べたので考え方のプロセスが整理できたと思う。
- 現在の業務で使用しなければならない状況というわけではないですが、Access を導入したら便利だと思いました。
- 自分が求めている内容だったので、とても良かったです。
- Access に関する知識がほとんどなかったため、操作の仕方などを知ることができて良かったです。業務で活かしていけるかはまだわかりませんが、自分でも復習して自分のものにしていきたいです。
- テキスト以外のことを質問しても、即回答してくれました。
- 研修終了後もふり返って学習できる資料・テキスト。
- 研修の内容が実用的で、目的意識を高く持って研修を受けることができた。
- 一冊の本をやりおえる進度になっていたのが良かった。（研修後に自己学習で本の残りの部分を行うのは大変なので）
- 必要な知識を身につけることができたこと。

- ・ Access が少しは理解できた。
- ・ Access の使い方がわからなかったが、なんだか使える気がしてきた。
- ・ Excel についての基本的なことを知ることができたこと。
- ・ Access で使える内容が増えて良かった。
- ・ 休憩が多かったので、集中して取り組むことができた。
- ・ しっかり理解しながら進むことができた。
- ・ 懇親会楽しかったです。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【内容】

- ・ テキストや資料を見ながら作業することが多く、総合問題もすぐに解説が見られるようになっていく。可能なら、もう少し自分で考えて設計するような問題・時間があるとなお学んだことが身につくと思う。
- ・ もう少し総合問題を解く時間が欲しかったです。
- ・ 丸2日は長いので、1日半ぐらいが良かった。
- ・ 進みが早い人のために練習問題を多く用意してあると良い。
- ・ 操作方法は理解できましたが、使用事例をいくつかあげてもらえたら（初級レベルでも使えるような）どういうことに使用しているかわかり、業務に活かしやすいです。
- ・ Excel と Access どちらが向いているかの判断材料になるポイントをもう少し知れたら・・・と思いました。

【その他】

- ・ 他大学との交流の場がもう少しあってもよかったかも。
- ・ 事務局の説明時にもマイクを使用して話して欲しかった。（空調の音で、後ろの方には聞き取りにくかったです。）
- ・ 昼食の時間をもっと長くしてほしい。（あと 30 分程）
- ・ Access 応用編を開催してほしい。
- ・ 1 日目は空調が暑くなったり、2 日目は寒くなったりしていたので、あらかじめ周知して上着等持参対応していただければ嬉しいです。
- ・ どうしても初日は同じ大学でかたまってしまうので、席を割り振るか、くじびきが良いような気がします。2 日目（情報交換会後）は緊張もほぐれ、皆積極的にばらけて座っていました。
- ・ テキスト代が細かいので、受付の方が大変だと思いました。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度（第2回）大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（共通科目）
 実施日：平成27年9月17日（木）～9月18日（金）
 実施会場：愛媛大学総合情報メディアセンター4階 第6演習室
 当日参加者数：39名
 アンケート回答者数：39名

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	38	97.4
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	1	2.6
④ その他（ ）	0	0.0
計	39	100.0

(2) 所属先の設置者

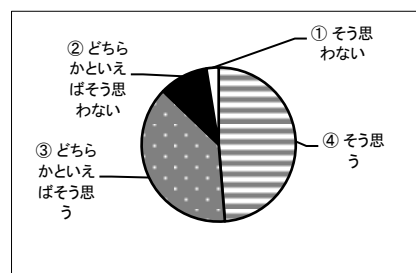
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	36	92.3
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	3	7.7
④ その他（独立行政法人）	0	0.0
計	39	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に） 別紙記載

2. 研修参加への経緯について

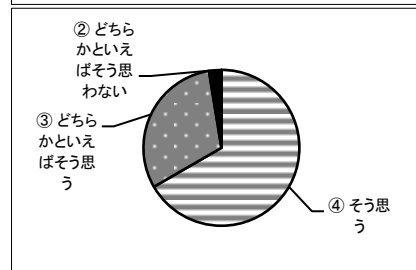
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	19	48.7
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



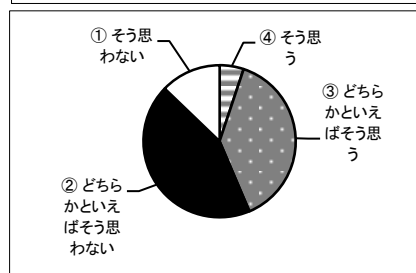
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	26	66.7
③ どちらかといえばそう思う	12	30.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



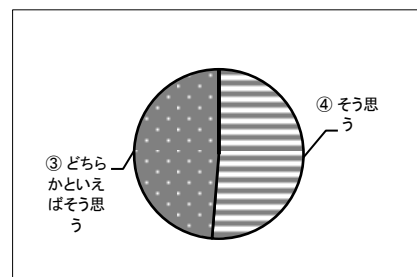
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	2	5.1
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	17	43.6
① そう思わない	5	12.8
計	39	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

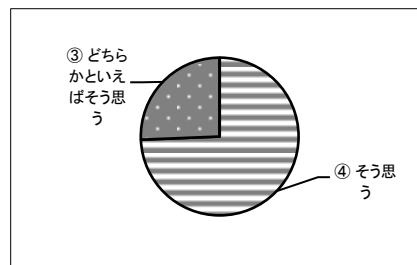
	回答数	割合
④ そう思う	20	51.3
③ どちらかといえばそう思う	19	48.7
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



3. 研修プログラムの設計について

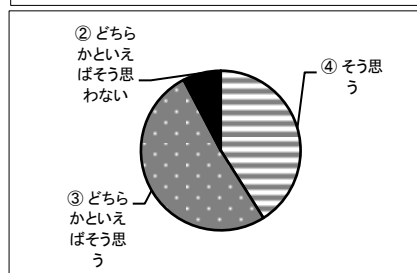
(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	29	74.4
③ どちらかといえばそう思う	10	25.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



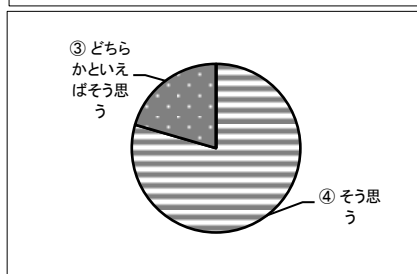
(2) 研修は自分の業務に活かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	16	41.0
③ どちらかといえばそう思う	20	51.3
② どちらかといえばそう思わない	3	7.7
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



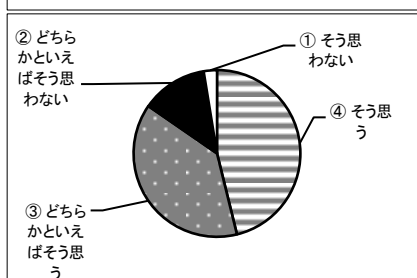
(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

	回答数	割合
④ そう思う	31	79.5
③ どちらかといえばそう思う	8	20.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



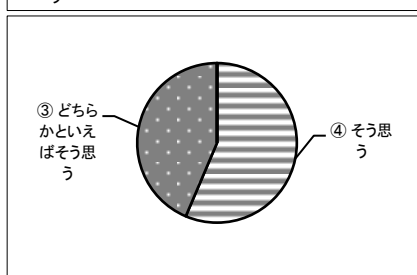
(4) 研修会場は快適な環境だった

	回答数	割合
④ そう思う	18	46.2
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	5	12.8
① そう思わない	1	2.6
計	39	100.0



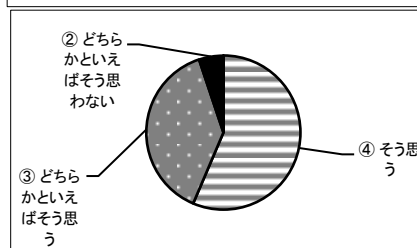
(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	17	43.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



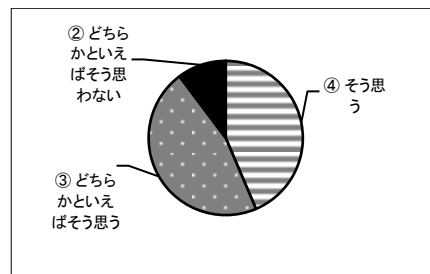
(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

	回答数	割合
④ そう思う	22	56.4
③ どちらかといえばそう思う	15	38.5
② どちらかといえばそう思わない	2	5.1
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



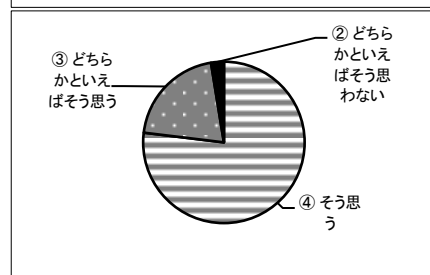
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	17	43.6
③ どちらかといえばそう思う	18	46.2
② どちらかといえばそう思わない	4	10.3
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



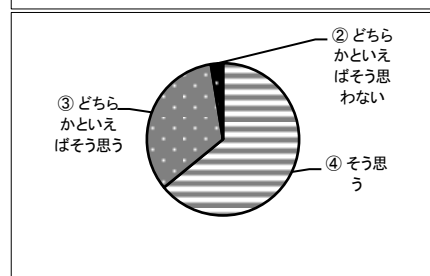
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	30	76.9
③ どちらかといえばそう思う	8	20.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	64.1
③ どちらかといえばそう思う	13	33.3
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	39	100.0

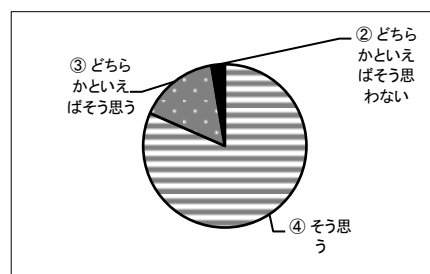


4. 研修スタッフについて

(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	31	81.6
③ どちらかといえばそう思う	6	15.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

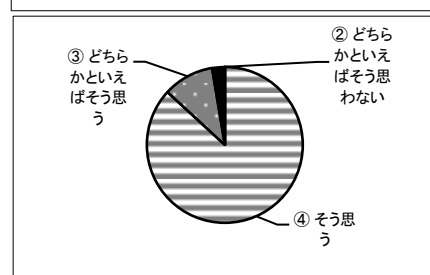
※1名未回答



(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	33	86.8
③ どちらかといえばそう思う	4	10.5
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

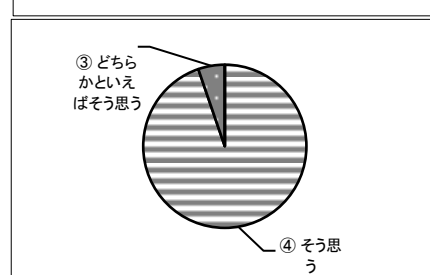
※1名未回答



(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	36	94.7
③ どちらかといえばそう思う	2	5.3
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

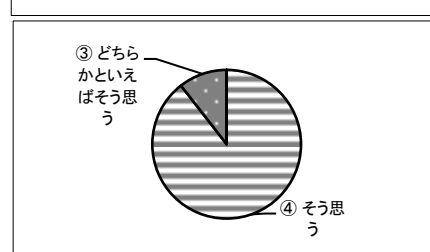
※1名未回答



(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	34	89.5
③ どちらかといえばそう思う	4	10.5
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

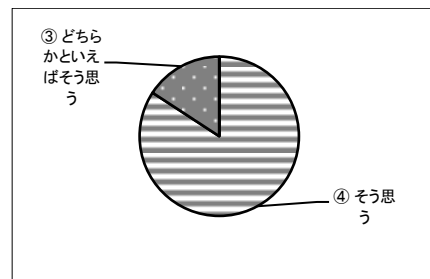
※1名未回答



(5) 事務局の対応は丁寧だった

	回答数	割合
④ そう思う	32	84.2
③ どちらかといえばそう思う	6	15.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

※1名未回答

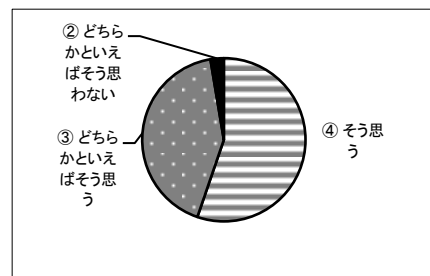


5. 研修成果について

(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	21	55.3
③ どちらかといえばそう思う	16	42.1
② どちらかといえばそう思わない	1	2.6
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

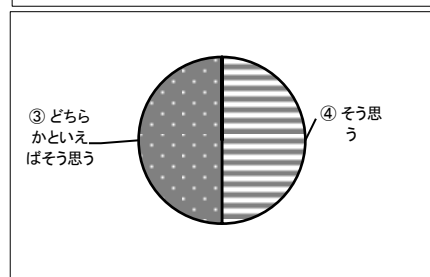
※1名未回答



(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	19	50.0
③ どちらかといえばそう思う	19	50.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	38	100.0

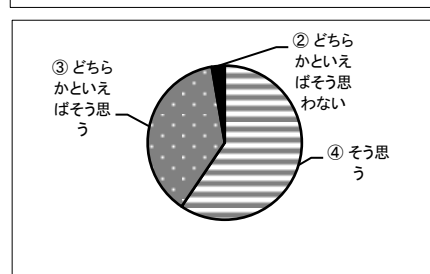
※1名未回答



(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	22	59.5
③ どちらかといえばそう思う	14	37.8
② どちらかといえばそう思わない	1	2.7
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

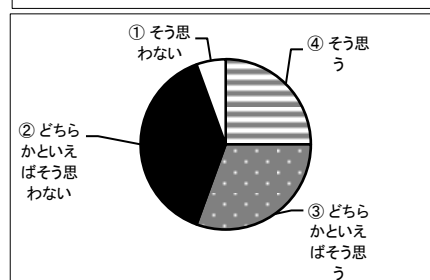
※2名未回答



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	9	25.0
③ どちらかといえばそう思う	11	30.6
② どちらかといえばそう思わない	14	38.9
① そう思わない	2	5.6
計	36	100.0

※3名未回答



受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

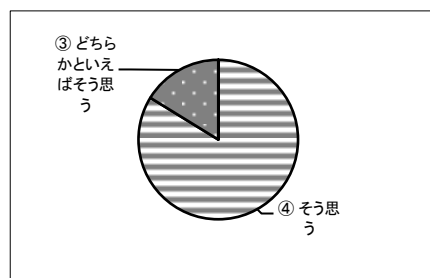
別紙記載

6. 研修全体について

(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	31	83.8
③ どちらかといえばそう思う	6	16.2
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答



(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	25	67.6
③ どちらかといえばそう思う	11	29.7
② どちらかといえばそう思わない	1	2.7
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答

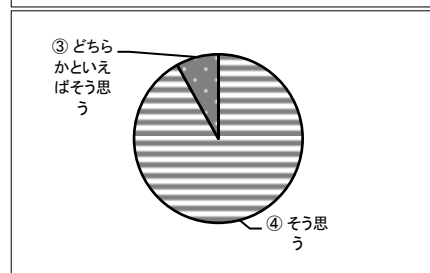
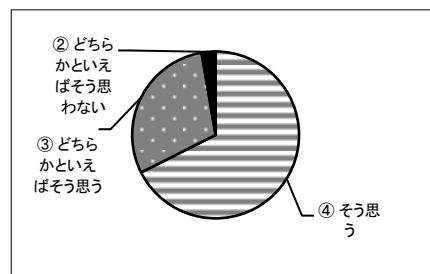
(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	34	91.9
③ どちらかといえばそう思う	3	8.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	37	100.0

※2名未回答

研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

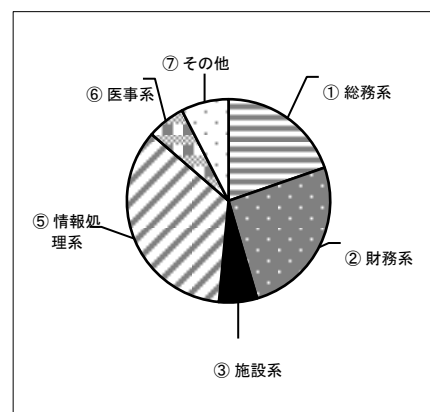
別紙記載



7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	13	33.3
② 財務系	17	43.6
③ 施設系	4	10.3
④ 図書系	0	0.0
⑤ 情報処理系	23	59.0
⑥ 医事系	4	10.3
⑦ その他	5	12.8



その他の記述内容

- ・語学系
- ・Access応用
- ・国際関係

【自由記述欄】

1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

【パソコン】

- ・ PC スキル (業務の効率化) (1 2)
- ・ Excel (数式等の使い方等) (6)
- ・ 情報処理に関する知識 (2)
- ・ ネットワークの基礎知識
- ・ 共有サーバーの管理スキル
- ・ システム系の知識
- ・ Access のもう一段進んだスキルアップ
- ・ Access で自在にレポートを作成できるようになること。
- ・ 資産管理をしているので、Excel や Access を効率よく使えるようになりたい。
- ・ 現在の Excel で管理している業務の効率化をはかるため Access の知識・スキルが必要だと感じています。
- ・ Access を使ってデータを管理するために必要な組み立てるスキル。どのように組み立てると自分が望む入力フォーム、印刷レポートになるかがまだうまく考えられない。
- ・ 大量のデータをまとめて表の作成やデータの計算を行う。今まで作成したデータを整理する。
- ・ データを整理し、必要時に抽出することに手間をとらないこと。

【その他】

- ・ 語学力 (英語) (7)
- ・ プレゼンスキル
- ・ パワポ等プレゼン資料作り及びプレゼン・ 教員免許に関する法律の知識
- ・ 教務系業務しか経験していないため、総務・財務系の知識
- ・ 総務に関する (人事, 給与, 社会保険等) 知識
- ・ 放射線取扱について (主任者資格)
- ・ 著作権法
- ・ 基本的な事務に必要なスキル
- ・ 初見の仕事を素早くこなすための仕事術

5. 受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

- ・ 基礎固めを行うことができ、発展した内容について自主学習する準備が出来たこと。
- ・ 落ち着いたスピードで進めていただけたので、しっかり理解することができました。
- ・ データベースの活用方法がわかり、使い易いことがわかった。あとは、設計図を上手に構築できるかの努力が必要。
- ・ 習ったことをすぐに演習で復習することができたので、よく身についたように思います。
- ・ スキルを身につけられた。
- ・ 普段の業務で役立つ。

- ・ 復習問題があることで、普段の業務を思い浮かべることができ、普段の業務に生かせるよう頑張りたいと思いました。
- ・ 自己流で人の作成したデータベースをさわっていたが、基本から学び、自分で作ってみようという気がおきた。
- ・ 集中して学ぶことができた。
- ・ Access について全く知らなかったため、どのようなもので、どのような時に使うかが分かったため、日々の業務に取り入れるかどうか検討できるようになった。
- ・ 今まで全く理解していなかった Access の仕組みが分かった。また、学内でも今まで関わりがなかった方と関わることができた。
- ・ Access が難しいというイメージがなくなり、業務に活用したいと思えたこと。
- ・ 丁寧に解説していただけたため、基本的な知識・技術を身につけることができたこと。
- ・ まだ完全に理解できているとは言えないが、積極的に Access を業務に取り入れようと思うことができた。
- ・ Access を使用することによって、今まで作った大量の Excel データをまとめ、整理できると思う。これを上手に使いこなし、表の作成やデータ管理を効率よく行いたい。
- ・ 講師の方のお話がとても聞き取りやすかった。話の内容もとても分かりやすかった。
- ・ 業務で Access のシステムを使用していたのですが、仕組みを詳しく理解していなかったので、今回教えていただいて、自分が使用中のシステムの作りについて理解できました。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

【内容】

- ・ 講師の方の説明が、ゆっくり・丁寧にとても分かりやすかったです。問題数も多く難しかったです。全部解けることができて達成感がありました。ありがとうございました。
- ・ 講習の方の説明、スピード、内容とも十分に満足です。ありがとうございました。
- ・ ゆっくりと丁寧に説明してくださり、とても分かりやすかったです。自分の理解力と PC 操作が遅くて落ち込みました。2 日間ありがとうございました。
- ・ 手順が全て書かれていたため、もう少し自分でどれを使ってつくるかなど、考えるところがあればより一人でできるようになったと思う。
- ・ テキスト他回答例がいただけると復習しやすい。
- ・ もう少し長い方が良い。
- ・ Access 初心者の中でも作業スピードにかなりの差があるため、作業が終わった方は時間を持て余していたのではないかと感じた。

【その他】

- ・ 空調が寒かった。（3）
- ・ 空気が悪かったので、時々喚起して欲しい。
- ・ テキスト代は拠出金から。
- ・ 大型連休前の 2 日間を全て研修に費やすのは、日常の業務をこなす上では時期的に大変だったので、できれば少しずつれていると助かると思いました。

SPOD研修アンケート集計結果

研修名：平成27年度「大学人・社会人としての基礎力養成プログラム研修（レベルⅡ）」
 実施日：平成27年10月14日（水）～10月15日（木）
 実施会場：愛媛大学校友会館2階 サロン
 アンケート回答者数：20名

1. 参加者ご自身について

(1) 所属先

	回答数	割合
① 4年制大学	17	85.0
② 短期大学	0	0.0
③ 高等専門学校	3	15.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

(2) 所属先の設置者

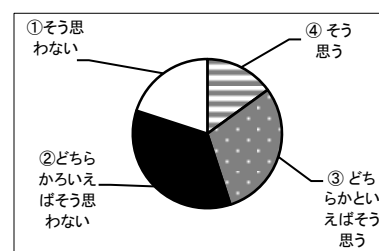
	回答数	割合
① 国（国立大学法人）	18	90.0
② 地方自治体（公立大学法人を含む）	0	0.0
③ 学校法人	2	10.0
④ その他（ ）	0	0.0
計	20	100.0

(3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキルは何ですか。（具体的に）
別紙記載

2. 研修参加への経緯について

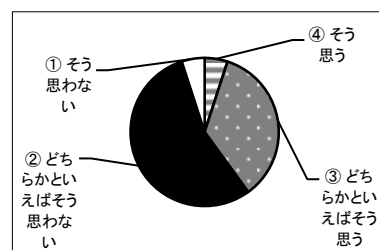
(1) 研修目的や内容についてある程度知った上で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	3	15.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	7	35.0
① そう思わない	4	20.0
計	20	100.0



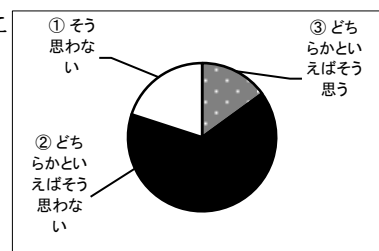
(2) 自分自身で能力開発の必要性を感じて参加した

	回答数	割合
④ そう思う	1	5.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	11	55.0
① そう思わない	1	5.0
計	20	100.0



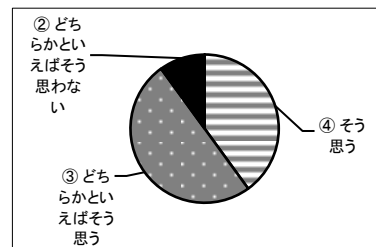
(3) 研修内容をすぐに活用しなければならない状況で参加した

	回答数	割合
④ そう思う	0	0.0
③ どちらかといえばそう思う	3	15.0
② どちらかといえばそう思わない	13	65.0
① そう思わない	4	20.0
計	20	100.0



(4) 上司はこの研修への参加を肯定的に捉えている

	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	10	50.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0

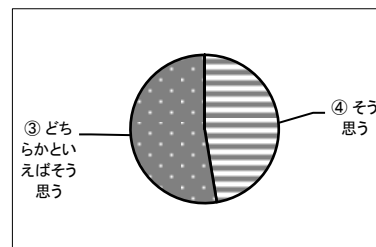


3. 研修プログラムの設計について

(1) 研修の目的は明確に設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	47.4
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

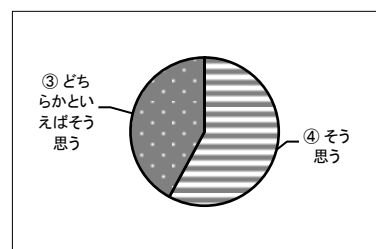
※1人未回答



(2) 研修は自分の業務に生かせる内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	11	57.9
③ どちらかといえばそう思う	8	42.1
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

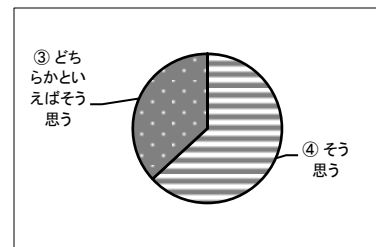
※1人未回答



(3) 研修はわかりやすい順序ですすめられた

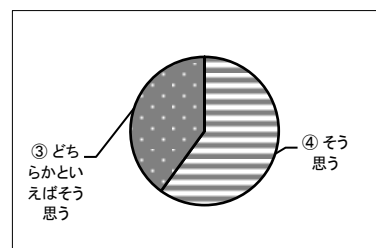
	回答数	割合
④ そう思う	12	63.2
③ どちらかといえばそう思う	7	36.8
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

※1人未回答



(4) 研修会場は快適な環境だった

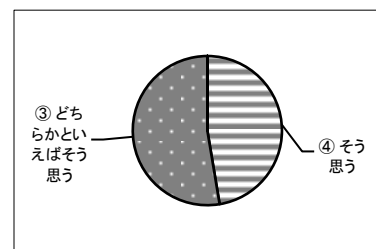
	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(5) 研修内容は丁度良いレベルに設定されていた

	回答数	割合
④ そう思う	9	47.4
③ どちらかといえばそう思う	10	52.6
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

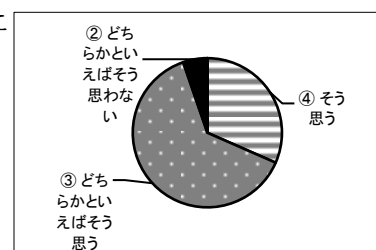
※1人未回答



(6) 研修時間は研修目的を達成するために丁度良い長さだった

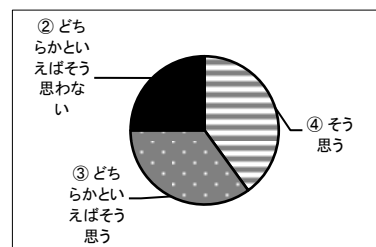
	回答数	割合
④ そう思う	6	31.6
③ どちらかといえばそう思う	12	63.2
② どちらかといえばそう思わない	1	5.3
① そう思わない	0	0.0
計	19	100.0

※1人未回答



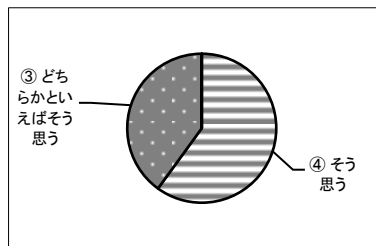
(7) 研修の実施時期は適当だった

	回答数	割合
④ そう思う	8	40.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	5	25.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



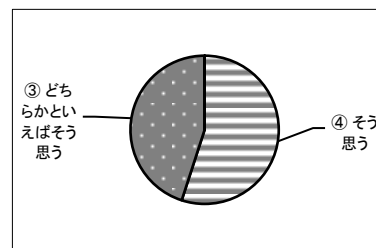
(8) 研修会場には十分な設備が整っていた

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(9) 参加者の人数は適当だった

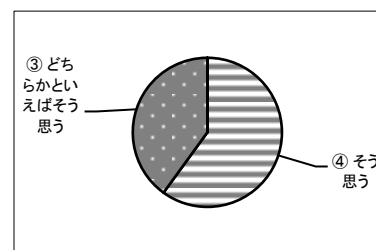
	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



4. 研修スタッフについて

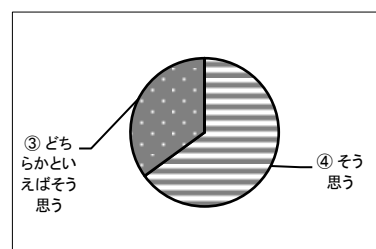
(1) 講師の言動は学習意欲を高めた

	回答数	割合
④ そう思う	12	60.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



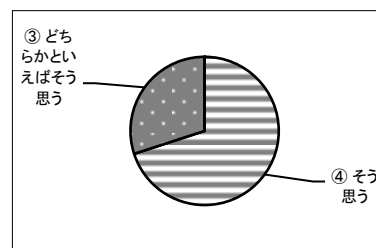
(2) 事務局は手際よく研修を運営していた

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



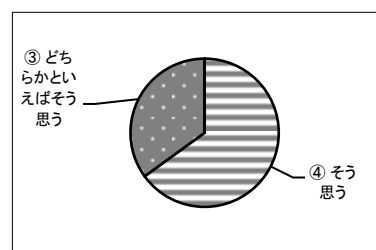
(3) 講師は研修に必要な知識を十分に持っていた

	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



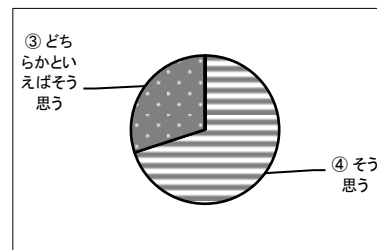
(4) 講師の用意した教材はわかりやすかった

	回答数	割合
④ そう思う	13	65.0
③ どちらかといえばそう思う	7	35.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(5) 事務局の対応は丁寧だった

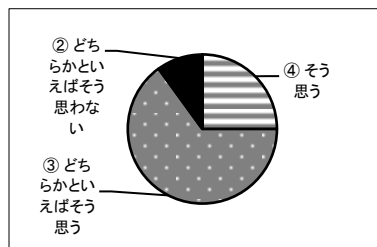
	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



5. 研修成果について

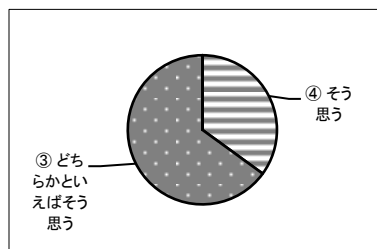
(1) 自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

	回答数	割合
④ そう思う	5	25.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



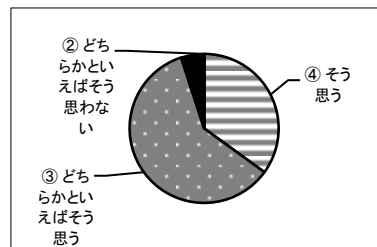
(2) 受講したことによって業務の取り組み方が改善されると思う

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



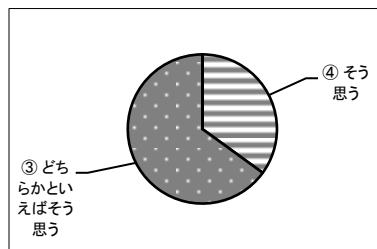
(3) 研修の内容は十分理解できた

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	12	60.0
② どちらかといえばそう思わない	1	5.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(4) 新たに人的なつながりをつくることができた

	回答数	割合
④ そう思う	7	35.0
③ どちらかといえばそう思う	13	65.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



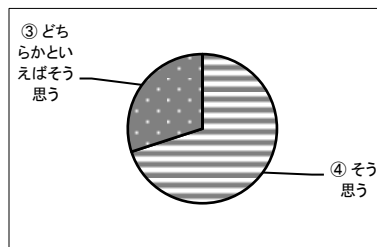
受講して良かったと思われる点を、具体的にお書きください。

別紙記載

6. 研修全体について

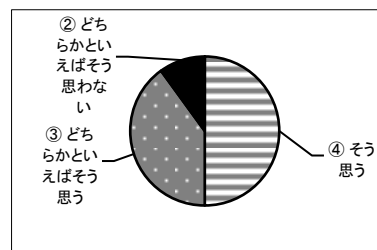
(1) 研修は全体的に満足できるものだった

	回答数	割合
④ そう思う	14	70.0
③ どちらかといえばそう思う	6	30.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



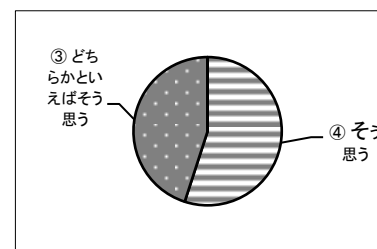
(2) 研修は期待を上回る内容だった

	回答数	割合
④ そう思う	10	50.0
③ どちらかといえばそう思う	8	40.0
② どちらかといえばそう思わない	2	10.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



(3) 今後もこの研修を継続していくべきだと思う

	回答数	割合
④ そう思う	11	55.0
③ どちらかといえばそう思う	9	45.0
② どちらかといえばそう思わない	0	0.0
① そう思わない	0	0.0
計	20	100.0



研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書きください。

別紙記載

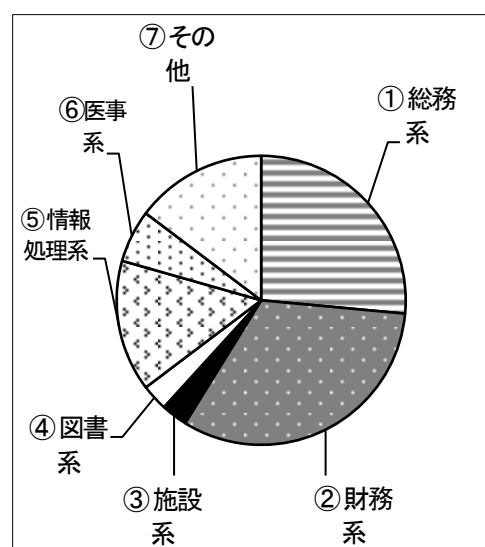
7. SPODにおけるSDプログラム開発について

今後、SPODにおいて専門職養成プログラムを開発する予定ですが、どのような分野のSDプログラムが必要だと思いますか。（複数回答可）

	回答数	割合
① 総務系	9	45.0
② 財務系	11	55.0
③ 施設系	1	5.0
④ 図書系	1	5.0
⑤ 情報処理系	5	25.0
⑥ 医事系	2	10.0
⑦ その他	5	25.0

⑦ その他

- ・クロスオーバー系
- ・学生支援
- ・障害学習支援
- ・新入職員への愛媛大学の業務ルール
- ・学務系



1 (3) 現在のあなたにとってレベルアップが必要なスキル・知識は何ですか。(具体的に)

- ・ プレゼン能力 (5)
- ・ 人前力 (3)
- ・ 業務に必要な知識を身につける (規程, マニュアルの把握) (2)
- ・ 企画力・スケジュール調整 (2)
- ・ しかるスキル・部下の育成力・報連相の環境作り (2)
- ・ 用語についての知識
- ・ マネジメント能力 (プロジェクトを管理)
- ・ コミュニケーションスキル
- ・ わかりやすく簡潔に用件を説明するスキル
- ・ 他のセクションとの交流
- ・ 財務系の専門知識 (国立大学法人会計基準, 財務会計システム等々)
- ・ システムのスキルアップ

5. 受講して良かったと思われる点を, 具体的にお書き下さい。

- ・ プロジェクトの組み方の基礎や進めていく流れが理解できた。(5)
- ・ 日々の業務に役立てていけそう。(4)
- ・ WBE を教えていただいたこと。
- ・ 今回教えて頂いたことが, 自然にできるようになれば, 最短で効率良く仕事出来るかなと思えたこと。
- ・ 空・雨・傘プロセスという有効な考え方を学ぶ事ができた。
- ・ リスクマネジメントを考えること。
- ・ 無意識に行っていることを具体的に理解できた。
- ・ 普段の自分を見直すことができた。
- ・ 全員が参加できた。

6. 研修をよりよいものとするために改善すべき点があれば, 具体的にお書き下さい。

- ・ 日程的にあと1日欲しい。
- ・ 課題の設定。
- ・ 業務の効率化・改善等につなげていけるような専門職養成プログラムを実施していただきたい。
- ・ 計画 (スケジュール) の立て方について, 実際にやってみるとか, もう少し詳しく教えて欲しかった。

平成27年9月7日

徳島大学 教職員
SPOD加盟校 教職員 各位

徳島大学FD委員会委員長
赤 池 雅 史

平成27年度徳島大学FD推進プログラム「大学教育
カンファレンス in 徳島」 研究発表者募集（ご案内）

徳島大学では、これまでのFD活動の成果を検証し、FDネットワークを充実・発展させる機会となるよう、本学や他の高等教育機関で行なわれている教育実践の先駆的な取り組みを共有し、大学教育の質的向上に向けた努力の成果を確認するための教育カンファレンスを開催します。また、今年度もSPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）の研修プログラムの一環としても実施します。教職員・学生の皆様の積極的な参加をお待ちしております。（なお、このプログラムでの発表は、徳島大学教員業績評価の際、国内学会での発表と同等の扱いとなっています。）

1. 会期・会場

会期：平成28年1月6日（水）
会場：徳島大学共通教育4号館 他

2. 主要プログラム（予定）

8:30 ~ 9:00	受付
9:00 ~ 9:15	挨拶（高石 喜久 教育担当理事）
9:15 ~ 10:00	研究発表Ⅰ（口頭発表）
10:10 ~ 11:40	APシンポジウム（反転授業）＆ワークショップ
11:55 ~ 13:15	ポスター発表（在席責任40分・交代制）
13:30 ~ 15:00	特別講演（京都大学高等教育研究開発推進センター長 飯吉 透）
15:10 ~ 16:40	APシンポジウム（アクティブ・ラーニング）＆ラウンドテーブル
16:50 ~ 18:05	研究発表Ⅱ（口頭発表）

※APシンポジウムとは、大学教育再生加速プログラムのシンポジウムです。

3. 研究発表

（1）研究発表の形式：研究発表の形式は、口頭発表、ポスター発表、ラウンドテーブルがあります。また、教育実践のためのワークショップによる発表も受け付けます。

（2）発表要件：

- ①発表者は、常勤・非常勤を問わず、SPOD加盟校に関わりのある教職員、学部学生、大学院生及び社会人。（ただし社会人については、事前審査等を行う場合があります。）
- ②発表内容の抄録原稿をA4用紙2枚（45字×45行）にまとめ、平成27年11月9日（月）までに、PDF形式に変換して提出すること。（抄録テンプレートについては、事務局より入手可能）なお、抄録は当日配付のほか、事前に大学教育カンファレンス in 徳島のホームページに掲載されます。

【発表申し込みは、別紙にて平成27年10月5日（月）までに事務局へ】

- (3) 発表内容：全学共通（教養）教育，学部専門教育，大学院教育，公開講座等の授業に関わるもの，また，職員や学生の能力開発に関わるもので，教育改善・授業改善や，職能開発に関する実践報告にとどまらず，実践成果の評価の分析，および考察を含む発表であること。

4. 研究発表の申し込み要領

「平成27年度 大学教育カンファレンス in 徳島 発表申込用紙」(Word ファイル) をインターネットからダウンロードの上 (<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/>)，必要事項を入力し，大学教育カンファレンス in 徳島事務局宛に E-mail の添付ファイルでお送りください。発表申し込みの〆切は平成27年10月5日(月)です。なお，連名発表の場合は，第1発表者の方のみお申し込みください。また，一連発表の場合は，その旨を明記してください。

5. お問い合わせ・連絡先

大学教育カンファレンス in 徳島事務局

〒徳島市新蔵町2丁目24番地 徳島大学学務部教育支援課教育企画室教育企画係内

TEL: 088-656-7686 FAX: 088-656-7688 (内線: 7115)

E-mail: kykikakuk@tokushima-u.ac.jp

6. 主 催

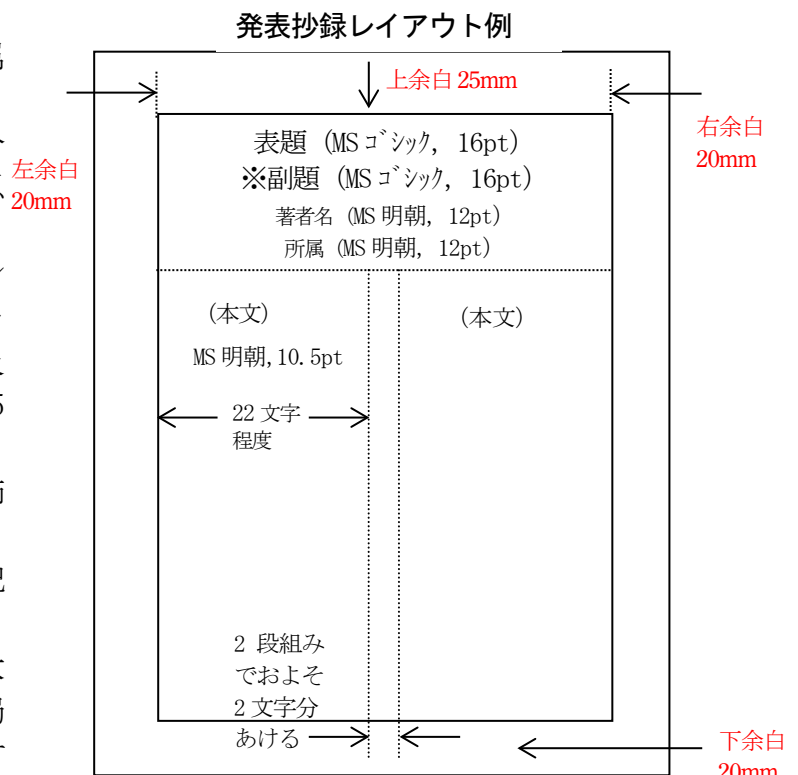
徳島大学FD委員会

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

※抄録原稿の体裁について

(抄録テンプレートは<http://www.cue.tokushima-u.ac.jp/fd/> からダウンロードできます。)

- (1) 原稿の1枚目に，表題，著者名，所属を記載する。
- (2) 1頁1,800文字程度(図表が入る場合はこの限りではない)でA4用紙2頁以内とする。
- (3) 本文の文字は，MS 明朝体 10.5 ポイントを使用する。タイトルは，MS ゴシック体 16 ポイント，章節項等の見出し及びキーワードは，MS ゴシック体 10.5 ポイントを使用する。
- (4) 本文は，原則として2段組とし，章節項等の見出しの上は1行空ける。また，本文は，見出しの後に行を空けずに記述する。
- (5) 原稿は，必ずPDF形式に変換して，大学教育カンファレンス in 徳島事務局まで E-mail の添付ファイルで提出する。



平成27年度 FD推進プログラム 大学教育カンファレンス in 徳島

2016年 **1月6日(水)** **9:00~18:05**
(8:30受付開始)

受付：徳島大学 共通教育4号館 2階ホール
会場：徳島大学 共通教育4号館 等

**参加費
無料**

※情報交換会ご出席の方は
会費が3,000円
となります。

主要プログラム

午前

■開会挨拶 9:00~9:15

■研究発表

●口頭発表 9件/ 9:15~10:00

●ワークショップ 2件/10:10~11:40

アクティブラーニングを取り入れた
自律英語学習支援について
ーオリジナルな英語学習方法について考えようー

アクティブからパフォーマンス型へ
ー身体とこえとことばを体験するー

午後

●ポスター発表 13件/11:55~13:15

●口頭発表 10件/16:50~18:05

※カンファレンス終了後に情報交換会を行います。

■特別講演 13:30~15:00

ICTを利用した効果的な 教育・学習のための授業設計と実践

講師 **飯吉 透先生** 京都大学高等教育
研究開発推進センター長 教授

ICTの活用によって、より多様で柔軟な教育・学習を可能にするような
新たな教育方法、学習環境、効果的な授業設計と実践のあり方について、
具体的な事例を通して概観・考察し、さらにこれからの教育システム
や社会の姿とその可能性を予見します。

APシンポジウム(反転授業) 10:10~11:40 午前

●「反転授業」をやってみたー2014年からの実践を通してー

APシンポジウム(アクティブ・ラーニング) & ラウンドテーブル 15:10~16:40 午後

- プロサッカーチームを活用した実践事例
- アクティブ・ラーニングを通じた政策コンペティションの実践
- 職場巡視体験演習を通じた看護大学生の学び
- ラーニング・マネジメント・システムを活用した反転授業の工夫

※APとは大学教育再生加速プログラムのことです。

参加方法

どなたでもご参加いただけます。
当日直接会場へお越しいただき、
受付をしてください。

お問い合わせ

徳島大学学務部教育支援課教育企画室
大学教育カンファレンスin徳島事務局
〒770-8501 徳島市新蔵町2-24
TEL088-656-7686
E-mail:kykikakuk@tokushima-u.ac.jp
http://www.tokushima-u.ac.jp/cue/fd/

[アクセス]

- 徒歩の場合——30分
 - バス利用の場合——20分
- 徳島駅前より徳島市営バス「島田石橋」行、
「商業高校」行他に乗車し、「助任橋」又は
「徳島大学前」又は「徳島大学南」下車徒歩5分



平成27年度 大学教育カンファレンス in 徳島 プログラム

会期：2016年1月6日(水) 会場：徳島大学共通教育4号館 等

9:00－ 9:15	副学長挨拶 高石 喜久 <共通教育4号館202講義室> 司会：赤池雅史		
9:15 10:00	口頭発表A ①Jリーグチームをフィールドとした体験学習プログラムのジェネリックスキル評価 ②ジェネリックスキル育成の試行と検証 ③阿南高専におけるAP事業の取組状況報告ーコンピテンシー育成と学修成果の可視化ー	口頭発表B ①学生と図書館職員の協働による学習支援の実績と将来展望～学びサポート企画部のこれまでとこれから～ ②ロケットプロジェクトを通して得られたこと ③先行研究を活かしたたたらプロジェクトの取り組み	口頭発表C ①中学・高校への化学実験出張講義におけるティーチングアシスタントの役割と継続的改善 ②社会人および大学院生を対象とした危機管理人材養成プログラムの実践 ③化学応用工学科学部生の大学院進学に関する意識
10:10 11:40	ワークショップA ■アクティブラーニングを取り入れた自律英語学習支援について ーオリジナルな英語学習方法について考えようー	ワークショップB ■アクティブからパフォーマティブラーニングへ ー身体とこえとことばを体験するー	APシンポジウム(反転授業) ■「反転授業」をやってみた ー2014年からの実践を通してー
11:55 13:15	ポスター発表 ①高大接続科目・数学から見える学生の学習状況 ②東日本大震災から学ぶ、防災教育の実態とあり方～福島と徳島における放射線教育についての調査報告を含めて～ ③色覚特性者に関する予備調査の結果と光応用工学から教育工学に対して可能な提案 ④公開講座におけるプロトタイピング手法を用いた体験型教育の実践 ⑤ゲーム開発によって向上する能力を考察 ⑥アカデミック・ポートフォリオ作成ワークショップに関する一考察 ⑦臨床実習での技能トレーニングにおける反転授業の効果 ⑧ICT活用教育を目指したLMS導入初年次の取組 ⑨大人数制キャリア教育における効果的手法の開発と検証ーアクティブ・ラーニングによる社会人基礎力の育成ー ⑩コンピテンシー育成を意識した授業実践 ⑪共通教育課程における留年のリスクファクターに関する研究 ⑫映画を活用した授業実践ージェネリックスキルの育成に向けてー ⑬基礎物理学講義のFCIによる評価		
13:30 15:00	特別講演 演題: ICTを利用した効果的な教育・学習のための授業設計と実践 司会：川野卓二 <4号館201講義室> 講師：飯吉 透先生 (京都大学高等教育研究開発推進センター長 教授)		
15:10 16:40	APシンポジウム(アクティブ・ラーニング) & ラウンドテーブル ■プロサッカーチームを活用した実践事例 ■職場巡視体験演習を通じた看護大学生の学び ■アクティブ・ラーニングを通じた政策コンペティションの実践 ■ラーニング・マネジメント・システムを活用した反転授業の工夫		
16:50 18:05	口頭発表D ①初年次教育でラーニングスキル、ティーチングスキルの向上を目指した組織的取り組みー「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の実施ー ②学生アンケートに基づく初年次教育プログラムの現状と課題ー「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」の取組 ③アクティブラーニングのステップアップとしての協働学習ーフォーラム・シアターの実践を通してー ④卒業研究の教育改善を目指した取組みについて ⑤共通教育における持続可能な社会を目指す体験型学習	口頭発表E ①燃料電池の製作と改良 ②コイルガンの変換効率向上に向けての研究と成果 ③教学IRデータをいかに可視化するかー愛媛大学の事例を通じてー ④徳島大学における授業コンサルティングの成果と課題 ⑤徳島大学における「科目ナンバリング・システム」作成の試みと今後の展望	

18:30～20:30 情報交流会 <クレア(第2食堂)>

平成27年度愛媛大学教育改革シンポジウム実施要項

■ 目的

愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせるため、愛媛大学教育改革促進事業採択課題の進捗状況及び成果を含め、学内外で評価されている本学の教育改革の取組について、広く公表し、教育内容・方法の改善に関する理解を深める。

■ 日時 平成28年3月4日(金) 13:30～15:50

■ 場所 法文学部2号館

- ・事例発表 : 3階 305講義室
- ・ポスターセッション : 2階 第一会議室

■ プログラム

1. 愛媛大学の教育改革について【13:30～13:40】(10分)

※平成28年度愛大GP特別テーマ及び教育コーディネーター研修会のテーマも併せて説明

2. 学内の教育改革の事例報告【13:40～14:40】

- ①社会共創学部(20分)
- ②法文学部(10分)
- ③教育学部(10分)
- ④農学部 (10分)
- ⑤質疑応答(10分)

(休憩及び会場移動)

3. 愛媛大学教育改革促進事業採択取組の実施総括(ポスターセッション)【14:50～15:50】

ポスターによる発表、参加者との質疑応答を通じ、発表者・参加者双方が教育内容・方法の改善に関する理解を深める。また、学生や一般参加者に対しても、愛媛大学の教育改革の現状を広く知らせる。

- ・26年度採択グループ(17件)においては、2年間の実績報告
- ・27年度採択グループ(6件)においては、1年間の中間報告

■ 参加対象者 学部長, 教育コーディネーター, 一般教職員, 学生, その他一般

「学生主体」の授業デザインワークショップ（基礎編）実施要項**1. 主 催**

高知大学 大学教育創造センター

本ワークショップは『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク (SPOD)』事業の一環である。

2. 日 程

平成28年 3月28日（月） 10時00分～17時30分

3. 場 所

高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館310番教室

4. 対象者

- 1) 高知大学教職員
- 2) SPOD加盟校教職員

5. 定 員

30名

6. 目 的

教員の「何を教えたか」ではなく、学生たちが「何を学んだか」に注目した能動的な学習（アクティブ・ラーニング）を授業に導入するための、基本的な知識と技法について学びます。これまでの講義法ではなく、学生参加型の主体的な授業であるアクティブラーニングをどのように授業内で仕掛けて、学生の主体的な学びをデザインするかについて、実際に自ら参加し体験しながら学ぶことで、理解を深めていきます。新年度が始まりすぐに使えるアクティブラーニングの知識と技法の獲得を目指します。

7. 目 標

- 1) 学修効果が高まる学習方法の理論を理解する
- 2) 効果的なオープニングとクロージング方法の実践案を見出す
- 3) 学生の授業への自主的な参画を促進する手法を検討し、実践案を見出す

8. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる専門分野の教員が、普段着で対等な意見交換をすることで、学修効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

9. その他

- 1) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 2) ご都合により参加できなくなる場合は、1週間前までに必ずご連絡ください。
- 3) 当日、カメラでの撮影を行いますので了承ください。
- 4) 事後にアンケートをお願いすることになりますのでご協力お願いいたします。

10. お申し込み・問い合わせ

以下の項目をご回答の上、申し込み先にご連絡ください。

※高知大学以外の方は所属大学の担当窓口にお申し込み下さい。

- 1) お名前（氏名・ふりがな）
- 2) ご所属（学部、機構、センター等）
- 3) メールアドレス
- 4) 電話番号

<高知大学申し込み・問い合わせ先>

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp TEL : (088)844-8144

「学生主体」の授業デザインワークショップ（応用編）実施要項（案）

1. 主 催

高知大学 大学教育創造センター

本ワークショップは『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)』事業の一環である。

2. 日 程

平成28年 3月29日(火) 10時～16時

3. 場 所

高知大学朝倉キャンパス 共通教育棟3号館310番教室

4. 対象者

- 1) 高知大学教職員
- 2) SPOD加盟校教職員

5. 定 員

30名

6. 目 的

専門性の高い内容を教授する授業を能動的な授業に設計し、実践するために必要となる教授に関わる知識と技術を学びます。専門的な内容の授業は、知識をインプットすることに偏りがちで、一方的な講義スタイルしかできないという考えの枠を広げて、参加者主体の学習に仕掛けることができる具体的な授業デザイン手法について、実際に体験し、その手法の知識と背景になる考え方、技法を獲得します。

また、脳科学的な側面から学生たちに提供する学習環境と授業デザインについても、最新の知見から、「理解」「記憶」から考える授業づくりについて考え方と技法を獲得します。

7. 目 標

- 1) 専門的な内容の授業づくりにおいて、学生の能動的な学びを仕掛けることができるようになる
- 2) 参加者主体の学びにするための授業方法を獲得し、実践できるようになる
- 3) 学生参加型のグループワークを、自らの授業で導入することができるようになる
- 4) 学生たちの「理解」「記憶」の側面から考えた学習環境と授業デザインについて理解することができる

8. 研修形態

- 1) 体験型研修です。複数のセッションに分かれて、ミニ講義とグループ作業を繰り返します。
- 2) 異なる専門分野の教員が、普段着で対等な意見交換をすることで、学修効果を高めます。
- 3) 研修自体がグループ学習形式であり、学生参加型授業を体験します。

9. その他

- 1) 研修が長時間に渡りますので、普段着でお越しください。
- 2) ご都合により参加できなくなる場合は、1週間前までに必ずご連絡ください。
- 3) 当日、カメラでの撮影を行いますので了承ください。
- 4) 事後にアンケートをお願いすることになりますのでご協力お願いいたします。

10. お申し込み・問い合わせ

以下の項目をご回答の上、申し込み先にご連絡ください。

※高知大学以外の方は所属大学の担当窓口にお申し込み下さい。

- 1) お名前（氏名・ふりがな）
- 2) ご所属（学部、機構、センター等）
- 3) メールアドレス
- 4) 電話番号

<高知大学申し込み・問い合わせ先>

E-mail : y-spod@kochi-u.ac.jp TEL : (088)844-8144

SPODの将来構想案について

長期的方針 ※～平成35年度

1. SPODという名称は継続的に使用する
能力開発の地域ネットワークのリーダーとしてプレゼンスを高めていく
2. SPODフォーラムを国内最高の教職員研修の機会にする
既存のFD・SDプログラムをフォーラムに集約する
ポスターセッションなどの相互研修機能を強化する
3. SDの取り組みを発展させる
SD義務化などの政策へ対応する
SDのプログラムおよび教材を開発する
講師派遣事業を行う
4. FDの取り組みは焦点化して取り組む
SPODフォーラムにおいて多様なFDを提供する
各加盟校でのFD担当者の養成を支援する
加盟校で実施するプログラムを公開する
5. 持続可能なSPODの組織体制を構築する
各加盟校のFD, SD戦略に組み込む
長期的にSPODフォーラムの開催校を確定する
安定的な財政基盤を維持する

中期的方針（リーフレット改訂を含む） ※～平成29年度

FD・SD共通

- FS-1 SPODフォーラムの開催
- FS-2 コンサルティング・講師派遣事業
- FS-3 FD・SDに関する調査研究
- FS-4 情報提供サービス

FD

- F-1 FD担当者の養成
- F-2 新任教員研修の実施、公開
- F-3 ティーチングポートフォリオ研修
- F-4 各加盟校におけるプログラムの公開

SD

- S-1 SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施
- S-2 次世代リーダー養成プログラムの実施
- S-3 SD講師養成によるSPOD-SDの継続的な実施
- S-4 SPOD-SDCの輩出

S－1 SDプログラムの体系的・段階的・継続的实施

- (a) 大学人・社会人としての基礎力養成プログラムの実施
職務遂行力（テクニカルスキル）、人間力（ヒューマンスキル）、管理・運営力（マネジメントスキル）、等を養成するプログラム
- (b) 職務別能力養成プログラムの実施
学務系職員，社会連携系職員，国際連携系職員，等に必要な能力を養成するプログラム

S－2 次世代リーダー養成プログラムの実施

次代のトップリーダーとして大学等の経営を担うために必要な「理論」「技能」「態度」を段階的に学び・修得する 140 時間を超える総合研修プログラム

S－3 SD講師養成によるSPOD-SDの継続的な実施

自律（立）的運営を目指し，SPOD-SDプログラムにより知識・技能・態度を身につけた職員自らが，次のSPOD-SDプログラムの講師となるサイクルの確立

S－4 SPOD-SDCの輩出

自大学のSD活動を振り返り，強みと課題を理解したうえで，新しい情報や他者からの助言を参考に課題の解決策を見出せるSDの実践的指導者（SDコーディネーター／SDC）の養成